

デンマークGAP大会特集

UFO

SINCE 1961
GAP-JAPAN NEWSLETTER

UFO/超能力/宇宙哲学
コンタクティー

contactee

アダムスキー問題と日本GAP

SPRING
1991

宇宙人の遺体はロボットだった!
高度に進化した金星人の実態
(写真)金星の不思議なスジ模様
青森県に頻発するUFO出現事件

UFO-宇宙からの完全な証拠

112



〈巻頭言〉 金星の写真	1
アダムスキー問題と日本GAP	2
宇宙人の遺体はロボットだった!	12
高度に進化した金星人の実態(完)	16
〈写真〉 金星の不思議なスジ模様	18
青森県に頻発するUFO出現事件	20
〈写真〉 冠岳のUFO	25
1990年度日本GAP総会、盛況	28
GAP短信	30
〈予告〉 全国ネットワークUFO観測会	31
科学-SCIENCE	32
〈予告〉 1991年度海外研修旅行	35
アダムスキーの宇宙哲学に感動	36
〈報告〉 第3回秋田・青森合同支部大会	37
UFO-宇宙からの完全な証拠(連載第14回)	38
〈投稿欄〉 ユーコン広場	45
〈予告〉 第12回山形・仙台合同支部大会	47
本誌/バックナンバー掲載記事目録	48
英文版ユーコンNo.6/編集後記	49
〈広告〉 新アダムスキー全集	50
日本GAP全国月例研究会案内	52



◀ 金星からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2個の図形の内、左側は宇宙の女性原理(陽)、右側は母性原理(陰)を意味する。円は宇宙をあらわしている。

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

表紙写真

1967年7月3日、米ニュージャージー州でジョセフ・L・フェリー氏撮影した葉巻型UFO。長さは30メートルという。

《巻頭言》

金星の写真



惑星探査機マゼランが奇妙きてつな写真を送ってよこした。本号一八九ページに掲載した『金星の不思議なスジ模様』である。評判のわるいNASA（米航空宇宙局）といえどもこんなものを合成写真で偽造するようなどことはしないだろう。とすれば、やはり本物の金星地表だろうか。

編者がロイターから入手した写真に添付しているNASAによるキャプション（説明）によると、これは金星のラクシュミ地域と名づけられている地帯（この名称は地球の科学者の命名に

よる）を撮影した写真で、このタイプの地形はかつて金星はおろか他の惑星群にも見られなかったものだといふ。人工的な植物の栽培地域を示すのか、それとも全く自然に形成されたものか、なんとも理解しがたい様相を呈している。真相は一体何か？

詮索する前に一つ重要な事をあげる必要がある。NASAは近來大気圏外の探査に関する極端な隠蔽工作のタガをゆるめてきた形跡があるという点だ。その理由は言うまでもなくソ連との雪解け現象にある。米ソ冷戦に終止符が

打たれた現在、軍事機密となっていた宇宙開発の諸問題は今後少しずつ漏洩される方向に向かいつつあるとみてよいだろう。一九六〇年前半にアメリカが打ち上げた金星探査機マリナー群によって、米当局は金星に大文明が存在することを突き止めたとアダムスキーは言明している。当時、日本の新聞にも全米科学促進協会の重鎮が「金星は温暖な気候であることが分かった。フロリダ州のようであるかもしれない」と述べた短い記事が出たのを編者は記憶しているが、まもなくそれを否定するような米政府筋の見解が報道されて、それぎり金星は摂氏四百数十度の焦熱地獄の惑星ということになってしまった。

宇宙問題に関して何かの陰湿な政治工作または陰謀が渦巻いてきたことは否定できない。日本で放映された宇宙開発のテレビ画面でも、月面に到達したアーウィン宇宙飛行士が「月面上空にUFOが出現したのを見た」と英語で一言述べた部分が日本語字幕に出てこないぐらいだから、まして本場アメリカのNASA当局が凄まじい策謀を弄していることは想像に難くない。NASAに入入りしていた日本人Aさんの話によると、ジェット推進研究所の建物内には、一般職員や民間人が絶対に入れない禁断の部屋があるという。ここで如何なる機密事項が処理されているかは誰にも分からない。

現在世界でUFO問題はひどく混乱している。ミステリーサークルをめぐる論争が渦巻いているが、この原因についてはかねてから人工的なものという印象が強かったために本誌では全く取り上げなかった。結果的には本号『科学』欄の記事のとおりである。一〇割方悪戯だとは言えないだろうが、大部分は写真を見てそれと分かる。だが、一つ言えることは、多数のトリックが横行する一方、真実も確実に存在するという点である。科学的な検証による実態だけは厳然として残るので、その真相を探りだして把握すればよいのだが、そのためには人間関係の醜悪な壁に突き当たることがある。したがってUFO研究というのは実際には人間同士の闘争である。

したがって、この闘争にはまらぬように警戒することがUFO研究の土台をなすのであって、超然たる態度が要求されるのだが、この世界は蛇の穴のような場所なので、独立自尊の精神を発揮するのは時として困難である。そのような低次元な争いは我々の好む所ではない。UFO問題は世界をひっくり返すほどの重大な意義を含んでいると思われるので、自己の信念に従って黙々堂々と研究活動を展開するのみである。

話を元に戻すと、例の金星の不思議なスジ模様の正体について超能力者のE君に意見を聞いてみたら、植物の印

象を強く受けると言っていた。弱い方の光のスジとスジのあいだに植林が何かの大森林地帯があるのではないかという。当代屈指の超能力者といわれる秋山眞人氏の透視でも、やはり人工的な何かの地帯であるという。しかし本号32頁に掲載してある金星の七つのドームの写真の方がもっと強く人工的な波動を放射していると氏は手をかざしながら言っていた。

氏の超能力については定評があるけれども、難病患者を遠隔思念によって治している事実はほとんど知られていない。しかも謝礼抜きである。氏の超能力を否定する人でも不治の病にとりつかれた場合、もし本人が依頼すれば氏は無報酬で治療するだろう。ペルナデットの奇跡を嘲笑した男がガンになつて、鉄格子につかまりながら虚ろな目で聖泉を見つめていた昔の映画を思い出す。価値観を変えて泉につかれれば治ったかもしれないのに、まだ半分、疑惑があったのだ。

大自然の中に、そして人間の体内にも『未知なるもの』は無尽蔵に隠されている。その驚異に打たれて瞠目すれば、とても論争どころではない。

ともあれ人間の内部にまだ謎の超絶的な力が潜在していることは多数の現象や実験で判明している。既知の科学の物差しで解決不可能な事象を『非科学的』のレッテルで否定することはほとんど無価値な解決法はないのだ。（久）

Denmark Beautiful by Hachiro Kubota

アダムスキー問題と日本GAP

●久保田八郎

デンマークGAP大会の講演、盛況

去る一〇月一七日、デンマーク・コリン市のスカンディックホテル大ホールで開催されたデンマークGAP大会で、日本GAP久保田会長が招待講演を行ない、約一五〇名の聴衆に多大の感銘を与えて大成功を収めた。

大会は夕方七時半より開始。まずデンマークGAP会長イブ・ラウルン氏による挨拶と紹介のあと、元デンマークGAP創立者でアダムスキーと親交のあったハンス・ピーターセン氏の久保田会長に対する紹介が続いて、会長が登壇し、約一時間にわたって表題どおりの講演を行なった。つづいて質疑応答に入り、三名の参会者が質問し、会長が回答。三〇分の休憩後、スライド映写に移り、会長が持参したスライド八三点を映写し、各画面を説明して、一〇時半に意義深い大会が終了、聴衆は日本GAPの高度な活動に驚嘆した。

久保田会長の講演その他はすべて英語で行なわれ、これを会長の盟友ピーターセン氏が通訳してデンマーク語で伝えた。以下は講演の日本語訳全文。

日本GAP創立の端緒

皆さん今晚は。ただ今ご紹介にあずかりました日本GAPの久保田であります。本日はこの素晴らしい大会にご招待にあずかりまして心から御礼を申

し上げます。

デンマークGAPはいま私の通訳をやっておりますハンス・ピーターセン氏によって一九五七年にSUFOIとして設立されたのが始まりです。その後彼は一九五八年にジョージ・アダム

スキーに会って、アダムスキーの体験が真実であったとの確信を深めました。現在デンマークGAPはイブ・ラウルン氏によって運営されています。そして世界三大GAPのなかで最も古いグループとして活動を続けていますことをお喜び致します。

一方、私がアダムスキーの最初の書物に出会いましたのは一九五四年の九月でありました。当時私は日本の島根県の益田という田舎町に住んでおりまして教員をやっておりました。ある日、書店でアダムスキーの『Flying Saucers Have Landed』の日本語版『空飛ぶ円盤実見記』を見つけて何気なく読んでみましたとき、飛び上がらんばかりに驚いて、「これは真実そのものが書いてあるのだ!」という印象を受けました。それからというもの、三日三晩興奮して眠れなかったことを覚えています。

それですぐにアダムスキーに手紙を出しました。しかしなかなか返事が来ません。ほとんど忘れかけていた頃の半年後に彼からの返事が来たのです。

それは非常に丁寧な文面でありましたので、私は「この人は真実を語る人なのだ」と確信し、それ以来、彼とずいぶん文通を続けました。そして一九六一年に彼の要請によって日本GAPを設立しました。私はアダムスキーに会ったことはありません。しかし彼は多数の書簡によって私に宇宙的な人間になるための指針を示してくれました。彼こそは私にとって最大の恩人であり、また今世紀における最大の偉人の一人であったと私は見えています。

スペースビーブルは活動した

アダムスキー存命中はいわゆるGAPと呼ばれるネットワークが十数カ国に渡って設立されていきました。ここにいるハンス・ピーターセン氏は当時まだ若くて（私と同年なのですが）国際GAP網の中心人物として活動を続けておりました。当時彼は空軍大尉だっただけです。ついにながら私も第二次世界大戦の末期には日本空軍に所属して爆撃機基地におりました。しかしパイロットではなくて整備兵でした。



▲上は講演中の久保田会長。

撮影／清水 正



だから私は死なずに生き延びたのです。とにかく一九五〇年代後半と六〇年代前半が国際GAPの活動が最も活発であった頃で、この一〇年間はスペース・ビーブル（別な惑星の人達）の対地球活動の最も活発な時期であったろうと思います。もちろん現在もスペース・ビーブルは地球を援助するためにひそかに活動を続けています。だからこそ今でも世界各地にUFOが出現するのです。

は、まず第一に彼の書物が世界的に出なくなつたことと、第二に米ソの惑星探査機による調査の結果、太陽系の地球以外の惑星には知的生命は存在しないことが分かつたというような情報が出てしまつたために、世界中の人々がほとんど一〇〇パーセントそのように信じてしまつたからです。現在、日本でも大部分の人が、やはりそのような信じています。ですから率直に言つて、日本におけるGAP活動はそれほど急速に拡大しません。

日本にもコンタクティーはいる

アダムスキの主張は間違つていた

のでしようか。答えは「ノウ」です。彼の書物に書かれた太陽系の別な惑星群に関する実態は完璧に真実であつたのです。このことは日本人のコンタクティーで金星や水星へ行つてきた春川正一という青年も証言しています。春川氏は私の親友ですから、私は彼がいかなる人物であるかをよく知つていますが、彼は非常に誠実な人であつて、決して作り事を言うような人ではありません。また彼は凄く超能力者であり、多くの書物を書いたり、テレビにも度々出演したりして日本では有名な人物になつています。ただし春川正一というのは匿名であつて、本名は違ひますが、多くの人は本名を知つています。これは公然たる秘密になつてゐるのです。

日本ではスペース・ビーブルとコンタクトしている人が現在一四〇名ぐらいいると聞いています。しかしいづれのコンタクティーも自分の体験を絶対にしゃべりません。春川氏は例外です。私は彼の体験を日本GAPの機関誌「UFO contactee」に連載したことがあります。それは後に単行本になつて出ました。

なぜ米ソ政府は真相を隠すのか

話を元にもどしましょう。アダムスキによれば私達の太陽系には全部で一二個の惑星があり、しかもその全部の惑星に人間が住んでおり、偉大な文

明が栄えているということです。そしてアメリカとソ連政府の少数の高官はその事をよく知つてゐるのですけれども極秘にしているのだとアダムスキは言つていました。私が約一〇年前にアメリカで或るアダムスキ研究者から聞いた話によりますと、米政府は地球以外の惑星に進歩した人間が住んでいることを知つて知り抜いてゐるけれども、現状ではどうしようもないのだとアメリカの官憲が言つていたということです。

なぜ彼らは別な惑星群の真相を隠そうとするのでしょうか？ 答えは非常に簡単です。もし米政府がまたはソ連政府が「地球以外の惑星に偉大な人類が住んでいる」と公表しようものなら、世界中で物凄いパニックが生じ、大混乱が発生するでしょう。その結果、到るところで暴動が起こり、ついには大戦争になるかもしれません。そのことを両方の政府はよくわきまえてゐるからこそ、他の惑星の真相を秘密にしていると思われまふ。

ご承知のように、地球という世界は非常に複雑です。アメリカの大統領が風邪をひいたぐらいで株価の変動が生じるのですから、ましてや万人が知らなかつた別の惑星群の真相を正式に発表しようものなら、価値観の変換、学者の権威の失墜、教育システムの大混乱で收拾のつかない状態になるでしょう。今は米ソの冷戦が終わり、軍縮の

機運が生じてきたところです。したがって米ソは太陽系の実態については、しばらく公表しないほうがよいかもしれません。

正確な知識を持つ必要がある

しかし人間はいつまでも盲目であってはなりません。向上するためには正しいインフォメーションを持つ必要があります。正しい知識こそは人間を成長させる原動力です。しかし間違った知識を持つならば、人間は非常にゆがめられた方向へ進んで行くことは第二

▲ジョージ・アダムスキー。



次大戦でヒトラーがヨーロッパ諸国に対してとった態度、または日本軍部の欧米諸国に対して起こした考え方を、政府は英米の戦力をあまりにも過小評価しており、それらの国力の実態について間違った知識を持っていた。だからあのような無謀な大戦争を始めたのです。そのために日本人の二二〇万人が死んでいます。

UFO問題にしても同じことが言えます。現在、世界中の人がUFOの実態についてほとんど知っていません。

その結果、多くの人がUFOに対して恐怖心を持っています。あるいはUFOなるものを心霊的とみなしたり、四次元世界から来るものとみなしたり、別な惑星から侵略に来るのだと思ったりして、非常に間違った知識にとらわれてしまい、そのために目を宇宙の方向へ向けることが出来なくなっています。これでは地球自体の発展は望めないうでしょう。

自分の目で目撃すること

私自身は過去にUFOを延べ数百回目撃しています。こんなことを言えば信じない人があるかもしれませんが、事実だから仕方がありません。私の場合はUFOを偶然に見るのではなく、テレパシーで上空に呼びかけるのです。するとUFOが出現します。ときにはこの世のものとは思えぬほどのすさまじいUFO現象を見たことも何度かあります。ですからUFO現象は絶対に存在すると断言できます。そしてUFOなるものは私達の太陽系の別な惑星群から来る驚異的な宇宙船であると断言することもできます。

「別な惑星から来る宇宙船だ」という証拠を見せよ」と言う人があるかもしれませんが、UFOに関する限りでは、自分の目でUFOを目撃することが唯一の証拠になります。それ以外に物的証拠になるものは今のところ存在しません。なぜなら「これがUFOだ」と

言って見本を展示することは不可能であるからです。

テレパシー能力が重要

さきほどテレパシーの話を出しましたが、地球人の欠陥の一つは、テレパシクな直感力に欠けるという点にあるとアダムスキーは言っています。ですから地球人は何かの物事の真相を知るために証拠物件を見たりします。そして証拠のないことは信じられないと言います。これは地球人がテレパシー能力を持たないからです。アダムスキーによりまると、地球以外の惑星群の人達はみなテレパシーの達人だということです。これについては私に一つの体験があります。

ずっと以前、私がパチカンのサンピエトロ大寺院に行きましたとき、黒い僧服を着た一人の金星人に会いましたが、彼は私がやって来るのを明らかに事前に知っていて、待ち受けていました。テレパシーかまたは遠隔透視によって知っていたのです。その他にもスペースビープルのこうしたハッとさせるような振る舞いを見たことが何度かあります。

そこで、アダムスキーの哲学を持ち出す必要があります。彼は生前に宇宙的な体験記を三点と、哲学に関する書を三点出しました。それらは「テレパシー、すなわち宇宙語」「宇宙哲学」「生命の科学」です。これらはみな重要

な書物ばかりですが、特に『テレパシー』では人間がテレパシー能力を開発する方法を具体的に述べています。

私達地球人がテレパシー能力を持たない限り、この世界は良くならないでしょう。なぜならば物理的証拠がない限り信じられないというのでは、万物や万人を容易に信ずることが出来ないからです。昔、鉄血宰相といわれたビスマルクは、「自分は今や誰をも、皇帝をも信ずることが出来なくなつてしまつた。自分が信用できるのは妻だけだ」という悲痛な言葉を残しました。これは地球上の万人に対する悲痛な言葉でもあります。

ところが、もし地球人がテレパシーの能力を持つようになれば疑惑は解消します。テレパシクな感知力によつて物事の真相が直感的に分かるからです。アダムスキーはこのことをイヤというほど力説し、地球人がテレパシクな人類になることを勧めているのです。これこそイエスの言う「見なくても信ずることの出来る人は幸いである」という言葉にあてはまります。

もう一つはアダムスキーが力説していることで、「万事は宇宙の意識で支えられているので、人間は心だけに頼らないで、自分の内部の宇宙の意識と一体化するべきである」というのがあります。ところが、これもほとんどの地球人が気づいていないことなのでして、「地球人はみな心だけで生きているか

らテレパシクになれないのだ」ということになります。人間の内部に存在する宇宙の意識は、あらゆる事を知っているのだから、宇宙の意識と一体化するならば、あらゆる事を宇宙の意識が教えてくれるのだ、というのがアダムスキーの理論です。

以上の事柄はアダムスキー独特の哲学ではありません。昔から東洋のある種の哲学で唱えられていたことです。しかし実践は難しい事でした。東洋人特に日本人はテレパシクな民族であるといふ言われますが、それは昔のこととして、残念ながら現在の日本人はさほどテレパシクではありません。これは近代の物質文明の影響を受けた結果だろうと思います。

テレパシー能力は誰でも開発出来る

しかしテレパシー能力は練習次第で誰にも開発出来るのです。その練習法はアダムスキーの『テレパシー』（日本語版では『超能力開発法』と題して中央アト出版社より刊行されている）に述べてありますから、それを読んで練習されるとよいでしょう。とにかくテレパシーと遠隔透視の力を開発することが根本的に重要です。それをやらないと地球はいつまでも地獄の状態が続けるでしょう。なぜなら科学技術だけでは人間の世界を幸福にすることは出来ないからです。なんといつても人間の精神の状態を高めることが先決で

●デンマークGAPのスタッフと共に。

前列左より3人目からイブ・ラウルン氏、ハンス・ピーターセン氏、久保田八郎。後列左端は郡司牧人、5人目・佐塚素子、その右・田中信代、右端は清水正。撮影/久保田八郎（セルフタイマー使用） フジGSW・フジノン65ミリ・リアラ100・プレスB閃光球2灯使用。



す。それはある種の人達が言っているような観念的な愛の精神や平等の精神をかけ声としてとるだけではないです。観念論的な哲学がためであることは歴史が示すところです。

日本GAPについて

日本GAPは長いあいだテレビシー開発法を実践してまいりました。そこでこれから日本GAPについてお話ししましょう。

先にも申しましたように、日本GAPは一九六一年にアダムスキーの要請に基づいて私が設立しました。最初の会員は一五〜一六名でしたが、現在は一四〇〇名弱です。そして機関誌『UFO contactee』は全国の書店にも出しており、発行部数は合計四〇〇〇部弱です。年四回発行しておりますが、別に英文版の『UFO contactee』も年一回出しており、これは主として海外の団体に発送しております。東京の私の自宅を本部にし、全国に一七支部があります。東京と地方支部はいずれも毎月例会研究会を開催していますが、それはどういうふうにするかといいますが、東京月例会で私がアダムスキーの書物のうち、哲学的なものを選んで、その解説講義を行ないます。そしてその録音テープをたくさんダビングして地方支部へ送ります。地方支部ではそれを各月例会の会場で再生して聴くのです。そして討論を行ないます。ま

た東京月例会でも地方支部の月例会でも、テレビシー、遠隔透視、オーラ透視などの開発練習を行ないます。ときにはグルーブで夜間、野外に出てテレビシーコールUFO観測会なども行ないます。東京本部では去る六月九日に静岡県朝霧高原地帯でテレビシーコールによるUFO観測会を実施しました。あいにくこの日はどしゃ降りの雨で、成果は上がりませんでした。参加者は二三〇名にも達しましたが、こうした状況についてはあとでスライドによる画像をお見せします。

とにかく私達日本GAPはたんなる読書のレベルでなしに、いろいろな研修会やセミナーを実施して会員の向上を計っています。毎年八月には希望者だけで海外研修旅行を行ない、主として古代の謎の遺跡などを見てまわります。今年の八月には四度目のイスラエルと一〇度目のイタリア旅行に出ました。

また毎年九月には東京で年次総会を盛大に開催します。今年も去る九月二四日に開催し、私と一人の会員とでアダムスキー問題について講演を行ないました。数年前はアメリカよりアリス・ポマロイ女史とダニエル・ロス氏を次々に招待して講演を行なってもらいました。いずれも大成功をおさめています。来年九月の東京総会にはここにいますハンス・ピーター・セン氏に来て頂いて、講演を行なってもらいます。

定です。これも盛大に実施されます。また地方支部大会が時折実施されますので、私が出席して講演を行ないます。こうしたセミナーのテーマはすべてアダムスキー問題です。

その他にアダムスキーの著書のすべてが日本語に訳されており、これは八巻の全集にしたものの改訂版が今年から東京の出版社より順次刊行されています。したがって日本ではアダムスキーの書物は誰でも容易に読むことが出来ます。ですから日本ではアダムスキーという名はかなり知られています。もちろんアダムスキーを否定する人もいますが、反対論は他の国ほどに激しくはありません。現在、日本ほどに自由な国は他にないようですから、日本ではどんな活動でも出来ますし、また何をやっても妨害されることはありません。私自身、危険な目にあったことは全くありません。この理由の一つは、スペースビーブルが私の活動を援助し、危険な状態にならぬように護ってくれている、ということにあります。もちろんデンマークGAPもスペースビーブルから注目され、援助されていると思います。真剣に宇宙的活動を行なう人または団体には、かならずスペースビーブルの援助があると思います。

いづれ地球社会も良くなる

私の見るところでは、来世紀のなかばになれば、地球人も私達の太陽系の

他の惑星群に偉大な文明が存在することを公然と認めるようになると思います。そのときにはアダムスキーの名も大きく浮かび上がるでしょう。そして地球人の価値観も大転換して偉大な惑星群を見習うようになるでしょう。そして遠い将来、地球も金星のような素晴らしい惑星に発展するでしょう。これは春川氏がスペースビーブルから聞いたことです。ですから私達日本GAPは地球の現状に対して決して悲観的な想念を持つてはおりません。むしろ明るい希望に満ちた想念と良いイメージを持ち続けて活動を行なっているのです。現在、世界のUFO研究界は混乱に満ちていますけれども、これは永久に続く現象ではないでしょう。地球も必ず良くなるのです。明るい希望をもって前進しようではありませんか。最後に、あらためて今回の大会にご招待を頂いたことに深く感謝しますとともに、デンマーク王国と他のヨーロッパ諸国に偉大な繁栄がありますようにお祈りいたします。有難うございました。

△筆者付記▽

これまで世界各国を歩きまわったがデンマークは初めてである。しかも大会での講演ともなればいい加減なことではすまされず、慎重に計画をすすめて万全を期したつもりだが、いかんせん、GAP関係の処理すべてをほとん

ど私一人でやっているために超多忙の日が続き、講演の英文原稿は早くから準備していたにもかかわらず、ほとんど暗記する暇はなかった。やっと落ち着いて改めて原稿に目を通したのは一〇月一四日に成田からコペンハーゲン行きのスカンディナヴィア航空便に乗ってからである。

搭乗一二時間後に予定どおりコペンに到着して同空港で六時間待機したあと、夜の一時に国内航空のDX便に乗り、五〇分後にエスピヤウ空港に到着した。デンマークGAP会長・イブ・ラウルン氏と長男のイエスパが迎えに来ており、互いに歓喜の初対面を果たしたあと、二台の車に一行五名（清水正、佐塚崇子、田中信代、郡司牧人）が分乗

して深夜の田舎道を飛ばす。ラウルン氏は車で約二〇分の海岸に近いルナという村に住んでいる。

一二時近くに同家に着くと、奥さんのリス、次男のヤコブが待っていた。ここで少しご馳走になったあと、車で一〇分の海岸寄りの位置にある同家のバンガローに案内された。八人分のベッドがあるこの二階建ての宿舎は、夏期の海水浴客用に賃貸するためのもので、これがラウルン家の収入の一部になっているらしい。私達には無料で提供してくれた。

デンマークは西ドイツの北側に突き出たユラン半島、フュン島、東側のシエラン島などから成る小国である。九州ほどの面積の半島が主体をなすが、

首都のコペンハーゲンにはシェラン島の東端にある。したがって全国から首都までは車で直行できない。そのためなのか今回の大会は陸続きのドイツからも車で参加しやすいようにユラン半島のコリンに決定されたようだ。

ラウルン家には二三歳の自動車修理工、長男イエスパと、一五歳の次男で中学三年生のヤコブ、それに一九歳の娘さんのドータがいるが、彼女は町場で銀行に勤めている。いずれももの静かで非常に落ち着いた兄弟。特に次男のヤコブは身長一メートル八八センチもある大男で、体格もさることながら、これが中学生かと目を疑わしめるほど堂々たる大人の風格を見せている。東洋から珍客が来たというので特に平静

にしているのか、普段もこんなのかはよく分からない。

ラウルン氏は予想したとおりの人物で、きわめて気さく。構えたところが全くない。同年の奥さんも大変に気さくな女性で、明るくて親切だ。家族全員がよく英語を話し、言葉の不自由は全然ない。一体にデンマーク人は英語が達者で、当方が英語をしゃべりさえすれば意志疎通は完璧に行なわれる。教育の相違なのか、人種的な要素があるのかはよく分からない。

ラウルン氏の家はデンマークの一般の民家と同じく茶褐色の煉瓦作りである。敷地はざっと見るのに二五〇平米はあるだろう。平屋ながら内部は非常に広く、居間だけで約三〇畳はあり、

▲①ラウルン氏の邸宅前。②同家の居間。③夕食会。左から次男ヤコブ、長男イエスパ、一人おいてラウルン氏、右端はリス夫人。④同家のバンガロー。

撮影/清水正





①ピーターセン氏の邸宅。②玄関前にて左から佐塚素子、ウタ夫人、久保田八郎、ピーターセン氏、ラウルン氏。少女はマヤ。③同家居間。④近くの砂浜にて。



撮影/清水 正

部屋は全部で二室ある。内装は立派なもので、応接セットや家具調度品などは日本人からみれば豪華そのものだが、これが彼らの普通の生活レベルだと言う。東京へ持つてくれば豪邸で通るだろう。ただし地震の多い日本では鉄筋の入っていない煉瓦作りはダメ。

彼の話によると、人口六〇〇余のあちらに一軒、こちらに一軒という超田舎の各民家はみなこの程度の規模の家ばかりだという。デンマーク人の平均収入がどの程度かは知らぬが、彼らのメンタリティー（ものの考え方）と生活様式が、畳敷の狭い部屋にイワシを並べるようにザコ寝する日本人とはまるで違うのだということを腹の底から感じさせられる。だが価値観に絶対性

はないので彼我の優劣は不明である。

奥さんがデンマークの典型的な郷土料理を作って私達を喜ばせる。洋食の食事のマナーについては私が作成したガイドパンフレットを事前に同行者に配布して厳重に指導してあるので、みなそれをよく守り、大過なくすごした。

デンマーク料理にはスモークローといつて、パンの上に肉や魚介類、野菜などを載せて食べる代表的なものである。これをいかにうまく作るかがデンマーク婦人の教養の一つになっているらしい。後日訪れたハンス・ピーターセン氏のウタ夫人はこの料理の名人だとイブさんが言う。酪農が盛んな国なので、チーズ、バターなどで優秀な製品を産出する。

デンマークの歴史、政治、経済などを深く研究する余裕はなかった。私達が最初に訪れたのは北海に面した僻地で、広大な田園、牧場、広漠たる砂浜、颯上げ、やたらジャンパーを着たドイツ人行楽客などが印象に残る。

ラウルン氏は中学の先生であること、同級生であった夫人と結婚したという。勤務先の学校にも案内してくれ、小規模ながら設備は完備している。こちらでは小学校と中学校が一貫した学校になっている。

ここで二日間を過ごした私達はラウルン氏の車で一時に出発。事情により清水、佐塚の二君だけが同行、北方のピーターセン氏の家に向かう。晴れ

た日で快適な気候だ。北緯五六度付近なので、日本でいえば北海道をはるかに通り越して樺太の北端に相当するから、厳寒かと思っていたが、そうでもない。地図の緯度だけで判断してもあてにならないようだ。

約一時間のドライブ後、フィヨルド地帯の広大な湾に面したヘロップ村の高台にあるピーターセン氏の邸宅に到着。石段を五五段登る。

ピーターセン氏とは三〇年来の文通仲間であり、互いにアダムスキーの指名によってGAP活動を開始した仲だから、しよっぱなから「やあ、ハンス」「おお、クボタ！」と呼び合う。六六歳の同年同士ながら、彼は白髪で立派な白ひげをたくわえているから私よりも

少々老けて見える。予想外に小柄だが、退役空軍中佐らしく、きびきびした男らしい人物だ。少し耳が遠いようで、大きな声を出す。ウタ夫人も陽気なカラッとした非常に気さくな人で、二人とも英語を母国語のように話す。

この家も煉瓦作りで、邸内は広く、居間は約三〇畳、応接セットその他の家具はやはり豪華で、白人のメンタリティーに戸惑うばかりだ。

昼食は奥さんの手料理になるスモーク・ブロー。美味！ 午後は居間でアダムスキー問題について話し合い、車でスキーの町へ出かける。デンマークは一〇〇パーセント白人の国なので私達東洋人を珍（めづ）しがるようだ。といってデ



▶大会前の夕食会。下は会場受付。

撮影・清水正



ンマーク人は私達を蔑（べつ）視してはいないらしい。ヘンな動物が出てきたと思っているのだろう。

ハンスの家には、遠くの町に住んで病院に勤めている娘さんの長女が滞在していた。六歳になるマヤという名のこの孫娘は私達を外国人として意識しておらず、名を呼ぶと微笑して応える愛らしさはたとえようもない。アンデルセンの童話の世界から抜け出て来たような、この小さな『亜麻色の髪の乙女』は、ハンスによると非常に賢明な子で、一種の超能力を持つという。

ハンスの家は湾岸に近い山中の一軒家で俗世界から隔絶した環境にあるから、ソーローの『ウォールデン』、すな

わち森の生活』を地でゆくような隠遁（いんとん）の日々を過ごしているのかと思ったら、そうではなくて、ドイツのルフトハンザ航空と契約して海外ツアアの添乗（ともりょう）やガイドの仕事で頻繁に外国へ出かけるという。それも夫妻で行くのだそうで、来月（十一月）には二週間の予定でブラジルへ飛ぶという。また、連日のようにここへ来客があるので、結構多忙なのだと語っていた。

翌一七日。今日は大会だ。朝食後、ハンスの案内で快晴下の渚（しづ）を逍遙（しょうよう）する。清水、佐塚の両君も同行。北歐らしい風景だ。

一時半に車で出発。広大な畑、牧場、村落等が展開。車はみな昼間でもヘッドライトをつけている。気候がよくない国なので危険防止のために義務づけられているという。民家で洗濯物を外に干している家はない。これも天候のせいだ、どんな僻地（へきち）の家でも洗濯機と乾燥機を持つらしい。またレストランがほとんどないのは、材料が高額のために引き合わないからだという。

デンマークはおそろしく物価の高い国で、これは政府が法外（はふがい）もない消費税、その他の税を課しているからだ。

田園地帯に広告看板類が一切目につかないのはデンマーク人の好みに合わないからで、自然の景観を損なわぬようにとの配慮（れいそ）がうかがわれる。

三時半にコリン市のホテル『スカンディック』へ到着。九月にオープンし

たばかりというこのホテルは、きわめて近代的であらゆる設備も上々だ。五時前にホールに入り、イブとスライドの打合せをすませて、その他デンマークGAPのスタッフと挨拶を交わし、フロント横のロビーで記念撮影をする。

五時半より食堂で合同夕食会。スベインの極上赤ワインが出たので、緊張をほぐそうと二杯飲んだのがいけなかった。少し酔いがまわって、意図したとおりのイギリス発音がうまくゆかないような気がしてきた。

大会会場には高さ一五センチほどの低いステージがあり、その上で椅子に腰かけて講演を行なうように予定されていたが、私は終始立つたまま喋（しゃ）べった。聴衆の三分の一は婦人で、若い人は少ない。私の講演内容は日本GAP会員にとっては常識的なものだが、主としてアダムスキーの哲学面に主体をおいた。講演が終わってすぐに質疑応答に入り、三名の人が次々とデンマーク語で質問するのをハンスが英語に訳して私に問う。そこで立ち上がって英語で答えると、それをまたもハンスがデンマーク語に訳す、という面倒な手順で進む。あとでいろいろ聴くと、聴衆はもつとショッキングな話を聞きががっていたのではないかということだった。スライドは八三点を映写したが、これは好評を博したようだ。日本GAPがこうまで大規模な活動をしているとは思わなかったらしく、聴衆

は驚いたらしい。ちなみにデンマークGAPの会員数は三〇〇名である。来年度日本GAP総会に招待されていたハンスは、最初は気乗りしなかったようだが、スライドを見て急に意欲がわいたらしく、別れぎわに「必ず日本へ行く」と確約してくれた。

一八日にコペンハーゲンへ出て、ここで二泊三日を過ごし、二〇日午後三時過ぎ発の飛行機で二一日朝、無事帰国した。ご支援頂いた全国の会員各位に感謝したい。

今回の旅行で痛感したことが二つある。毎度のことながら、まず英語という言語の持つ国際性。これをやらねば文字通り話にならぬことを腹の底から感じた。それも片言でなんとか意志が通じればよいという程度ではなく、母国語のようにしゃべれることがやはり重要である。しかしこれは決して困難なことではない。私の言う「カフスボタン効果」を応用すれば必ず達成できる。外国語の習得に知能の高低は関係ないからだ。そこで来年度の総会にそなえて東京本部役員一同に英会話を練習するようにと徹をとばしておいた。

次にデンマークの高度な生活レベルの問題がある。これについては前述のごとく彼らの生活様式と我らのそれとの差というよりも、白人と我らとのメンタリティーの相違が根底をなしていると思われる。したがって、世界が狭

くなるにつれて「西洋かぶれ」を嫌悪し、白人を「毛唐」呼ばわりする国粹的な狭量な思想は、いずれ消滅するだろう。なぜなら、テーブル、椅子、ベッド等を主体とする生活様式は、アダムスキーの描写する異星人のそれと同じである点を考察すると、この生活様式は宇宙的なパターンを示唆していると考えられるからである。敏感な日本人はこのパターンを感知して、その様式に近づいてゆくだろう。便利快適な合理的科学的な生活法に東洋も西洋もな

いからだ。わずか一週間の旅でデンマークという一国の実態を把握できるわけではないが、これまでに歩き回った多数の国々の生活文化に多大な関心をもつて観察してきた私にとって、デンマークは特に興味深い土地であった。人口五百万の小国で、法外もない課税のもとに生活しながらも、いかなる僻地の民家といえども水洗トイレが完備している実情には、やはり日本と大差をつける要素がひそんでいる。日本の水洗トイレの普及率はまだ四〇パーセント台。そのような物はなくても済むという観念に問題がありそうだ。

ともあれ、日本の「経済大国」はまだ幻想でしかない。こうした覚醒感を起こさせるのは実に「旅」である。デンマークは良き学習の場となった。いづれ機会を見てデンマーク中心の北欧を巡る団体旅行を実施したい。

Wonderful Denmark by Tadashi Shimizu 素晴らしいデンマーク

清水 正

久保田先生よりデンマーク行きの話初めて聞いたときには、何よりも、同行して幾分かの手伝いをする人が必ず必要と思って参加させて頂いた。GAPで学んだことや先生が望まれる事を少しでも旅行中にお手伝いできればという思いだった。

デンマークに行って感じたことは、落ち着きのある、あまり規制のない自然な感情で生活している人々のことだった。各人が住み心地の良い社会をめざして、一部の人にしわ寄せのない平等な、いかにすれば個人が快適に過ごすことができるかを考えているようだった。

地方都市の商店街では五時になるといっせいに店を閉めるのには驚いた。日本ではこの頃がかいれどきである。デンマーク国民の意識や価値観が日本と比べて個人に向けられていることが分かる。

家々は密集することなく、牧場が多くて豊かさを感じる。個々の家は広々として美しく作られ、絵になるものばかりである。広大な土地はさすがに気分がさしてくる。

イブ・ラウルン氏の家では大歓迎を受けた。地酒のスナップス（ジャガイ

モの蒸留酒）の強さは忘れられない。五〇度ぐらいあったろうか。それを小さいグラスに入れ、地元の言葉でスコール（乾杯）と言って一気に飲む。それを何回もやる。イブさんは全く酔いを知らない人だが、私はつきあった。不思議に酔いしない。こんなことで気持ちを通じた気になるものだ。

ハンス・ピーターセン氏にお目にかかった印象は、気さくで、よく気がつくジェントルマン。おじいちゃんとは言えない若々しい目の輝きを持つている方だった。サービス精神旺盛で、楽しいフィーリングに満ちた方である。

スカンディナヴィック・ホテルでの大会は、あまり宣伝をしないにもかかわらず予想以上の人が集まって開かれた。私は久保田先生の英語の講演を初めて聞いたが、デンマーク滞在中、一番理解できた英語は実はこの講演のときだったと思う。なぜなら先生の話された内容は日本で話すこととあまり変わらなかったからである。

大会の印象は日本の地方支部大会とあまり変わらないと思った。しかし私自身少し高揚していたせいか、質疑応答で地元の人の質問に堂々と答えている先生の姿を見て感動した。

このたびのデンマーク行きで感じたことの一つに英語の重要性がある。これからは英語が必ず必要な時代になるだろうし、GAP活動においても英語は欠かせないのではないかと思う。日



▲①コペンハーゲン市庁舎（左の塔のある建物）。

②市内の目抜き通り「ストロイエ」。③街頭のピアノ弾き。④市庁舎前広場の鼓笛隊。

撮影／久保田八郎

本GAPの会員の方々が英語を学び、海外の人と交流することになれば素晴らしいだろう。そしていまそれが進行中なのだと思う。

また、デンマークを知る事で日本の良さも再確認した。デンマークはほとんど平地で山がなく、これからみると日本の山々はいいなあと思う。

活動的で活力のある日本も素晴らしいが、個人が快適に過ごせる社会のあり方を模索して個人を尊重するような考え方がもっと広がるべきだろう。

A Great Success by Makito Gunji 大成功の講演会

郡司牧人

この旅行でお世話になった皆様とデンマークGAPの方々感謝したい。

私達一行は夜遅くイブ・ラウルンさんの待つエスビヤ空港に降り立った。夜になれば北欧の冬を想像させる冷たい空気が私達を包んだ。ラウルンさんは笑顔で出迎えて気さくに話しかけ、

私達の名前を確認し、すっかり覚えようとしていた。空港には息子さんのイエスパさんもいて、私達は二台の車に便乗し、空港を出た。

私達五人はラウルンさんのお宅に二日間滞在したが、ピーターセンさんのお宅に五人も泊まれるほどのベッドがないこともあって、私と田中信代さん、三日間滞在した。ご家族の手厚いもてなしを受けて、一七日にラウルンさんとともに大会開催地へと向かった。デンマークGAP大会の開催される

ホテルは九月にオープンしたばかりの高級ホテルで、そこには洗練された装飾があった。ロビーで合同の記念写真を撮ったあと、ホテルのレストランで夕食会に招かれた。私はドイツの青年マーティン・ブッシュマンさんと並んで楽しく雑談をしながら食事をした。

講演は大成功のうちに終わり、私達には大きな責務を果たしたという満足感がたどたどしていた。これはGAPという世界的な拡がりを持つ組織全体の活性化に重大な意義をもたらすだろう。

Hans Petersen Talks About Adamski

宇宙人の遺体はロボットだった！

△ハンス・ピーターセンが語る秘話▽(1)

一九九〇年一〇月一七日、デンマーク・コリン市で開催されたデンマーク GAP 大会に向かった久保田会長は、前日、ヘロップ町のピーターセン氏宅へ宿泊し、同氏から興味深い話をたっぷり聞いた。以下は8ミリビデオカメラで撮影された映像テープから伊東芳和氏が音声のみをカセットテープにダビングし、それを坂本眞一氏が翻訳したもの。対談の場には清水正、佐塚崇子の両名も同席した。

宇宙人はロボットを多用

久保田 あんたの話を録音してもいいかい？

ピーターセン もちろんだ。さて話の続きだけど、私は一九五一年に訓練のためアメリカのキースラー空軍基地に派遣されたんだ。その訓練は三カ月ほど続いたんだが、その後で実はある実践的な任務を帯びてライト・パターソン空軍基地に送られたんだ。

久 ほう。

ピ なかなか面白いだろう？

久 うんそうだね。ライト・パターソン基地と言えば、宇宙人の遺体を収容していると噂されている基地だろう？

ピ その通り。

久 ところでその噂は本当なのだろうか？

ピ 見たわけではないから断言は出来ないが、おそらく本当のことだと思うよ。

ライト・パターソン基地というのはとにかく大きな基地でね、それが実は二つの基地で構成されているんだ。ライト基地とパターソン基地さ。

久 ああ、そうなのか。

ピ そうなんだ。その二つを総称してライト・パターソン基地と呼んでいるわけさ。オハイオ州デイトンにあるんだ。

そして、ライト基地というのは、一般的な空軍基地なんだが、もう一つのパターソン基地というのが、実は秘密空軍基地になっている。

実際、勤務中に私は極秘任務を帯びた航空機群がその基地に到着するのを何度も目撃したものだ。

着陸したそれらの航空機が機体を倉庫に横付けすると、荷物の積み出し口から倉庫の入口までの間に或る種の覆いが掛けられる。まあ、目隠し用のトンネルと言ったらいだろうね。それ

てそのトンネルを通じて秘密の搭載物が倉庫に運び込まれる、というわけさ。とにかく、一般の兵士達には、窺い知ることも出来ないような物が、あの基地に大量に収められていることは間違いない。

私は宇宙人たちの遺体をこの目で見たことはないが、それらがあの基地にあることはおそらく間違いないだろう。ただし、ただしだよ、宇宙人の遺体だとしてあの基地に収められているものは、実は本当の宇宙人の遺体ではないんだ。

久 宇宙人の遺体ではない？

ピ そうなんだ。実は、それらはロボットなんだ！

久 ロボットだって!!

ピ そう、ロボットだ。かつてアダムスキーが言っていたんだが、実はほとんどの円盤には、三人の普通の人間と二体のロボットが乗り組んでいるらしい。

そして船内で実質的な労働をするのはロボット達で、宇宙人達は、いわゆる頭脳労働のみを行なっているということだった。それは大きな母船内でも全く同じだったとアダムスキーは語っていたね。

そして、これは私の見解なんだが、アリゾナやニューメキシコ、さらにメキシコなどで発生した円盤の墜落事件は、実は事故ではなく、計画されたものだった可能性が極めて高い。

あれらの墜落は、地球の科学者達に

彼らの科学を学ばせようとして、計画的になされたものだったんだ。そのため彼らは、それらの円盤にはロボットしか乗せていなかった。

当然、地球の科学者達は墜落した円盤の中から回収したそれらのロボットを十分に研究した。そして今では、地球の科学者達が全く同じようなロボットを作ることに成功している。

ちょっと見せたいものがあるんだ。少し待ってくれるかい？

(ここでピーターセン氏は中座して、手に書類を持って再び現れる)

これなんだが(機密文書の写しか何か?)、ここには、彼らの知性はコンピュータのようなものでプログラミングされていると書かれている。さらに、血液は持たないが、その代わりに、樹液のようなものが体内を巡っていると書かれている。まあ、人工の血液といったところかな。

そして、同じ方法を用いれば、どんな形のもので、例えば、ライオンの姿をしたものであろうと、人間の姿をしたものであろうと、とにかくどんな形をしたものでも作れるということなんだ。

宇宙人達はそういうロボットをとっても効果的に利用しているんだね。

私があるの円盤の墜落がすべて計画的なものだと考えるのは、そのためなんだ。われわれに彼らの科学を学ばせようとして、ロボット達だけを乗せ



▲左から佐塚、久保田、ピーターセン。

た円盤を、彼らは意図的に墜落させたのさ。

おそらく彼らは、大きな危険を伴う使命を帯びた円盤には、ほとんどの場合ロボットしか乗せないと思う。

久 金星人もよくロボットを利用して、いるという話は聞いたことがあるが、そうなのかい？

ピ もちろんだ。なぜなら地球人はすぐ撃ちたがるからね。

久 撃ちたがるか。ハ、ハ、ハ、なるほどその通りだね。

ピ そうさ。戦闘機はもちろん撃ちたがるし、アメリカでは警察官達もしょっちゅう撃ちまくっている。スウェーデンでも戦闘機が円盤に発砲したことがあるし、とにかく地球人は撃つのが好きなんだ。

そんな地球にやって来るときに、宇宙人達がむぎむぎ自分を危険な目にあわせなければならぬという道理は全

くない。そこで彼らは、大きな危険が予想されるときにはロボットを使うのさ。

久 まあ、ロボットならば命を失うこともないからね。

ピ ああそうさ、賭けてもいいよ（一同笑い）。なんせ彼らは単なる機械なんだからね。

自宅へ接近するUFO

ピ 昨年ダニエル・ロス夫妻が来たとくも、この部屋でちょうど今と同じように座りながら話をしていたものだ。われわれはとにかく喋りまくった。

そしてあれは確か、午前〇時を二〇分ほど過ぎた頃だった。ただ、それは六月のことだったので、その時間でもまだ明るかった。というのは、そのころの季節には、太陽が地平線のほんのちよつと下までしか沈まないからね。

そうだね、午後の一時になっても、まだ外で電燈なしで新聞を読めるくらいのもあるさがあるんだ。だから、当然星は見えない。

さて、午前〇時二〇分頃にわれわれが話を花を咲かせていると、突然、ちようどカメラのフラッシュのような光が差し込んで、この部屋全体が急に明るくなったんだ。

私はとっさに

「外へ出よう！ プラザーズが来ている」と

と言って彼らを外に連れ出した。

そしてわれわれが走るようにして外に出ると、遠くから一機の宇宙船が近づいて来て、われわれの上空を通り過ぎて行つたんだ。

久 それは大きな宇宙船だったのかい？

ピ いや、円盤だと思う。かなり高いところを飛行して行つたので窓などの詳細な様子までは見えなかったけど、とても明るい光を発していたから、人工衛星でないことは誰の目にも明らかだった。

さらに、その円盤は向きを変えたんだ。あそここの湾の向こう側あたりで向きを変えてから、この家のほぼ真上を通過して南に向かって飛んで行つたのさ。

そのあと、ロス夫妻と私は一時半ごろにベッドに入つただけど、私の妻はそのあとにまだ台所で後片付けをしていた。その彼女が後片付けを終えてふと窓の外を見ると、おそらく同じ円盤だと思われるものがまた現れたんだ。

それは前のときより大分低いところを飛行していて、そのときには月が昇つていたんだが、その物体はそのときちようどその月の前を通過したらしい。そのため彼女は、その物体が間違いない円盤であることを確認したというわけさ。

結局、その夜その円盤は二度やつて来たということになる。

まず初めには、この部屋が明るくな

った。外が充分に明るかつたにもかかわらず、この部屋がバツと明るくなつたんだ。さつきも言つたように、まるでカメラのフラッシュでも焚いたような明るさだった。

そしてわれわれは、西から東の方向に飛行する円盤を見た。次にそれは向きを変えて南の方向に飛び去った。さらにそれは再び現れて、南から北に向かって飛行して行つたというわけさ。

夜になつたら外に出て見ようじゃないか。今日も見れるかもしれない。

それと、これはほんの二週間前のことなんだが、ある晩私たちはコペンハーゲンから客人を数名迎えていて、外に立つて空を見上げていたんだ。でも、なかなか円盤が現れない。

そこで、私は空に向かって、「なあ、そこにいる君たち、あと一〇秒待つけど、それでも現れないのなら、私達は今中に入るからな」と言つたんだ。

するとどうだろう。私がそう言つた瞬間、明るく光る物体が、私たちの上空を物凄いスピードで通り過ぎて行つたんだ。

まさに驚きだったね。それはかなり低いところを飛んで行つた。実際、シユツという音が聞こえた程なんだ。それは光の長い尾を残して飛び去って行つた。ただし、詳しい形は分からなかった。そのときわれわれが見たのは、物凄いスピードで空中を移動する、頭



▲1960年代初頭のアダムスキー。

がオレンジ色に輝く光の長い筋だった。ほんの二週間前のことさ。

着陸した宇宙船がそのまま消滅

ビ また、以前私たち夫婦は着陸した宇宙船も見ることがある。

久 ほう、着陸した宇宙船だと？

ビ そうだ。その日、私と妻は車で海岸線を行っていた。スキーベという町に行く途中だった。東京ではないよ。スキーベだ（笑い）。

そのとき車を走らせていく私の目に、突然、遠方の原っぱの上に横たわっている巨大な物体が飛び込んで来たんだ。私は車のスピードを上げて、その場所を最も近くから見れる地点（海岸線を走る道路上の）まで行き、車を止めた。そして私たちは少し内陸に向かつて歩き、その巨大な物体を眺めたんだが、

それはまぎれもなく宇宙船だった。しかも、とてつもなく巨大なもので、おそらく全長三〇〇メートルはあっただろう。

さらに驚いたことに、私たちがそこに立って眺めていると、その宇宙船は、船体を不可視の状態にする様子を、私たちにじっくりと見せてくれたんだ。

まず、船体の一番端が見えなくなっていた。でも、その部分がそこに存在していることは明らかだった。というのも、船体の残りの部分は依然として同じ姿を見せていたからだ。

やがて、除々に、船体の見えない部分がふえて行き、それとは逆に見える部分が徐々に少なくなっていく。そして最終的には、船体の全てが見えなくなってしまうんだ。でも、その宇宙船が実際にはどこにも移動せず、そこに依然として存在していることは、その過程を眺めていれば歴然だった。

最初に一部が見えなくなり始めてから、全体が全く見えなくなるまでの時間は、おそらく二分ほどだったと思う。彼らは、とてもゆっくりとその過程を見せてくれたんだ。いや、とにかく素晴らしい一言だった。

船体は乳白色に輝いていたね。その宇宙船までの距離は、勿論正確には分からない。とんでもなく遠くではなかったけれど、至近距離と言える距離でもなかった。

実は、私はあのあたりの地形を良く

知っている。手前に木や草が繁っているの、いわゆる至近距離であれば機体を見ることが不可能であることは明らかだが、決して遠すぎる距離ではなかった。そこで私は、その宇宙船までの距離を、およそ五〇〇メートルと見積もったんだ。そしてその仮定に基づいて、機体の全長をおよそ三〇〇メートルと結論付けたわけさ。

とにかく、あれは素晴らしい体験だった。明日会場へ向かうときにその場所を教えてやるよ。

すごい胸騒ぎを感じたあとで

まだだいぶ前に、それはジョージ（アダムスキー）と接触を始めてまだ間もない頃のことだったんだけど、私は彼ととても良く似たある体験をしている。それはもちろん彼の体験と全く同じものではないけれど、とてもよく似た体験だった。

その日は私は仕事を終えて午後五時ごろに帰宅した。その日私の妻と二人の子供たちは、妻の両親の家に出かけていて、家にいたのは私一人だった。

さて、家に帰った私は、いつものように新聞を広げて読み始めた。ところが、まもなく私はひどい胸騒ぎを感じ始めたんだ。何か恐ろしいことが起こりそうな予感というか、何とも言えぬ不安感が私を襲い、もういたたまれなくなってしまう。

そこで私は妻の実家に電話を掛けて、

妻に尋ねた。

「何も変わったことはないか？」

「ないわ」

「子供たちに異常はないか？」

「ないわ」

「君のお母さんに異常はないか？」

「ないわ」

次に私は自分の父親、母親、兄弟達にも電話して同じ事を尋ねたが、全員異常なしだった。

突然、私の脳裏に一つのアイデアが浮かんだ。

「待てよ、もししたらこれはアダムスキーが体験したものと同じものなのではないだろうか？ 彼が宇宙人達に呼ばれて町に出ていったときに感じたのと同じフィーリングかもしれない」

でも私は、「まさか、そんなことが私に起こるはずがない」と、そのアイデアを即座に打ち消した。

しかし、その何とも表現しがたい胸騒ぎは、いつになってもおさまらなかつた。

そこで、私は、車に乗り込んで家を出ると、その付近をくまなく走り回った。そして家に帰ってきたのは一時間過ぎだった。私はその日、その胸騒ぎの元を見つけ出すべく、六時間も車で走り回っていたことになる。

そしてその間中、同じフィーリングが常に私に付きまとっていた。それは、誰かに常に見られている、というようなフィーリングでもあった。

ドライブを終えて家に帰って来たとき、私は、もう全身にびっしょりと汗をかき、完全に疲れ切っていたものだ。

再び家に戻って椅子に座り、新聞を読んでいたうちに、まもなくそれまでの胸騒ぎはきれいに消え去った。

そこで私は寝ることにして二階のベツドルームへの階段を登ったのだが、ちょうどその中程まで登ったとき、また同じ胸騒ぎが私を襲ったのだ。同時に「すぐ窓のそばに行け」という印象を感じた私は、急いで近くにあった窓から外を眺めた。しかし何も見えない。そのあと私は、眠りにつくまでに二〇回も窓のそばに行つては外を眺めたが、何も見えなかった。そしてやがて、眠りに落ちた。

ところが、しばらくして私は突然目を覚ました。時計は午前二時二〇分を指していた。と同時に、私の心に先程と全く同じフイーリングがわき上がったんだ。

私は急いで窓際に走った。すると、いたんだよ。大きな宇宙船がね。家のほぼ真上に。

結局彼らは、その日私をズーツと追い回していたんだね。夕方の五時からズーツとき。もしかしたら彼らは私とコンタクトしたかったのかもしれないけど、もちろんその真偽のほどは分からないけど、いずれにせよ、私が彼らの呼びかけに正しく反応出来なかったというただけは言えるだろうな。

でも、最終的に彼らは私をとらえた。午前二時二〇分にね。全く長い時間を費やしたものだ。

さて、家の上空にいたその大きな宇宙船を確認したあとで、私は急いで階段を下り、そこにあった双眼鏡を手にしてまた急いで二階に戻ったが、もうその宇宙船の姿は上空になかった。

でも、その宇宙船が浮かんでいたところから地上までの間に、一筋の煙の帯が漂っていたんだ。私はすぐにそれをカメラに収めた。明日にでもその写真を見せるよ。もちろん宇宙船は写っていないけど、少なくとも上空に何かいたという証拠にはなるはずだ。

とにかくあれは奇妙な体験だった。しかもとても興味深い体験さ。なんせ彼らからのテレパシーを体験したんだ。あれはたぶん一九五八年のことだったと思う。あ、ちょっと待てよ、そのときのことはいつかりと書き記してあるんだ。それを今持つてくるよ。ちょっと待つてくれるかい？

「ここでピーターセン氏は中座するが、まもなく一冊のノートブックを手に現れる」

いや、もつとあとのことだった。一九六〇年の六月一四日だ。しかし面白いね。この前ロス夫妻がここに来たのとほとんど同じ日だよ。

ほら、ここに写真がある。煙が見えるだろう？ 宇宙船はもういないけど、宇宙船がいた位置から地上までの

距離は、おそらく二〇〇メートルもなかったんじゃないかと思うよ。私の家のほぼ真上にいたんだ。

包み物は金星人から渡された

久 ところで、あんたがジョージ・アダムスキーの写った写真を持っているならば、それを今日撮影させてほしいんだが、いいかい？

ピ もちろんいいとも。小さな写真ばかりだけれどね。それでもよければ今持つて来るよ。

（と言って中座したピーターセン氏は、アダムスキーが写っている写真の他にも数々の写真や資料を抱えて戻って来る。以後の会話は、それらを見ながらのものである）

久 ところで、アダムスキーが金星人から預かってローマ法王ヨハネ二三世に手渡したという封筒をあんたが一時預かっていたという話を聞いているけど、それはどんな外観をしていたんだい？ ちょうどここに封筒があるけど、だいたいこんなものだったのかい？

ピ ああ、だいたいそんなものだったね。そうだね、これより一回り小さかったかな。厚さはこんなものだった。

久 なるほど。で、その中に何が入っていたかは知っているかい？

ピ いや、それを知っている人間は誰もいない。アダムスキーでさえ知らなかった。もちろん私たちはそれを開けなかったしね。私が知っているのは、

それが私のベツドルームに一〇日間置かれていたことだけさ。

久 それが金星人からアダムスキーに手渡されたものだというのは間違いないだろうね？

ピ そうだ。それをアダムスキーは、ある金星人からコペンハーゲンで受け取っている。

久 コペンハーゲンで？

ピ そうだ。朝の六時に。

久 コペンハーゲンの空港でかい？

ピ いや、違う。そのとき彼は、市の中心部から大分離れた、郊外の小さなホテルに泊まっていたんだ。そこに彼が泊まっていることは誰も知らなかった。そしてその日は早朝に海岸へ散歩に出掛けたんだが、そこに一人の宇宙人が現れて、あの封筒を彼に手渡したというわけさ。

そして実は、その付近にはもう一人男がいたんだ。釣りをしていた男だがね。彼はあの封筒が手渡される現場をはつきりと見ていたんだ。この件に関しては、いわば目撃者が存在していたということになる。

大変な話し好きアダムスキー

久 （アダムスキーの写っている一枚の写真を指差しながら） だいぶ楽しそうだね。

ピ ああ、彼はとにかくふざけるのが好きだった。人々をからかうのがとても好きだったんだ。（26頁へ続く）。

高度に進化した金星人の実態 (完)

ジョージ・アダムスキー / 久保田八郎訳

石板が建築材料として多方面に使用されています。水晶が大きく切られて使用され、これは半透明の材質として理想的ですが、透明な壁面構造ではありません。彼らは石を研磨して宝石の表面のようにする簡単な方法を発見していますので、これが建築に応用されると材料は宝石のように見え、高度に磨かれるためにさまざまな色を反射します。

●食物

われわれはよく食物の専門家から「人間は食物によって体質がきまる」と聞かされていますが、私ならば「人間は自分の考えによって体質がきまる」と言いたいところです。肉体の中に摂取する食物の化学反応は各自が感じるとおりの結果を起こします。ただしこれは個人的なことであって、一般的に規定することはできません。しかしわれわれが食物を食べるときの感情の状態は、栄養分の吸収とエネルギーへの転換に際して重要な要素となります。

私がこれまでに会った異星人のなかに、彼らの食物にたいする態度を詳細に説明してくれた人がありました。彼らは有益な食物だけをとりまします。

再度申しますと、彼らは地球人よりもはるかに恵まれています。というのは金星は土中に適度な水分やミネラルを含んでいて、それが作物に生命を与えていますので、その惑星は生産においてまだ処女地帯であるといつてよいほどの状態にあるからです。必要な物すべてを巧みに自然が補充する有様をよく理解している彼らは、自然界と共に調和して働くことができるのです。しかも彼らは作物の生産を強行しません。こうして土から貴重な栄養物を取っています。

彼らは食物を料理する場合もありますし、生のまま食べることもあります。彼らは食物の基本的な栄養素を破壊することなしに料理する方法を知っています。また肉体の適当な機能を果たすのに必要な炭素を補充するため、充分な肉類を食べます。私は『第二惑星からの地球訪問者』を出してから後、彼らの食事の仕方について多くを知りました。彼らの一人が、異なる各種の食物を摂取することの重要性を説明してくれたのです。

●言語

多くの人を輸送する巨大な宇宙船に

乗ったとき、私は異星人が彼らの言語で話しているのを何度も聞いたことがあります。それはカン高い調子の音楽的な話し声で、そのことを最もうまく表現すれば、澄んだ美しいフルートの音色に似ているといつてよいでしょう。騒がしい声ではなく、気分が浮き立つような陽気な声です。

彼らの話し言葉でさえも音声の中に現れるあらゆる生命の感じを伝えていきます。彼らはまるで小鳥の歌、木々の間に流れる風の音、水流の歌うようなさまざまな音などを捕らえているかのように思われます。

しかし彼らにとっては想念や感情を他人に伝えるのにかならずしも音声による会話は必要ではありません。彼らはきわめてすぐれたテレパシーの能力を有していますので、無言のまま互いの想念や感情を感じ合うのです。大体に音声による会話を行なうためにはまず心の中に想念を起こすか、またはイメージを描く必要があります。すると相手はその想念と一体化することによってその想念の波動と同じ周波数を持つために心中のイメージを見ることのできるのです。発信者が何を言おうとしているのかを知るのに音声に頼る必要はありません。

私が彼らに会ったとき「私はジョージ・アダムスキーです」と自己紹介する必要はありませんでした。彼らは私を知っていましたし、またこの地球上

における私の目的や、最善を尽くして私が彼らや地球人のために奉仕しようとしていることなどを熟知していたからです。また私が生命の目的や宇宙の広大な概念などを他人に伝えるためには、私の信念や確信を証拠立てるためにある種の体験を持つ必要があることも彼らにわかっていました。そこでさまざまな体験が私に与えられたのであって、それは私が権威者の一人として認められるためではなく、人類のためのよき奉仕者たらんがためです。

一方この地球ではきわめて多くの種類の言語が使用されていますが、これは不幸なことです。というのは、翻訳などしているうちに元の意味や感情が失われて誤解が生じるからです。金星人がやっているように、地球人も各人がテレパシーの何たるかを理解してそれを応用するならば、右の困難は消滅し、想念との真の一体化というものが知られるようになるでしょう。

本来生命の本質というものはきわめて容易に理解できるものなのですが、地球人は種々の名称を付しては分類し、分割できないものを切り離したりして、ものの考え方を複雑にします。宇宙のあらゆる部分が相互関係にあり、別個に機能を果たすことはできないという知覚に達しない限り、われわれは結果の世界（現象の世界）の中でもがきつづけるだけで、「因」すなわちあらゆる現象の青写真を理解することはできま

せん。

●レクリエーション、ゲーム、その他

あなたは尋ねるかもしれません。「金星人はいつも厳格なしかめ面をしていて人間の神性をあらわすことばかり考えているのではないか」と。この質問の後半の部分については「そうです」と答えましょう。なぜなら彼らにとつては、宇宙の英知は常に自由な状態にあつて、妨げられない行為の喜びをあらわしているからです。しかし彼らは厳格なしかめ面をしてはいません。

●ダンス

彼らの音楽は宇宙の各現象の波動の記録であつて、それらは完全な調和の中に響き合つて、喜ばしい表現の伴つた一大シンフォニーを作り上げています。彼らがダンスをするときは肉体的細胞が、常に若さを保つ絶えざる喜びの自由な状態の中に解放されていることを知っています。それでダンスをすることは、「宇宙のエネルギー」にたいする礼拝または感謝のかたちであると考えられています。その「エネルギー」が永続する生命をあらわす特権を彼ら人間に与えているからです。これは彼らの肉体的あらゆる動きを音楽のリズムと一致させることによってなされるのです。この地球上で原始的な生活を

している未開人たちの多くは、宇宙人の行なうダンスの本来の目的の記録をまだ保っています。しかし大抵の場合、未開人はその踊りに含まれている創造の秘密までもあらわすことはできませんし、そうしようとしません。われわれは他人の感情を無視して自分の個人的意見や感情を日常生活にあらわそうとする限り、きわめて制限されたエネルギーと理解力の範囲内にとどまらねばなりません。

金星人はわれわれと同様にあらゆる種類のスポーツやゲームを楽しみます。また宇宙船で航行中はカードや他のゲームをやつたりします。

●政府

これまでたびたび述べましたように、この太陽系内の他の惑星群には、一惑星に一種類の評議員団があつて、あらゆる問題を調整したり、各地域の必要品を世話したりします。彼らは地球にあるような法律を必要としません。なぜなら、彼らの個人的な倫理観がきわめて高度なために、もし彼らが自然の法則をおかすようなことがあれば、たちちにそれに気づいて過失を修正するからです。評議員団の中には老若いろいろいます。また宇宙を旅する人たちもいて、他の惑星上で発生している出来事を観察しています。こうした知識の交流によって彼らは絶えず宇宙につ

いて多くを学んでいるのです。

●惑星上に起る諸変化

この交流によつて彼らは太陽系内の各惑星で発生している自然の諸変化に気づいています。彼らはこの地球がある一大変化するなわち自転軸の傾きを体験する運命にあることを知っています。それが発生する時期については知っていません。しかし彼らは地球上で発生する変化を観察することに興味がありますので、完全な地軸の傾きが起るならば、何らかの方法で地球人を援助するでしょう。私は長いあいだ「多数の異星人がこの地球上に住んでいる」ととなえてきました。そのために次の質問を数限りなく受けました。「彼らは地球上で何をしているのか?」その行動の一つは、彼らの多くは出身惑星と絶えず連絡していて、地球が体験しつつある諸変化を観察することにあるのです。

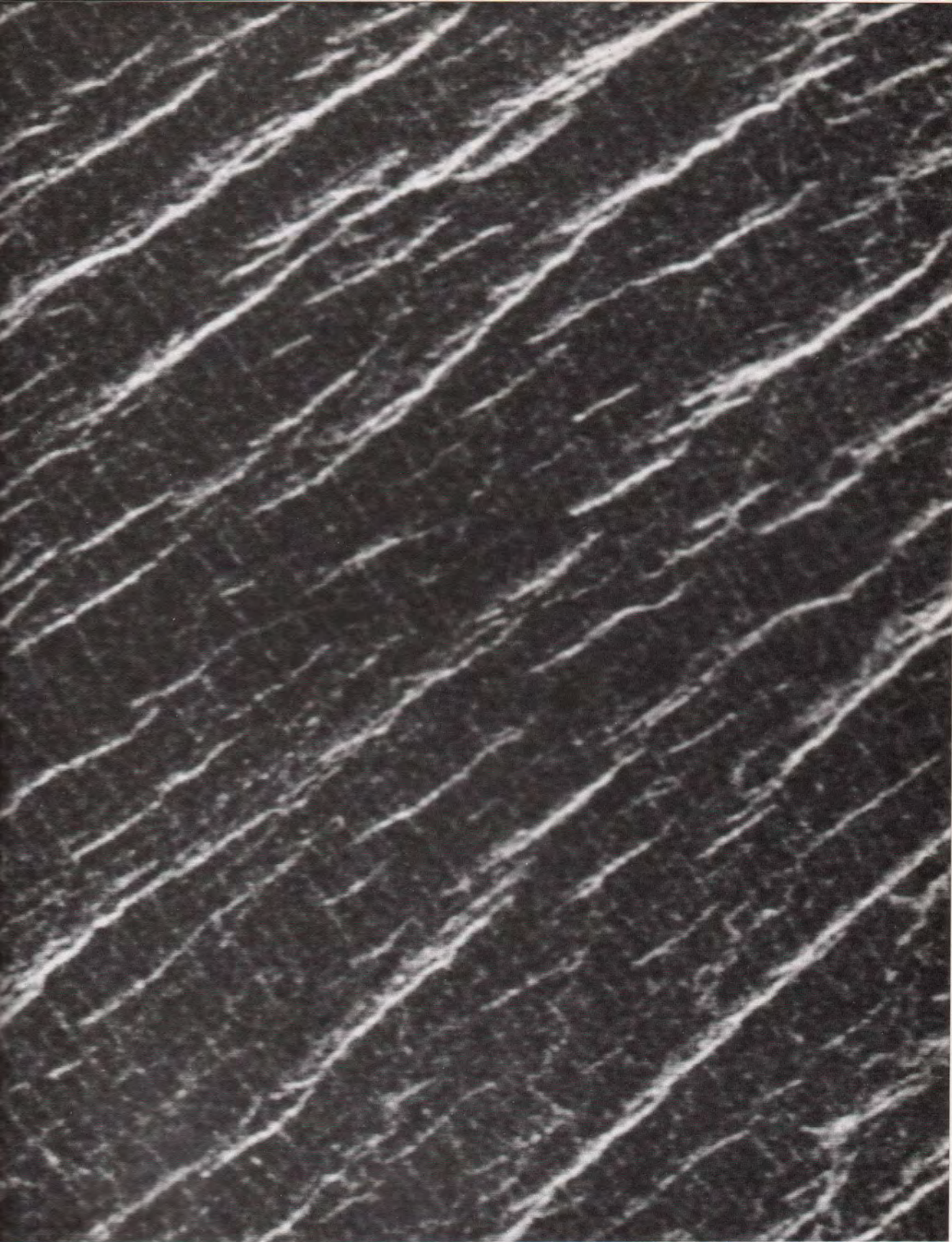
一方、火星、金星、土星、木星などから発達した宇宙船は地球の上空を絶えず飛びまわつていて、大気圏内の磁力線の諸変化を彼らの装置に記録しています。また各惑星では類似の変化が彼らの惑星上で発生したときに作られたグラフがあつて、このグラフと地球の変化とを比較することによつて、地球の内部に発生する物事を探知することができのです。地球の科学者は一

九五七年と五八年の国際地球観測年を通じてその変化に警戒的になつていて、観測を延長する必要があることを感じています。その変化は急速なために、新発見事を比較して記録する前に諸状態はすでに変化していたからです。

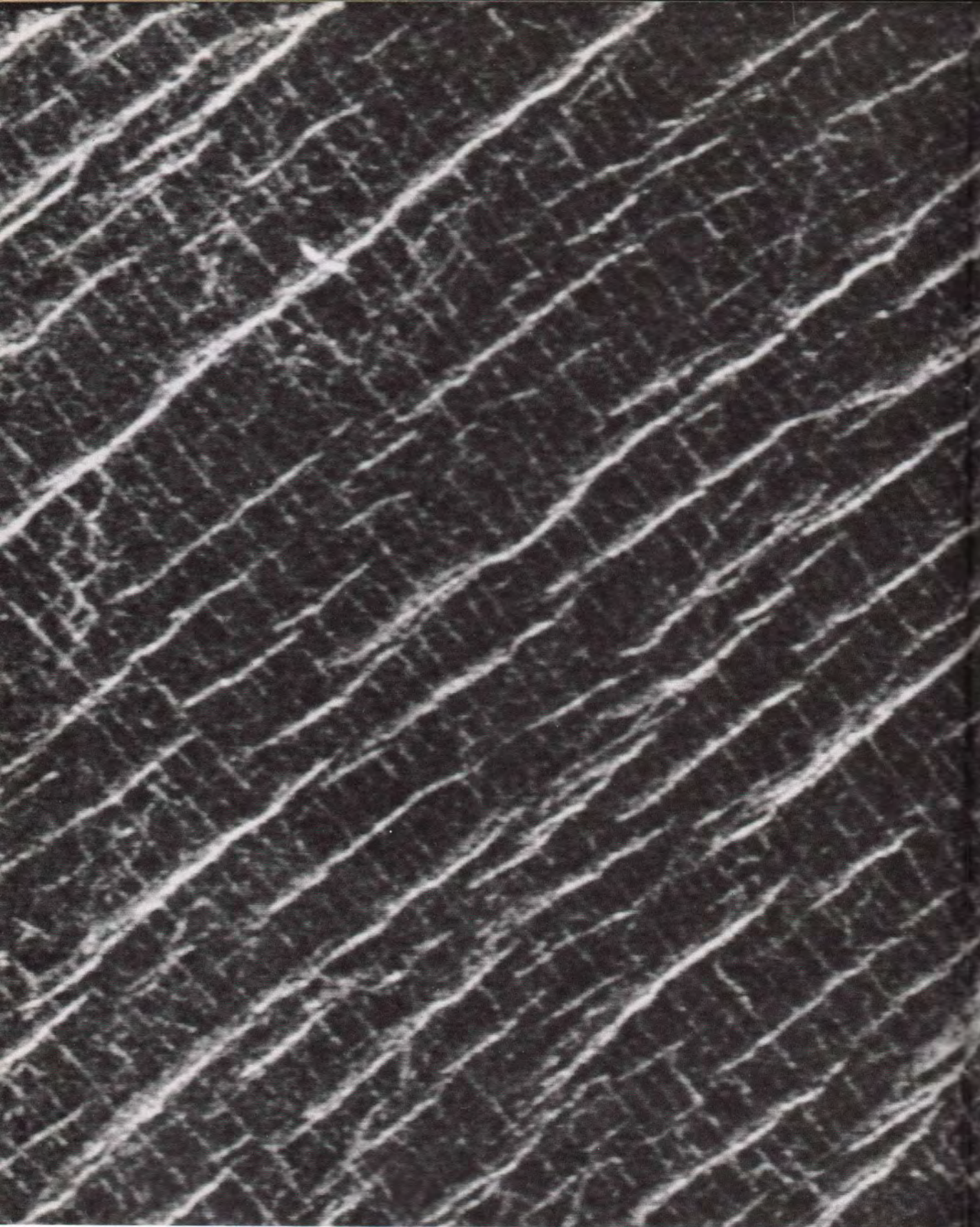
他の進歩した惑星から隣人が地球へ来るのは、地球人を驚かせめるのでもなければ、新しい宗教を始めるためでもあります。彼らは神ではないからです。国際地球観測年の観測をするために異郷の地へ派遣された地球の科学者とは別に、別な人々（異星人）が現地の人々を救済するために派遣されたのです。しかしこの隣人たちはこちらが受け入れさえするならば喜んで彼らの知識を伝えてくれます。しかし彼らもとづいていて、現状では自己破壊に至るほかにないことを知っています。彼らの計画は遠大であつて、素晴らしい原因ができています。彼らは地球人の疑惑をとがめません。なぜなら、彼らはいつかは地球人の空想のディレンマが真実のために解消することや、地球人はいつか心というものを実際のな考えのために用いるようになるであろうということ、そして神秘主義は自然の法則の理解によつて置きかえられるであろうことを知っているからです。

一九六四年一月二日

（訳注）金星に関しては新アダムスキ全集第一巻にも詳述してある）



レーダーによるこの画像は、今年9月25日、金星探査機マゼランが金星地表ラクシュミ地帯の横80km、縦37kmにわたる地域をキャッチしたもの。非常に不思議なのは太くて白い線群と細い線群の2種類が直角に交差している現象。細い線群は各間隔が約1kmある一方、太い線群は間隔が不規則で、しかも各線群が細い線群と交差する位置で切れているように見える。このような地形はこれまで金星ばかりでなく他の惑星群でも発見されたことはない。 —米NASAジェット推進研究所発表— 写真/ロイター提供



Mysterious Lines on Planet Venus

●金星の不思議なスジ模様

青森県に頻発するUFO出現事件

一昨年、青森県にUFO出現騒ぎがあったが、どういうわけか昨年も九月から一〇月にかけてUFOが出現し、騒動が続いた。しかも地元新聞社の人々が屋上から望遠レンズ付きカメラで見

●中根 豊

(1)八甲田山上空に出現したUFO群

一昨年に引き続き、またもや青森県内でUFO騒動が起きた。

九月一三日午後九時から一〇時頃までの間に東奥日報社に「点滅しながら異様な動きをする飛行物体が見える」との情報が、青森市や弘前市の住民から何件か寄せられた。

目撃者の話を総合すると、飛行物体が見えたのは八甲田山上空あたりで、飛んでいたのは二個から七、八個。いずれも「飛行機やヘリコプターではあんな飛び方はできないはず」と問い合わせてきた。

目撃情報は青森地方気象台にも寄せられたが、同気象台では「判断つかない」と回答する以外には「と困惑している」。

陸自青森では「午後五時で当日のフライトは終わっているし該当するものはない」と言っている。また東京航空

事に撮影するというおまけつき。そこで本誌は青森県在住日本GAP会員・中根豊氏（東北町）と田村嘉彦氏（青森市）に調査を依頼して報告をまとめた。以下はその内容。

局青森空港出張所でも「空港の運用時間は午後八時まで。それ以降は飛んでいない」ということで、青森市周辺からは手がかりが浮かんでこない。

三沢米軍は一〇日から一四日までF16による部隊運用訓練を実施したが、一三日夜は閃光は目撃されなかった。飛行物体の確認に対して基地報道部は「夜間は航空機も飛んでおらず、飛行物体を飛ばす訓練もしていない」と言う。

東奥日報紙にこの記事が掲載された九月一四日の夕方、「私もその光る飛行物体を見た」と直接筆者に情報が寄せられた。筆者は勤務中であつたのでインタビューの了解を得て、後日直接本人から詳細を聞くことができた。

この方は筆者の地元、青森県東北町在住の二ツ森誠さん（二七歳・酪農業）である。実は筆者の後輩であり、以前

からの顔見知りである。

東北町は青森県の東部に位置し、米軍基地のある三沢市に近い町である。

二ツ森さんのお宅は三六〇度見渡すことができる非常に見晴らしのよい高台にあり、八甲田山を南西の位置に望むことができる。

以下は二ツ森さんへのインタビューの内容である。

「どういう状況で見たんですか。牛舎の仕事を終えて住宅に向かつて歩いているときに、ふと八甲田山の方角を見ると、そこにヘンな光体があつたんです」

——ヘンというのは？

「最初は星かなと思つて見ていたのですが、よく見ると左右にフワフワと少し動いているんです」

——明るさとか、大きさはどうでしたか。

「明るさは星より明るくて、この辺よく米軍や自衛隊のジェット機が飛ぶでしょう。あれ位の明るさかな。色は白っぽくて、二秒間隔位に一回点滅していました」

——光体は一個ですか。

「いいえ、五、六個ぐらいありました。五、六個の光体が左右にフワフワと動きながら点滅していたんです」

——時間はわかりますか。

「九時二五分頃だと思います。約五分間見ていたと思います」

——どんなふうに思いましたか。

「やっぱりUFOだなと思いました。実は前にも何度かUFOを見たことがあるんです」

そう言つて二ツ森さんは過去のUFO目撃談を語ってくれた。最初は小学生のときで、星だと思つて見ていた四つの光体が急に動き出して、夜空を遊び回つていたという。中学生のときは北の方角の夜空を西から東に向かつて飛行するレンズ状の大きな光体を目撃。最近では一昨年、不規則なジグザグ飛行をする三、四機のUFOを夜間一〇分間ぐらい目撃していたという。

二ツ森さんはまさに「UFOをよく見る人」であつた。インタビューの最中にわかつたことであるが、二ツ森さんは、私が以前委託販売をお願いしていた書店で何度かUコン（UFO contacted）を購入して読んだことがあるという。UFOには多大な関心があるらしい。

——ほかに何か気付いたことはありますか。

「ちょうどその時間に、米軍か自衛隊のジェット機だと思ふんですが、二機頭上を飛んで行きました。三沢の方角から来て野辺地の方向に（南から北に）飛んで行きました」

新聞報道では、この日のこの時間、米軍も自衛隊も飛行機は飛ばしていないという。また閃光も目撃されなかつたと言っている。しかし日頃米軍や自衛隊のジェット機の訓練飛行を見慣れ



▲東北町の自宅前から1990年9月13日(木)夜、9時25分から5分間、西の方向の空に出現した奇妙な光体群(5~6機)が空中に停止した状態で浮かんでいるのを目撃した二ツ森誠氏(27歳)が、写真中の同じ位置にペンで描き込んだ図。白色の光体群は1等星よりも明るく輝いていた。2点共撮影/中根 豊



▲二ツ森誠氏

ていて、またそれらの騒音に悩まされている地元住民の二ツ森さんが見間違いない聞き違いをするのだろうか。

実は筆者自身もその夜、自宅上空を通過してゆくジェット機の爆音を聞いている。一三日午後一〇時一〇分、深夜の突然の爆音に妻と二人で憤慨していたのをはつきりと覚えている。

光る飛行物体が八甲田山上空に現れ

(2) カマボコ型の美しいUF0が――

ところがまたもや青森県内でUF0目撃が発生した。九月一三日の八甲田山上空に出現したUF0群に続き、今度は県西部の五所川原市上空にUF0が出現し、市民の話題を集めた。後日、第一発見者の秋山厳二氏と、UF0の写真を撮影した東奥日報社のS氏に、それぞれお話をうかがうことができた。

まず第一発見者の秋山厳二さん(四三歳・柔道整復師)にお話を聞く。

「一番最初に見たのは午後六時一五分頃です。私は五所川原第一中学校で柔道を教えているんですが、その日も新町の職場から車で五所一中に向かっていったんですが、鎌谷橋付近にさしかかったとき、何気なく前方の梵珠山上空を見たんですよ。最初は星のような感じでした。それが水平にスーッと動いて行っただけですよ。何となくヘンだな、おかしいなと思いました。そうしたら今度は、それが急にUターンしたんで

ていた時間に、数機のジェット機が付近を飛行していたのは確かである。スクランブル発進した米軍機あるいは自衛隊機であるかもしれないが、確証はない。

いずれにしても一三日夜、八甲田山上空に出現した光る飛行物体群の正体は今もってナゾのままである。

すよ。びつくりしましたよ。それで鎌谷橋を渡って左折し、車を止めて、降りて見たんですよ。その光る物体は梵珠山の上空をゆつくりと行ったり来たり蛇行して飛んでいました。それを見たとき「UF0かな?」って思ったんですよ。そこで約一〇分ぐらい見てましたかね。

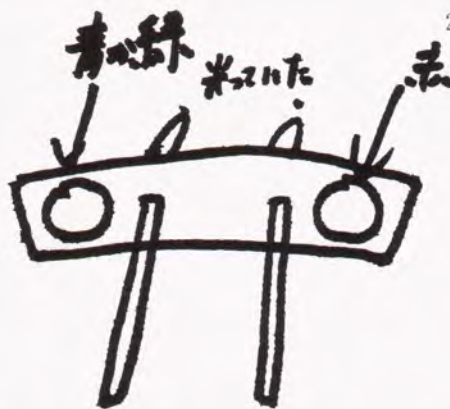
それから中学校に柔道の指導に行っただけで、その日はいつもより早目に終わって、その日はそれで中学校の前からまた空を見たら、まだ見えるんですよ、一時間過ぎてても。

それで中学校の向いの小児科医院の駐車場に車を止めたんですよ。いつもはまっすぐ自宅に帰るんですけど、この日はどういいうわけか、車を止めて降りたんですよ。なぜか空を見たかったんですよ。

そうしたら、突然北側の民家の屋根の上がパッと青く光ったんですよ。そし



▲秋山氏が見たUFOの第2発見場所。この民家の屋根の向う側から光体が現れた。 2点共撮影/中根 豊



▲秋山氏が描いた物体。



▲秋山巖二氏



て、その屋根の上からズンズンと出てきたんです。円柱を半分に切ったような細長いカマボコ型のような形で、左側が青が緑、右側が赤く光っていました。まるでテレビゲームのインペーダーのような形でした。それがズンズンズンと頭上を越えて、民家と反対側の五所一中の体育館のドーム状の屋根の向こうに消えたんです。消えるときに、まるで足のようなものが二本見えただんです。光っていたから、そのように見えたんです。

スピードは速いですよ。飛行機はあんなに速くないと思う。静かにスーッと速いし、きれいなんです。何しろ軽そうで、透きとおった感じで、まるで海のクラゲのような感じでした。最初それを見たとき、その光で顔とかが焼

(3)見事に撮影されたUFO

光る物体の写真撮影に成功した東奥日報社のSさんに、お話をうかがった。「一八日午後七時半頃、第一発見者の秋山氏より不思議な光体が上空に出ていくとの電話を受けました。それで私もすぐに社の屋上（四階）に上がって双眼鏡で探してみました。家内が先に見つけたんですよ。北東の方向、カシオペア座と梵珠山のある中山山脈の中間あたりに、星より大きい光が動いていました。」

それから、これは当分消えそうにな

けるんじゃないかと思いましたよ。すごくきれいだったんです。まるであの『未知との遭遇』の映画を見ているような感じでした。それを見たもんだから、もうビックリしましたよ。

それで走って行って、近くの公衆電話から新聞社に電話したんです。そのあと自宅に帰って、家族の者とまた同じような光る物体を見たんです。それから新聞社から電話があつて、今度はそちらの方へ行って、新聞社の方と一緒に八時半頃までその物体を見ていたんです。

結局、六時頃から八時半頃まで、そういうのが見えていたんです。UFOだと思えますよ。この宇宙に地球人より優れた生命体がいっても不思議じゃないと思う。いっぱいいると思いますよ。

と思ったので、三脚と二〇〇ミリの望遠レンズをつけたカメラを持って来て写真を撮りました。始めはカラーだったんですが、ASA一〇〇〇で感度が低かったの、それを撮り終えてから、白黒のASA一六〇〇で撮りました。

光体の距離、高度は全然判別できません。その辺の星と見くらべても、はるかに大きい光体です。そして、その光は赤や青や緑や黄色の、三つか四つからなる光の輪なんです。そしてその光が曲がるんですよ。まるでシヤク

トリムシのように、まっすぐになったり、グニャグニャになったり、瞬間的にキュンキュンと。

私はあまり目がよくないので、ちやうどそのとき、社のビルの中にある塾の子供達が休憩で屋上に上がってきたので、「お前たち、いいものを見せてやる」と言って一緒に見たんですよ。彼らの目にもシャクトリムシのようにまっすぐになったり、グニャグニャになったりする光体が見えました。彼らは私よりはるかに目が良いので、肉眼でも見えたそうです。

あの写真を撮ったのは七時四五分頃です。一五秒の露出でこれぐらい動いているんです。星なら絶対こんなに動かないですよ。

●田村嘉彦

(4)青森市内のUFO目撃

一四日付朝刊のUFO群目撃記事が大きな話題となっていた。

筆者も当然この話を会社ですることとなるが、中村主任の妹さんが不思議な飛行物体を見ているということで、後日妹さんの中村恵子さん（三三歳・サービス業）を交え目撃場所を尋ねることができた。以下はその内容。

——どのあたりで見たんですか。

「ちやうど赤い屋根の上で、最初飛行機だと思ったんです。でも少し変に思っ

たまたまこの時間帯に、一〇分ぐら

いの間に二機、飛行機が通っているんです。これはあきらかに点滅するような光で、光跡もまっすぐで、飛行機だとわかります。しかしあの光体はキュンキュンと動くんですよ。

七時半からかなり長い時間見えていましたが、八時半過ぎに雲に隠れて見えなくなりました。

星ではないことは確かです。飛行機でもない、ヘリコプターにしても四〇分も五〇分も同じところにはいないし、アドバレンでも、ゲイラカイトでもない。そうやって消去法でやってみて残るのはUFOかなあ。とにかく私達にはわからない「物」だということですね。

後ろにそれよりも少し暗い光が五個か六個いつしよに着いて飛んでいたんです。

電線が邪魔して見にくかったけど、先頭の二つが少し前後しながら飛んで後ろの五く六個は形が一定で揃ったまま飛んで行ったんです。

——大きさは？

「星よりも幾らか明るいぐらいでした」

——それは何時頃ですか。

「九時四五分頃だったと思います。スパーの向かいの自動販売機に行く途中で少しその光を見て、買ってからまた

▼9月18日夜、東奥日報社（青森市）のS氏が撮影したUFO。



振り向いてみると、もうずっと向こうに飛んでいたんです」

——その間は何分ぐらいですか。

「大体三分ぐらいだともいます。まもなく団地の家並みに隠れてしまったんです。あのようなものは始めて見ました」

他に筆者の同僚も見たと言い出したので付け加える。

鹿内勝彦氏（二六歳・会社員）

——どんな状況で見たんですか。

「友達と二人パチンコを終えて両替しようとして外へ出たんです。ふと、八甲田山の方向（市内より東南方向）で二個の光を見ました。ちやうど閉店間際で夜の九時四五分頃でした。

「何だろう、飛行機かな」と思い、あまり気にもとめないですぐ友達と帰

つてしまったんです」
——色や形などは？

「普通の白い色で、星よりは明るい感じで、動いていないように思えたけど。山の頂上付近か少し右側だと思います。ただ日にちがどうしても分ならず、一二日か一四日のどっちかです。一三日は夜遅くまで仕事をしていましたから」

このように偶然にも筆者の近くで目撃者が二名もあり、幸運であったと最初は思ったが、他にも目撃したという話を仕事先で聞いたので、青森市内では相当数の目撃があったように思われる。

▼中村恵子さんが見たUFOを写真中に描いたもの。八甲田山方面へ移動している。



▲鹿内氏が目撃した八甲田山上空のUFOを写真中に二個の黒点を描いて示す。



さて、私(田村)自身も一〇月二八日(日)の夕方、UFOを目撃した。場所は五所川原市内で、時刻は五時から五時四〇分頃までのあいだである。

出現したのは二種類の飛行物体で、星よりも少し明るく、白色で、赤や青の光もあった。三、四個が一度に出たときもあったが、これはすぐ消えた。

岩木山(いわきやま)の方向より出現して私達のまわりをぐるっと旋回し、また岩木山の方向へ消えた。途中、旅客機が二度通ったが、これは爆音が聞こえたとし、双眼鏡で見ると、少しくすすと飛行機雲のスジが見える。しかし奇妙な物体

のほうは無音で、飛び方が不規則だった。

家内は「ほら、前に出た、後ろにも出た!」と叫びながら空を指して、青い光体だと言うが、私は写真を撮ろうとして三脚にすえたカメラのファインダーをのぞくのが精いっぱい、UFOの色や方向などはあまり覚えていない。ここに掲げた写真は一七枚撮ったうちの一枚である。二個の光体が小さな円を描きながら上昇しているように見える。

以上の他にGAP会員・本堂富昭氏(平内町在住)が九月にUFOを目撃している。以下は氏の手記。

「九月一三日夜、八時二〇分頃、国道四号線ぞいのレストラン『ボンジュール』駐車場に車を停めて上空を眺めていました。

私と鳴海清子さんが最初八甲田山の近くに動く光る物に気づき、飛行機かなと思って見ていましたが、飛行機だ

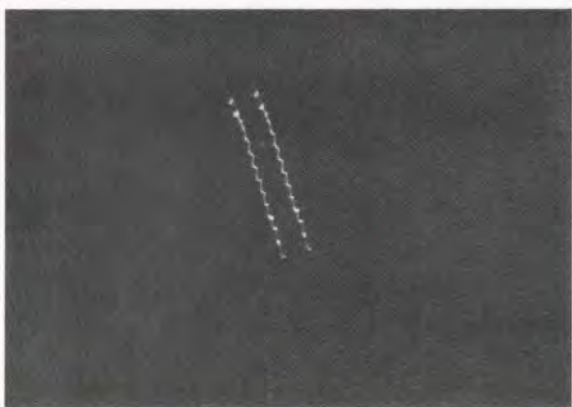
▼八甲田山をバックに本堂富昭氏。



と点滅灯が光るはずなのに点滅せず、直線的に北から南の方向に飛行するので、何だろうと見ていました。

一分間ぐらい見ていましたら、その光体とは離れた所で二回点滅をくり返し、またその光体は直線的に移動しましたが、霧がかかっていたので光体は見えなくなりました。明るさは一等星ぐらい。高度は二五〇〇メートルぐらいだと思います。内部からわき起こってくる「感じ」を待っていたらよかったのですが、心が騒ぎだてるものから円盤という印象をつかめませんでした。心をコントロールすることの重要性に気づいた体験でした」

▼筆者(田村)撮影のUFO (上掲三点共)





A UFO Near Mt. Kammuri

冠岳のUFO

日本 GAP 会員・抜迫英子（ぬきさこえいこ）さん（鹿児島市）が、1988年（昭和63年）11月20日、苦しい難病の弟さんに大自然の清純な空気と美しい風景に触れさせようと思い、両親とともに4人づれで鹿児島県串木野市の冠岳（かんむりだけ・標高516m）に登った。ここは秦の始皇帝が派遣した徐福が不老不死の仙薬を見つけて冠を捧げた場所という伝説の山。蘇我馬子の建てた勅願所もある。抜迫さんは大空を仰ぎながらテレバシーでスペースピープルに呼びかけた。「どうぞ弟の病気を治して下さい!」。そして写真を撮ったら空中に UFO らしきものが写っていた。しかもそのとき以来、弟さんの病気は不思議に全快した。写真中の UFO は本物だと秋山真人氏が鑑定済。

(15頁より)佐塚 そのうちの一つを話して頂けませんか?

「うーん。話してもきつと理解出来ないと思うよ。」

佐 ジョークだからですか?

「ジョークだつて? それどころではない。彼の話はジョークなどという言葉ではとても表現出来ない。そうだね、ジョークの固まりとでも言つたらいいだろうか。彼はいわばジョークの王様だつた。彼はいつも人々をからかつては楽しんでたんだ。もちろん、それをまわりの人々も楽しんでたんだだけだね。」

彼はとにかくよく喋つた。喋つて喋つて喋り抜いていたものさ。

たとえば私たち夫婦が朝七時ごろにリビングルームに入つて行くと、彼はもうそこにいて、

「やあ、お早う皆さん。さあ、こちらへどうぞ。一緒に話そうじゃないか」と言うんだ。

そこで私が、

「ジョージ、まず朝食を食べようじゃないか」

と言うと、彼は、

「おい、君たちは食べ過ぎだ。そんなことよしてこつちへ来いよ。さあ、ここへ来て一緒に話そうじゃないか」と言つてきたものさ。

そのあと仕事に出掛けた私が、夕方五時頃に戻ると、彼は私の妻を相手に朝と全く同じ場所に陣取つて、まだ喋

り続けていたんだ。

そこで私が、

「ジョージ・夕食にしようよ」と言うとき、彼はまた、

「おい、君たちは食べ過ぎだよ。そんなことよして話そうじゃないか。ここへ座れよ」と言うんだから参つたよ。

そしてまた話して、午前二時頃、私が、

「ジョージ、そろそろ眠ろうよ。私は六時に起きなければならぬんだ」と言うとき、彼は今度は、

「おい、君たちは眠り過ぎだよ。そんなことよして、もつと話そうじゃないか」と言い出す始末だつた。

仕方なく私は、彼をひつつかまえてまず洗面所に連れて行き、歯を磨かせてから、またつかまえてベッドルームまで連れていったんだが、その間も休まずに彼は話して続けたものさ。

そして、少なくとも私の家に滞在中、彼はおそらく全然眠らなかつたはずだ。彼は全く眠つていないんだ。驚かないのかい? 彼は眠らなかつたんだよ!

実は、彼が滞在中、私は毎晩夜中の二時過ぎに彼をベッドルームに送り届けたんだけど、私とその部屋を出るとき、彼はオーソンからもらつたというガウンを着て、ベッドの住みに腰掛けていた。煙草を吸いながらね。

そして朝、彼の灰皿を見てみると、そこには常に二〇本分の吸いガラがあ

つたんだ。彼はいつも朝六時にはその部屋を離れてリビングルームに出て来ていた。

それが何を意味するかというと、つまり彼は二時から六時までの四時間の間に、二〇本もの煙草を吸つていたということだ。一時間に五本もの煙草を吸つていたんだ。いっただいそんなに頻繁に煙草を吸いながら眠ることが出来ると思うかい? 絶対に無理だ。それが毎晩のことだつたんだから、驚きだよ。

久 全くだね。しかし彼はそんなにヘビースモーカーだつたのか。

「ああ、凄いいへビースモーカーだつた。そのせいもあつたんだらう。一日中喋り続けていると、最後にはきまつて喉の調子が悪くなつて、とてもつらそうに咳き込んでいたものだ。」

彼が初めてそのように咳き込んだとき、私は

「ジョージ、君は喋り過ぎだ」と言つたんだ。

でも彼は、

「いや、そんなことはない。ウイスキーをくれないか。それで一発だ」と言うんだ。

それで彼にウイスキーをやると、今度は黒胡椒をくれという。そこで黒胡椒をやると、彼はそれをウイスキーに入れて掻き混ぜた。そして、その黒胡椒入りのウイスキーを一気に飲み干したあとで、少し咳払いをして、

「よしこれでもう大丈夫」と言うんだよ。

そして実際、次の日の朝には、喉の調子がとても快調になっているんだからね。驚きだよ。毎日、午前二時ごろになると、彼はその黒胡椒入りのウイスキーを必ず飲んでたんだ。

久 彼はウイスキーが好きだつたのかい?

「いや、のべつまくなしに飲んでいたらわけではない。喉の調子が悪くなつたときだけ、まあ、きまつて夜中の二時頃だつたけどね、そのときだけ、しかもグラスに一杯だけウイスキーを飲んでたというときさ。」

それから彼はほとんど何も食べなかつたね。また、ほとんど何も飲まなかつた。飲まず、食わず、眠らず、といったところさ。

一度などはフルーツの入った皿を手渡したんだが、彼はフォークをただそれに突き刺してもあそんでいるだけなんだ。そして話すのもやめようとし

ない。

そこで私は言つた。

「なあジョージ、少し食べなきやだめだよ。あんたは喋りすぎだ」

ところが彼は、私がそう言つても、「そんなことはない。君たちは食べ過ぎなんだ」と言うばかりだつた。

久 いやあ、面白い話だね。

(以下次号)

下のテープの中から、お好みのテープを1本無料進呈!!

●無料で効果を試せるチャンス!!

あなたはどこまで変われるか?

日本全国で話題になっている「α波音楽に耳に聴こえないメッセージを同調させた」『サブリミナルテープ®』その人気シリーズのベータシックテープを、下記のシステムにて無料でお届けします。

今すぐお電話・お八ガキでお申込み下さい。

BGMとして聴くだけで効果が!!

このサブリミナルテープ、耳に聴こえるのは、うっとりするような美しいメロディーの心がゆたたりとくつろいでくる静かな音楽だけです。(日本の曲では、喜多郎の音楽にイメージが似ている。この音楽だけでもストレスを解消し、気分をさわやかにするすぐれた効果がある。)しかし、実はこの音楽に、ハルバーン博士を始めとする専門家の手によつ



ただで、記憶力・集中力等が自然に高まる。仕事・勉強の能率が驚くほど上がる。知らず知らずのうちにまわりの人から好かれるようになってしまふ。という現象を引き起こす秘密なのです。

「本を読んだり趣味一筋中している時に、BGM音楽として聴き流しているだけで夢がかなってしまふ」——このアメリカの苦勞いらすの科学的プログラムの効果を実際に自分自身の手でお試下さい。

無料でお届けするサブリミナル・ベータシックテープのタイトル (下記のシリーズの中から1つお選び下さい。)

シリーズ名	ベータシックテープのテーマ・タイトル
① 恋愛成功(BM)シリーズ	「女性への緊張感の除去」
② 積極的性格(PC)シリーズ	「本来の自分を取り戻す」
③ 魅力的性格(AS)シリーズ	「自分自身への自信」
④ 脳力開発(AD)シリーズ	「自分の能力への自信の強化」

サブリミナルテープ(ベータシックテープ)申込み要項

サブリミナルテープ頒布会をシリーズのベータシックテープを、次のようなシステムにて無料でお届けします。以下の要項を良くお読みになり、ご希望のテープをお申込み下さい。

●ベータシックテープは、各シリーズの第0回目以降のテープとしてお送りいたします。

●お届けするベータシックテープは、お申込みになられたシリーズの、第1回目以降のテープご購入の有無にかかわらず、無条件で無料です。

●ベータシックテープを無条件でいただきました。そのシリーズの頒布会員に自動的に登録され、キャンセルの通知がない場合は、翌日よりシリーズ第1回目以降のテープを毎月自動的にお送りいたします。

●第1回目以降は一年間の会費制の頒布会費としてお届けします。毎月各テーマ別のテープを1巻ずつ(テープ1本)だけですが、複数のベータシックテープのお申込みに関しては、

- ① これで女性も思いのまま
恋愛成功シリーズ(BM)シリーズ

BGMシリーズのお届けする各テーマの内容は、●個性的魅力を出す●女性と理想の関係を持つ●理想的パートナーを得る●女性への絶対的自信●積極的思考の習慣●失敗への恐れを完全克服●達成能力の獲得●他人を無条件で引きつける●性エネルギーの強化●思い即行動●自分の絶対的信頼●あふれるばかりのエネルギー
- ② 内気な性格が社交的人間に
積極的性格シリーズ(PC)シリーズ

PCシリーズのお届けする各テーマの内容は、●積極的自己イメージの確立●コンプレックスの除去●自尊心の抑制●人見知りの克服●ストレスへの感情表現●異性への積極性の獲得●社交性を身につける●積極的な自己主張の習慣●ダイナミックな行動力●積極的な笑顔●積極的な信頼●強烈なエネルギーを放つ●積極的な性格の実現
- ③ 誰かよりも好まれる人気者に
魅力的性格シリーズ(AS)シリーズ

ASシリーズのお届けする各テーマの内容は、●自分らしさの発揮●自分の魅力の自覚●魅力的パワソナリティーの開発●秘められた魅力の発掘●自分だけの魅力・個性を磨く●魅力的な感情表現●精神的抑圧からの解放●感情の自由な制御●他人への執着からの解放●性格的ゆがみの矯正●いつも魅力的にふるまう習慣●誰からも好まれるキャラクターの獲得
- ④ 記憶力潜在的知能を開発
脳力開発シリーズ(AD)シリーズ

ADシリーズのお届けする各テーマの内容は、●記憶力を高める●IQ(総合的知能)の開発●独創的な創造力を身につける●仕事・試験で高成績を上げる●ヒラメキ・直観力の開発●論理的・数学的才能を高める●問題処理能力の強化●頭の回転を速く●文章表現力・語学的才能の開発●洞察力・高度な思考を身につける●理想的脳波(アルファ波)の強化●独自の才能の発揮

第1回目以降にお届けするテープのテーマ名は次の通りです。

一九九〇年度★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★ 日本GAP総会、盛況

昨年九月二四日、東京都中央区銀座の銀座ガスホールで一九九〇年度日本GAP総会が開催された。連休の最終日ということで出席者はかなり減少するものと予想していたが、正午の受付開始とともに順調に全国からの出席者が訪れ、最終的に一七〇名に及ぶ大盛況ぶりとなった。

昨年の日本GAPは、中央アート出版社から「新アダムスキー全集」が刊行されたり、第一回UFO観測会の開催、久保田会長がデンマークGAP大会に招待されるなど新しい活動が目立った年であったが、それは全国の会員の方々にも共通することらしく、出席された方々の目は一様に輝いていた。

午後一時に始まった総会は、日本GAP会員であり、医師でもある原永庫氏と、日本GAP会長の久保田八郎先生が、それぞれ多数のスライド映写を交えて素晴らしい講演を展開された。

原氏のお話は、アダムスキーの「生命の科学」のほんの数行に対する専門的な関心をもとに進められた生物学的な研究成果という、素人の私には聞いていただけで精一杯という難しい内容が多かった。しかし、後の質疑応答では原氏に対する専門的な内容の質問も

多く出され、今回出席された方々の熱意と学習内容のレベルの高さに改めて驚かされた。

原氏のお話の面白いところは、生物学・医学の分野だけの話をされるのではなく、UFO研究界、政治面についても独自の明確な意見を持っているところにある。しかもそれは感情に左右される根の無いものではなく、主に医師という立場と実績に裏付けされた正確な分析であるところに強みがある。

と表現してしまうと読者に厳格なイメージを与えてしまうかも知れないが、実際の原氏はその肩書きにこだわらない、気さくな大変楽しい方である。

久保田先生の講演でも多数のスライドが上映された。ご幼少の頃の写真から現在の日本GAPの活動に至るまでの写真など、大変貴重で興味深いものばかりであった。そして、久保田先生は本場にこの活動をなさるために生まれて来られたのだということを、視覚的な情報から再認識させられた。

お二人の講演内容の詳細は伊東芳和氏がビデオテープを頒布されているので(五一頁の広告参照)省略するが、個人的には想念の重要性——特にプラ

スの想念を持つことの大切さについて深く考えさせられた総会であった。

総会はお二人に対する質疑応答、花束贈呈と続き、高次元な雰囲気になって終了した。

午後六時四十分からは会場を中央区晴海のホテル浦島に移し、大夕食会が開かれた。今回は「新アダムスキー全集」を刊行していただいた中央アート出版社の吉開社長をお招きして、全国のGAP会員の感謝の気持ちを込めた花束を贈呈した。

会場では全国から来られた方々がなごやかに談笑する光景があらこちらに見られ、おなじみの佐藤春雄氏、坂本真一・茂子夫妻、スカウトシツプの方々の素晴らしい歌や演奏がその愉快な雰囲気を一層盛り上げた。また、たくさん豪華な商品を揃えた福引きも大好評を博し、大夕食会は楽しく終了した。

このまま終わってしまうのは名残惜しいという方々のために、さらに場所を移して二次会を開催。懐かしい顔、新しい顔を問わず約五〇名の方々が深夜まで喜びと笑いの渦に包まれた。

今回の総会で特筆すべきことが一つある。それは総会終了後、東京本部役員の篠芳史氏も強調されていたことだが、「今年(一九九〇年)の総会には出席された皆さんが作って下さった総会だった」ということである。

今までがそうでなかったというわけではない。毎年盛大な総会が開催でき

たのも全国の会員の皆様の目に見える、あるいは目に見えないご支援の賜物である。しかし今回は、銀座ガスホールで受付をしているときに感じたウキウキするような印象や出席者の方々の笑顔、会場内ですれ違うときのちょっとした挨拶、夕食会の準備を手伝って下さった方々のにこやかな表情、グラスを傾け、語り合う心地良さ——それらすべてが、何かいつもと違っていた。言葉で正確に表現するには困難を感じるが、「いつもより深い楽しさ」というか、あるいは「調和」というか、とにかく話をしていて「あ、通じてる」という感じがした。出席された方々が自ら総会や大夕食会や二次会等を楽しもうとしている姿勢が伝わって来るのである。

私自身は本部役員の一人として例年通りの仕事をしていたに過ぎないのに、何かしら楽しく、スムーズに過ごせたのは、きっとこうした皆様の素晴らしいご協力のお陰であると確信している。そうでなければ篠氏が久保田先生に向かつて「いやー、良かったですね」と相手を崩して報告するはずがない。

最後になってしまったが、ご多忙にもかかわらず素晴らしい講演をしていただいた原永庫氏、超人的なパワーで私たちを導いて下さる久保田先生、そしてご多忙中を全国から駆けつけて下さった皆様に心から感謝申し上げて結びとしたい。

(安藤澄雄)



写真

右=①会場受付、②篠芳史司会者、③原永庫講師、④久保田会長。

中=①中央アート出版社・吉開社長の挨拶、②大阪支部ご一同さま、③佐藤春雄氏の民謡、④民謡を鑑賞する出席者。

左=①坂本貢一・茂子夫妻のアメリカ民謡、②宇賀地孝子さんの独唱、③楽団「スカウトシップ」の演奏、④フィナーレの全員の踊りの輪。

GAP短信

GAP NEWS

■デンマークGAP大会における会長の講演、大成功

昨年一〇月一七日にデンマーク・コリン市で開催されたデンマークGAP大会で行なわれた久保田会長の講演は大成功を収めて二日に無事帰国した。詳細記事が本号に掲載されている。これにより日本GAPは国際的進出の幕をあけた。

■新アダムスキー全集刊行ほぼ完了

昨年四月より開始された新アダムスキー全集は好評裡に刊行が続き、昨年一二月で第七巻「二世紀の宇宙哲学」を出版、今年一月末に第八巻「UFO・人間・宇宙」が出て、予定どおりの出版が完了する。しかしこれまで本誌に掲載しながら新アダムスキー全集に集録されていない文献類が溜まってきたので、これを編集して新全集の第九巻として引き続き刊行される予定。詳細はいずれ本誌に出る。

■秋田・青森合同支部大会、盛況

去る一月三日、秋田市で開催された第三回合同支部大会は四三名の出席者を得て盛況裡に終了した。東京方面からも多数参加して予想外の充実した集いになった。詳細は本号37ページに写真入りで掲載。

■今年度地方支部大会開催予定

今年度は昨年一二月末時点で左記の二支部が開催を予定している。

①第一二回山形・仙台合同支部大会
五月四日天童市の中央公民館にて午

後一時より。詳細については本号47ページの予告を参照。多数参加されたい。

②旭川・札幌合同支部大会

六月二三日(日)に北海道旭川市にて開催の予定。詳細は四月発行の本誌次号に掲載。

■今年度海外研修旅行

九一年度日本GAP海外研修旅行はアダムスキー生誕一〇〇年・日本GAP創立三〇周年記念として、アダムスキーゆかりのアメリカ西部・東部と生命の科学学園建設予定地だったメキシコを巡る旅を八月に実施する。特に今回は本誌連載記事「UFO—宇宙からの完全な証拠」の筆者・ダニエル・ロス氏とバメラ夫人がロサンゼルスで合流し全コースに同行、一九八八年度日本GAP総会で講演したアリス・ポマロイ女史もメイン州からニューヨーク市へ駆けつけてワシントン市まで同行する。その他カリフォルニア在住会員・芦田殉子さんも合流、ニューヨーク市では同市在住会員・クニコ・ディビッドウィッツさんも一同を歓迎する、という豪華版。多数の参加が期待される。詳細については本号35ページの広告を参照。

■東京月例会、日程その他を変更

従来、東京月例会は毎月第二土曜日の午後開催していたが、仕事の都合で土曜日に出席できない方々のために今年二月より毎月第一日曜日に変更す

るので、お間違いないよう注意されたい。また月例会の内容も一新し、会長の講義や遠藤講師の指導にさいしては実物投影機を使用、テキスト、写真、図面等をスクリーンに大きく映写しながら解説する。これにより視覚教材で理解度の飛躍的向上が期待される。

さらに一二月より毎月会場内にビデオカメラを設置して解説講義その他を撮影し、これをVHSにダビングして安価で頒布する。詳細に関しては本号巻末のカタログを参照されたい。

■日本GAP全国ネットワークUFO観測会を実施予定

昨年六月に東京本部主催で静岡県朝霧高原にてテレパシーコールUFO観測会を実施したが、全国各地より二三名も参加したにもかかわらず、当日は土砂降りの雨のため発に終わってしまった。これにかんがみて今年は一カ所に各自適当な場所まで一斉にテレパシーコールUFO観測会を実施することに決めた。左ページの予告を参照の上、最寄りの支部観測会に多数参加されたい。

■特別維持会員募集

かねてから日本GAPは普通会員とは別に特別維持会員制度を設けて、資金面の充実を図っている。世界UFO研究界で万々の名を吐いている久保田会長が後顧の憂いなく大健闘を続けられるように多数の参加が望まれる。会費は毎月一口二〇〇〇円。一人何口で

も可。維持会員には毎月会長のエッセー(随筆)「意識の声」が贈られる。一月現在で第六号を刊行中(会長みづからワープロを使用して製版、コピー製作)。希望者はハガキで日本GAP宛案内書を申し込まれた。

■書店卸ボランティア募集

日本GAPは、宇宙的カルマを持ちながら本誌の存在を知らぬ人達を発掘する目的で書店へ直販している。すでに約一〇〇名の会員がこれに協力中であるが、まだ未開拓地は無限にあるので多数のご協力を期待している。詳細に関してはハガキで照会あり次第案内書をお送りする。

■資金作りの一端として日本GAPは各種グッズを頒布してきたが、このほどキーホルダーを製作、頒布を開始した。青地に金色のシンボルマークを中心に、周囲を金色の英文「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)GAP-JAPAN」が囲む優美なもの。巻末のカタログを参照の上、注文されたい。

■前号に予告したとおりGAP会員・小島岩男氏と宇賀地孝子さん(東京)は二月二日都内「私学会館」でめでたく盛大な披露パーティーを開催して多数の会員の祝福を浴びた(ちなみに会員同士の結婚の場合はGAP主催で会費制により立食形式パーティーを開催することが多い。このようにすれば新郎新婦の負担はゼロになる)。

全国ネットUFO観測会

日本GAP企画第1回

★世界最初の全国規模テレパシーコール観測!

日本GAPは今年度より東京本部と17支部が結束し、全国に分散した状態で同一日時に一斉にテレパシーコールUFO観測会を実施することになりました。全国の会員の方は最寄り支部の観測会に多数ご参加下さい。下記の要領で行ないます。

- (1)日 時 と 申 込
観測日時は1991年5月25日(土)夜9:00より12:00まで。
現地集合に関する詳細については各支部代表へ電話で問い合わせ、参加を申し込み、資料の配布を受けて下さい。各支部代表の電話番号は52頁の「全国月例研究会案内」の各支部の欄に記載してあります。
- (2)参加資格
原則として日本GAP会員に限ります。ただし非会員でも熱意のある方は支部代表の判断により参加許可を与えます。
- (3)観測要領
各支部のリーダーが指示しますから、それに従って整然たる行動をとって下さい。ばらばらになって自己流でやらないこと。
- (4)観測報告
観測会の結果報告は各支部ごとに一括して6月5日までに東京本部へ送付します。(5日必着・会員個人で本部宛に送らないこと)。
- (5)結果発表
本年7月発行予定の本誌114号に掲載しますが、ほう大な量になる場合は分割して連載します。別に英文版 UFO contactee にも掲載し、世界のUFO研究団体に資料として送付します。
- (6)東京本部
東京本部の観測場所は検討中です。詳細については3月末までにハガキに住所・氏名・年齢・職業を明記し、「全国ネットワーク観測会の案内書送れ」と書いて本部宛請求して下さい。地図添付の案内書をお送りします(これは東京本部の観測会に参加する方に限ります。地方支部の観測会参加希望者は上記(1)の要領に従って下さい)。
- (7)天 候 等
悪天候の場合は観測会を延期します。但しその場合は参加申込者に中止する旨を事前に知らせますから、本部または申込支部に電話で連絡して確認して下さい。

(国内有力紙に掲載された科学記事を抜粋紹介。各記事未刊のカッコ内数字は掲載年月日を示す。)

世界初、六四メガビットDRAM

日立製作所は九〇年六月七日、半導体の代表的な記憶素子であるDRAM(記憶保持動作の必要な随時書き込み読み出しメモリ)で、六四メガビットメモリーの試作に世界で初めて成功したと発表した。実用化されれば、小指大の半導体チップ一個で新聞二五六ページに相当する漢字四〇〇万字、または約一時間の音声記録が可能となる。また乾電池(一・五ボルト)の低電圧での動作を実現した。日立は九五〜六年をメドに六四メガビットDRAMの実用化にこぎつけたと考えている。(90・6・7毎)

ミステリーサークルは、いたすら

麦畑に突如巨大な同心円などの幾何学模様が出現する「ミステリーサークル」をめぐる、英国内ではそのナゾ解きに一万ポンド(約二八〇万円)の賞金が懸けられるなど大きな騒ぎとなっているが、七月二九日付の英日曜大衆紙「ピープル」は、「かつて同様のサークルをひそかに作ったことがある」との人物の告白を掲載、ミステリーサークルが宇宙人のメッセージや、特殊自然現象ではなく、「全く人為的ないたすら」であると断定した。

「ピープル」紙にみずからの体験を告白したのは、オックスフォードシャー州に住むフレッド・デイ氏(五九)。同氏によれば、巨大なサークルを作るには、細長い木製の棒と地面に刺して中心点とする小さな鉄棒など身近な用具があれば充分で、同氏はわずか三分で麦畑にサークルの幾何学模様を作ってしまったという。四七年前の一・二歳のころからいたすら

としてやり始めたもの(7・30毎)
ソ連「ミール」がUFO発見

一〇月三〇日のモスクワ放送によると、ソ連の軌道ステーション「ミール」は二九日、地上との連絡の際、カナダのニューファウンドランド島地域でUFO(未確認飛行物体)を発見したと報告した。

「ミール」乗組員の報告によると、UFOは地球上空二〇〜三〇キロ地点に現れ、太陽光線をあびて輝く氷山のように見えたという。この謎の物体は、発見の七〜八秒後に消滅したという(10・1サンケイ)。

骨の欠損、サンゴで復元

奈良県立医大整形外科の大串始助手らの研究グループが天然サンゴを骨髄液に浸して体内に埋め込むと、新しい骨が活発に形成されることをラットを使った動物実験で突き止め、一〇月一日、一二日の両日、茨城県つくば市で開かれる日本バイオマテリアル学会で発表する。骨は無数にいたサンゴの穴の中で徐々に作られ、サンゴそのものは半年後に自然消滅するといひ、骨の欠損治療用の人工骨としての応用が有望視される。

骨の欠損治療は現在、患者自身の骨を切り取って移植する方法が一般的。しかし自家移植は患者の体力的な負担が大きく、セラミックスもサンゴのように吸収されずに異物として体内に残る難点がある。(10・7毎)

金星に七つのドーム

米航空宇宙局(NASA)のジェット推進研究所(カリフォルニア州パサデナ)は一六日、金星探査機「マゼラン」から送られたデータによる合成写真六枚を公開した。



▶惑星探査機「マゼラン」が撮影した金星の七つのドーム。

写真提供/ロイター

このうち注目を集めたのは、赤道南側の「アルファレジオ」と呼ばれる地域に、ホットケーキの形をした七つの山が重なったり離れたりして並んでいる写真ⅡA P共同

同研究所の説明では、地球上でも見られるような粘度の強い溶岩が穴から噴出して固まったものか、地表に押し出されたマグマの跡ではないかという。ドーム状をした山の直径は平均二五キロ、高さ七五〇メートル。

今回は、観測データから金星の地表の色を推測して赤みがかった黄土色に着色した写真も一枚出された(11・18毎)。

超高輝度LED太陽電池を開発

超高輝度の発光ダイオード(LED)を受光素子にした太陽電池の開発に、香川大教育学部の岡本研正助教授(四二)が世界で初めて成功した。現在四・五年しかもたない人工衛星の太陽電池の寿命も一〇倍以上に伸びるといふ。

岡本助教授が用いた超高輝度LEDはガリウムとアルミニウム、砒素から成る化合物半導体の赤色LED(直径〇・一センチ)で、世界最高クラスの輝度をもつ。この赤色LED一九四四個を長方形のパネル板(縦六〇センチ、横八五センチ)上に並べ、太陽光をあてて最大で五ワットの出力を得た。また、赤色LEDの並べ方を変えることで、一・五ボルトから三〇〇ボルトの直流電圧も確保出来たという(11・20毎)。

宇宙には始まりも終わりもない

英国ケンブリッジ大学のステイブン・W・ヘンキング教授は、国際シンポジウムに参加するために来日した際、朝日新聞科学部長の質問に対して次のよう

に答えた。

「ビッグバンはかつて「神の一撃」で起きたと言われた。この一撃はなかったのか。」

「私の初期の理論では宇宙の始まりはビッグバンであると考えていた。しかし今はビッグバンは実時間の始まりだとは考へるが、虚時間では、宇宙には始まりもなければ終わりもないし、境界もない」

「ニュートンにとつては神の存在が前提になっていたが、いまや神の役割はなくなったのか。」

「ニュートンは確かに神を信じていた。しかしニュートンの万有引力の法則のなかで、神はもともと何の役割も演じてはいない。万有引力の法則を使って惑星の運動を計算するのに、神は必要ない。私はさらに一歩段階を進めた。宇宙がどのようにして始まったかを、神に関係なく計算する可能性を理論で示した。だが、これは神の存在を否定するものではない。宇宙がどのように始まったのかを説明するのに、神を信じる必要はない、ということを示しているにすぎない」

「宇宙はわれわれのような一般人にはとてもイメージできない。教授はどのようにイメージしているのか。」

「私はそれを絵でイメージしている。他の人達にも、身近な絵、たとえば球の表面を使って(どこまでいっても果てがなく、始まりも終わりもないことを)説明しようとして努力している。これはある場合には非常にうまくいく。が、わかってもうえない場合がある(9・8朝)。

二千年間、山と思われていた「寝釈迦」

世界最大の大仏として知られる中国・四川省の楽山大仏を抱き抱えるようにそ

びえている山々が実は巨大な寝釈迦であることが同省文化庁の調査で証明された。寝釈迦の全長は四〇〇メートル以上もあり、地元の僧の話では二〇〇〇年前のものという。この寝釈迦は去年五月広東省から来た観光客が偶然に発見した。

四川省文化庁が今年九月、調査組を現地に派遣して調べた所、寝釈迦は頭が鳥尤山、身体が凌雲山、足が龜城山からなっており、頭を南にして仰向けに寝ていることがわかった。さらに寝釈迦の胸の部分に、高さ七一メートルの楽山大仏が彫られていて、「心中有仏」の形となっていた。寝釈迦が作られた年代は唐代より古いと思われるが、天然の山を利用して作ったのか、すべて人の手で作られたのかまだわかっていない、と新華社は伝えている(10・16朝)。

最大の銀河発見—米国のグループ

宇宙でこれまで判明した中では最大の銀河を、米国立電波天文台などのグループが発見し、米科学誌サイエンスに発表した。研究グループはアリゾナ州のキップック国立天文台の口径九一センチの望遠鏡を使い、銀河団アーベル2029の中心部を取り巻く散乱光を詳しく観察した。光を感度よく捉える電荷結合素子(CCD)で撮影した一六枚の写真を分析した結果、中心部に巨大な単一の銀河があることを確認した。

この銀河は一〇〇兆個もの恒星が含まれており、地球からは一〇億光年離れている(10・30朝・夕)。

超高速3000キロ新型列車

世界最高速を達成したフランス新幹線TGVに、統一ドイツも巻き込んだ超高速列車の国際スピード競争が激化する中、

JR東日本は十一月五日、「平成五年度末をメドに東北・上越新幹線に投入する」としてきた時速三〇〇キロの新型列車の計画概要を明らかにした。

営業運転に先立ち、平成四年春から時速三五〇キロでの高速実験を二年間実施する。安定した高速性能を得るため、試作車ではTGVの技術も参考に、車両の連結部を台車で結ぶ「連結台車」を初めて採用することを決めており、世界の鉄道はいよいよ「時速三〇〇キロの時代」に突入する。時速三五〇キロの実験車は空気抵抗を減らすため、先頭の形状をより流線型に改良。アルミ合金製の車体で、重さを従来型の半以下の三〇トン強にまで落とし、車体断面も九割程度に縮める(11・6読)。

太陽活動観測機「ユリシイズ」放出成功

五カ月半ぶりにケネディ宇宙センターから打ち上げられたスペースシャトルの「ディスカバリー」は、打ち上げ約六時間後の米東部時間一〇月八日午後一時四七分、高度約三〇〇キロの軌道上から搭載していた米欧共同開発の太陽活動観測機「ユリシイズ」の放出に成功した。さらに約一時間後、太陽の黄道面を通って木星へと向かった。

ユリシイズは、太陽と太陽風が作り出す粒子の流れや磁場の観測が目的。しかし直接、太陽の極軌道に乗せるにはパワーが足りないため、まず木星付近に寄り道し、その重力をうまく利用して加速、大きく軌道変更し、太陽の南極に向かう。木星への最接近は一年四カ月の後の九二年二月。九四年夏に南極を、翌九五年夏に北極付近を通過する予定(10・8読)。

人体から出る光で病気をスバリ

新技術事業団稲場生物フォトンプロジェクト(代表・稲場文男東北大電気通信研究所長)は、一月二十四日までに、人体から放出される生物フォトンの画像化に世界で初めて成功した。病人の代謝異常や生体のリズムなども光の変化として測定され、人体に手を触れることなく病気を診断する夢の「光診断」に一步近づいたと期待されている。

生物フォトンとは、生物の全身から極めて微弱な光が出る現象。動物の傷口や高血圧、ガン患者の血液、尿などでは光が弱くなることが知られ、生体の健康状態を把握するバロメーターとして注目されている。プロジェクトでは、微弱な光を検知する世界最高感度の光電子倍增管と画像装置を開発、東北大学医学部などで、二歳から八〇歳までの三〇人の患者らの生物フォトンを探らえた。その結果、睡眠時や夜間に発光が低下する「日周リズム」や甲状腺摘出者らの代謝低下とともに発光強度が落ちる様子も計測され、体調のバランスを忠実に反映することがわかった(11・25読)。

これが土星の大白斑—ハッブルが撮影

九月から土星の表面に現れて天文ファンの話題になっている巨大な白斑の写真撮影に「ハッブル宇宙望遠鏡」が成功し、米航空宇宙局(NASA)が一月二〇日、写真を公開した。

この写真は、地球周回軌道を回る口径二・四メートルの反射望遠鏡の惑星カメラを使い、一月九日、一日に青色と赤外線との二つの波長で撮影したもの。土星のリングの上方に見える白斑は、幅が一萬キロもあって地球が三個以上も入る大きさ。さらに大きくなりつつある



▶ハッブル宇宙望遠鏡がとらえた土星の大白斑。長さは数万キロに及ぶという。

写真提供/ロイター

という。ハッブル望遠鏡の高精度写真だと、白斑の縁に波打つような細部が見え、激しい循環運動が起きている様子がはっきり分かった。(11・21読)。

一七〇万年前! 中国最古の人骨

一月一八日付の「光明日報」によると、中国雲南省元謀県で発見された「元謀人」の化石を分析した結果、約一七〇万年前のものであった。中国で最古の人類として知られる北京原人を一〇〇万年さかのぼる新たな発見と同紙は評価している。

報道によると、元謀人は去る八四年に

脛骨が発見され、北京自然博物館や科学院古脊椎古人類研究所などによって研究、分析が進められてきた。同骨は長さ二二・七センチ、外観は赤褐色をしている。今回用いられた年代測定法は「古地磁気方法」「電子自旋共振法」「アミノ酸法」と言われるもので、すべて一七〇万年前と測定されたという(11・19読)。

ソ連でUFO解明研究所設立

モスクワ放送によると、未確認飛行物体(UFO)など解明されていない現象を研究するためのセンターがこのほどウラジオストクに設立された。所長にはソ連のUFO研究家ビタリー・ドブリヌイ氏が選ばれた。

同氏を中心とするUFO研究グループは、この現象の存在を証明する物質的証拠をふくめ、多数の興味深い資料を収集しているという(11・13読)。

レーザーでエイズを超高速で発見

日本電信電話(NTT)は一月四日、国立予防衛生研究所と共同で、レーザー光線を使ってエイズ(後天性免疫不全症候群)抗原を従来の一〇〇倍以上の高感度で検出する実験に成功したと発表した。NTTは、エイズ感染防止策や治療効果の判定などで向上への道が開かれると期待している。

実験に使われたのはNTTが三年前に開発したレーザー磁気免疫測定法という方式。ヒト血清に混入したさまざまな濃度の精製ウイルス抗原を磁性超微粒子と結合させた上で、レーザー光線を照射し、反射光の変化を調べること、検出感度を測定するとともに、患者から採取した血清でもウイルス抗原の検出を試みた結果、成功した(11・15読)。

日本GAP
企画第13回
海外研修旅行

アメリカ西部・東部・メキシコ・宇宙ロードの旅

アダムスキー生誕100年記念
日本GAP創立30周年記念

歓喜と感動の日々
アダムスキーの大地！
ムー大陸の光を放つ古代マヤの遺跡！

1991年
8月7日(水)→18日(日)
12日間
¥598,000

宇宙的な波動と光芒を放つアダムスキーの故郷とメキシコ・マヤの遺跡！
家族的雰囲気満ちた日本GAPの素晴らしい旅！
アメリカではダニエル・ロス夫妻、ロサンゼルス在住会員・芦田殉子さん、ニューヨーク在住会員・デイビッドウィッツ邦子さんが合流する予定。
さあ、行こう、肩を組んで、宇宙ロードを、誓いの友よ！

日程概要

1991年8月7日(水)成田発、同日ロサンゼルス着後市内観光、8日デザートセンターへ。9日パロマー登山、ア氏住居跡と大天文台見学、10日メキシコ・テオティワカンの大ピラミッドと市内観光。11日パレンケ遺跡見学。12日ウシュマル遺跡視察。13日カリブ海岸アクマルで海水浴。14日カンクン経由でニューヨーク入り。15日ニューヨーク市内観光。16日ワシントン市内観光、アーリントン墓地のア氏の墓参り。17日ワシントン発、18日(日)成田着。

詳細案内書は下記へハガキでお申し込み下さい。
(非会員でも参加できます)

ワールドセブントラベル株式会社

〒150 東京都渋谷区東3-24-9

サンイーストビル2F

担当：田中 正 ☎03-499-2461

※夜間は田中自宅

☎0474-77-4728へ。(夜10時以後受付)



▲左側上から、ロサンゼルス市内/アダムスキーの住居跡パロマーガーデンズ/パロマー天文台/ワシントン市アーリントン墓地のアダムスキーの墓を囲んで/同市のワシントン記念碑をバックに。右側上から、メキシコ・テオティワカンの「太陽のピラミッド」/メキシコ市内のグアダルベ寺院/パレンケ・マヤ遺跡の「神祕の神殿ピラミッド」/ウシュマル・マヤ遺跡の「魔法使いのピラミッド」/夢見るようなエメラルドグリーンのカリブ海とアクマルの浜。

(以上すべて1987年度第2次「アメリカ西部東部・メキシコの旅」で撮影)

企画：日本GAP

主催：株式会社日本旅行(運輸大臣登録一般旅行業第2号)

取扱い旅行代理店：ワールドセブントラベル株式会社(運輸大臣登録旅行業代理店業第1957号)

※参加費用・日程等には若干の変動があることをお含みおき下さい。

●正式参加申し込みメ切り

1991年7月20日

●旅行説明会

第1回目：1991年5月12日(会場等詳細は)

第2回目：1991年7月28日(次号に掲載)

Cosmic Philosophy is it!
by Kuniko Davidowitz

アダムスキーの宇宙哲学に感動

米ニューヨーク市在住日本GAP会員
クニコ・デイビッドウィッツ

GAPの沢山の会員の方々と同様、私も小さな子供の頃から、なぜ自分は生まれてきたのだろう、自分はどこから来たのだろう、ということなどをいつも考えていました。父や母に人は何の目的で生まれてくるのかと聞いてまわったのを感じています。

そのうちに、たぶん書物なら解答が出ているのではないかと思い、学校や図書館にある生命や人間に関する本を沢山読みましたが、私の質問に対する解答は得られませんでした。

そしてジョージ・アダムスキーの著書『宇宙哲学』との出会いとなったのですが、本当に深遠な物事を平坦な言葉で表現してありまして、私のそのときの深い感動を今言葉にあらわすことはできません。とにかく何回も何回も読み返しては反復してみました。生命と人間に関してこれほど高い見地から、これほど分かりやすく書いた本は他にないのではないかと思います。

それからアダムスキー全集を全部そろえて、気分が少し落ち込んだときなどにそのときの気分で『生命の科学』『アダムスキー論説集』『テレパシー開発法』などを读んだりしています。私にとってこのアダムスキー全集はバイブルのようなもので、生活のなかで絶対に欠くことのできない宝物となっております。これらの本は自分自身に対する洞察力を与えてく

れましたので、これによって私はずいぶん成長したように思います。

実は今から一九九九年程前だったと思いますが、たまたまアメリカが月へ向かってロケットを打ち上げたときに、世界で初めて衛星放送によって世界中のテレビに生番組で宇宙空間を飛んでいるロケットを見たことがありました。偶然にそれを見ていた私は、そのロケットの周りを三機の小さな円盤がぐるぐる回っているものを見て非常に驚いて、大きな声で母親を呼んだのを覚えております。そしてその日の夕方、またニュースでUFOがロケットの周りを回っていることが出来るからと家族全員をテレビの前に座らせて、その画面が出るのを待ちましたが、二度とその画面は放送されませんでした。アメリカへ渡ってからカリフォルニアでセスナ機の操縦免許を取るために一年六カ月ほど夢中で勉強しました。とてもむづかしかったのですが、無事筆記試験に合格し、また飛行時間も一五〇時間近く持ちまして、パイロット(シングルエンジン)の免許を取得する段階までいったのですが、練習の最後のほうになって何回か危険な目にあい、とうとうそれ以後は飛んではいません。その動機といえます。やはり飛行中にひよっとしたらUFOに会えるのではないかとという期待からでした。

後にニューヨークへ来たわけですが、ご存じのように、こちらはビルが林立しており、空を見ることが、空なんかあるのかしらというほど高いビルが建ち並び、気持ちはどうしても日々の生活の中に入りがちですが、私はアダムスキーの本がありますし、寝るときにはアダムスキーの写真を見つめながら心の中でい



ろいろなことを折り、ときにはアダムスキーの写真を空想の中で食べてしまいます。そうすると自分の中にアダムスキーと同じ精神が入ってくるような気がするのです。地道ではありますが、いつか私もアダムスキーのような人間になるように日々努力し反省し、成長してゆきたいと思っております。

私は何回か久保田様にお手紙を出して何回かお返事を頂きましたが、一度だけあるお返事を読んでいとき、なんとも言えない精神の高揚感を持ったことがあります。その手紙から受ける感じは、スーパースピーブルが久保田先生を守ってい

るという不思議な感じでした。いろいろとご苦労があると思いますが、ますますGAP発展のためにお仕事を続けて下さい。来年夏にはGAP旅行団がニューヨークへいらつしやとのこと、皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

〔編注〕筆者は静岡県清水市出身。一八歳のとき上京し、八年前に米国へ移住。昨年七月に帰国した折、東京月例会で挨拶をした。現在はニューヨーク市五番街に米国人のご主人とともに住んでいる。写真は中央筆者。ご主人、お母さんとともに。

第三回秋田・青森 合同支部大会

第三回の秋田・青森合同支部大会を
一月三日(祭)日本晴れのもと秋田市
の秋田県社会福祉会館で開催した。

四三名の多数のご出席を得て会場は
熱気に包まれ大いに盛り上がった。定
刻の午後一時ちょうどに佐藤忠義氏の
司会で大会は始まった。

最初に日本GAP会長久保田八郎先
生の「アダムスキー哲学を生かす方法」
についてのご講演があった。二週間前
にデンマーク講演より帰国されたばかり
の先生はその様子を本邦初のビデオ
テープを上映しながら感想を述べられ
た。特に強調しておられたのは言葉の
通じない外国でもテレパシクな超能
力を身につけていけば相手の気持ちか
理解出来るということ、二一世紀に向
けて世界語となるであろう英会話力を
身につけることの重要性を力説してお
られた。

超能力も英語力も一夜にして力のつ
くものではなく毎日こつこつと努力し
たもののみが成就出来る、それを先生
は「カフスボタン効果」と言う。実に
言い得て妙である。実践しなければな
らない教訓であった。

「意識は光として輝く」と言うイメ
ージを描くことにより宇宙との一体化
が可能となりやすい。これを「宇宙の

意識光輝説」と名づけられた。宇宙の
真実を力強くとらえた名言で心をうた
れた。

小休止の後、遠藤昭則氏による超能
力開発指導が行なわれた。毎月テーブ
ルによる指導を受けていたが直接ご本人
の指導は初めてで、受けるインパクト
の強さは計り知れないものがあつた。
オーラを見る方法、水槽やロウソクな
どの器具を使用しての実際的、実践的
指導には思わず全細胞が震えるような
新鮮な衝撃を感じた。

写真撮影、休憩後、全員自己紹介質
疑応答にはいったが定刻をオーバーす
る大変な盛り上がりを見せた。

大会終了後三井アーバンホテルにお
いて菅原正人氏の司会による夕食会が
開催され、秋田銘酒を飲みながらの佐
藤春雄氏による秋田民謡や福引き大会

▲上から会長講演、夕食会、二次会。



撮影／佐藤忠義、佐々木朋子、他。

GAP替歌さらにはカラオケ等々大変
なパワーで盛り上がった。初めてお目
にかかる方や遠くからおいでの方も多
数おられたが、このような場で心から
歓談し親睦を深めることが出来たこと
はこの上ない喜びだった。

翌日の観光も多数のご参加を得て曇
天の非常に寒い天気だったが、三六〇
度回転展望台により八郎潟干拓地や男
鹿半島、日本海を眺めた。昼食では秋
田名物のキリタンポを食べ秋田の土着
性を感じていただけたのではないかと
思う。その後県立博物館を見学して予
定の全日程を終了する事が出来た。

我々地方人にとって久保田八郎先生
東京本部役員遠藤昭則氏を招きご講演
を聞いた超能力開発指導を受けられ
る事はこの上ない喜びである。この熱
い思いを胸に秋田・青森支部一同今後

も益々アダムスキー哲学の研究実践に
努めて行きたいと思う。

今回の大会は多数の方々への思いやり
とご協力により大成功裡に終える事が
出来た。心からお礼申しあげる。

伊藤正治

秋田市は私の遠い先祖の出身地であ
るせいか特に親近感を覚える町である。
すでに何度か訪れたが、来るたびに東
北特有の透明清澄な空気を感ずる。大
会は予想を上まわる人数で盛況だった。
人情味溢るる関係者各位に感謝する次
第である。

▲前列左より田村青森支部代表、伊藤秋田支
部代表、久保田会長、遠藤講師。



UFOs and the Complete Evidence from Space by Daniel Ross Translated by Hachiro Kubota

UFO 宇宙からの 完全な証拠

金星、火星、月に関する真相
●ダニエル・ロス／久保田八郎訳

連載第14回

第11章 生命に満ちた太陽系(続)

米政府高官はアダムスキー
―を認めていた―

米宇宙計画を指揮するトップ高官たちは、この二五年間、特に情報の公開に関連して、政府の秘密情報局によるきびしい教育を受けてきた。

そして現在、彼らはUFO分野におけるアダムスキーの影響力がいまだに大きいこと、さらに、彼がもたらした

太陽系に関する情報が極めて正確なものであることを充分に承知している。

アダムスキーは、宇宙に関する具体的に正確な情報をわれわれにもたらした唯一一人のコンタクティーであった。そして実は、その情報は後に、米ソによる金星、火星、月等の探査で、明確に証明されているのだ。

しかしながら、もしそれを宇宙局が公然と認めたならば、それは同時に、

UFOの裏に潜む真実や、宇宙からの訪問者たちに関する事実をも公然と認めることになってしまう。

そして彼らはまさに、その事実を徹底して隠し通すように教育されてきたのである。このUFO情報の隠蔽工作の陰には、ある強大な勢力の存在がある。

われわれの宇宙探査は、未熟な観測装置を用いた頼りないものであったために、さまざまな探査データは極めてあやふやなものが多かったのだが、それが、彼らの隠蔽工作をより容易なものとした。つまり、正統派理論の正しさをいくらでもこじつけることが出来たのである。

ただし、各惑星の環境に関するある特定のデータ群だけは、注意深く吟味され、隠さねばならなかった。これに関しては、すでに詳しく述べたとおりである。

きびしい検閲により、火星、金星、月等の居住可能な環境を示すデータ、及び、アダムスキーのもたらした情報を確認し得るあらゆるデータを隠すことが秘密の指揮者たちからの至上命令だった。

そして結局、地球を除いてわれわれの太陽系は死の世界であり、生命の存在しない全く魅力ない世界であるという誤った印象が政府機関によって注意深く作り上げられ、大衆の間に浸透することになった。

しかし、アダムスキーの情報が正しいことを知っていたNASA高官たちは、実際の宇宙探査を進めるにさいしてはアダムスキーの情報を大いに参考にしていた。彼らは、それが正しいものであることを充分に知っていたのだ。さて、大衆や科学界に根づいている正統派理論をくつがえすためには、かなりインパクトの強いデータが示されなければならないのはもちろんのことである。そしてそういった重要なデータは、当然のごとく常に注意深く管理されていた。

裏付けられた
アダムスキーのデータ

しかし、ほとんどの人々が見逃してしまうような、いわゆるインパクトの弱いデータ群に対する検閲は当然ゆるやかなものとなり、それらの中には、アダムスキーの主張の一部を裏付けるデータ群が時折顔を見せていた。一九七八年にボイジャー探査機が測定したアステロイド帯の運動エネルギー値に関するデータもその一つである。

たとえば、一九六〇年のパイオニア探査機は、太陽に向かう軌道上、地球から離れること四、八二七、〇〇〇キロメートルの空間で「磁気の嵐」に遭遇し、それを観測しているが、その結果、そこには巨大な磁場が存在し、しかもその磁場の軸は、それまで考えられていた太陽のそれと一致しないこと



ジョージ・アダムスキー

が判明している。

これは、一九五五年にアダムスキーが『宇宙船の内部』（新アダムスキー全集第一巻に収録）の中で述べていることと見事に符号する。

また、一九七六年、太陽の磁場構造が、木星を通過後、太陽系の黄道面から約一億六千万キロメートル上空の宇宙空間からパイオニア10号が送り届けて来たデータによって、初めて突きとめられた。

それは、太陽の磁場は太陽系全体を楕円面を成して包み込んでおり、一枚の薄い電子の流れから成る幕によって、南と北の半球に分けられている、というものだった。

これもまた、一五年前にジョージ・アダムスキーが「さらば空飛ぶ円盤」（新アダムスキー全集第六巻に収録）の中で述べていることと符号する。

アダムスキーはさらに、その楕円磁場は、太陽から各惑星に延びているとともに、各惑星間にも存在し、その性質は交流にも響えられ、太陽系全体のバランスを保っている目に見えない鎖なのだと説明している。

この太陽系全体のバランスの問題は、極めて重要である。つまり、もしその一部で激しい破壊活動が発生したならば、それが太陽系全体のバランスに容易ならざる悪影響を与えることになるのだ。

たとえば、もし地球上で際限のない

核戦争が展開されたりしたならば、近隣の惑星群とをつなぐ「磁気の川」に壊滅的な打撃を与え、ひいてはそれが太陽系全体のバランスに極めて深刻な悪影響を与えることになる。

それは、スペースビープルの惑星間飛行を危険に陥れられることになるのみならず、彼らの惑星の環境自体にも深刻な影響を及ぼすことになる。

金星や火星から多くのUFO群がこの地球を訪れている理由が、ここにあるのである。

アダムスキーが、良く知られている三冊の本以外にも、さまざまな情報を出版物、講演、その他の形で世に出していることは意外に知られていない。

一九六〇年代に入ってから、哲学面、科学面からなる宇宙科学教育プログラムを推進し、引き続き行なわれていたコンタクトに関する新情報も含めて、貴重な情報をいろいろな形で数多く世に出している。

そして彼は、社会の真の進歩は、真の宇宙情報と科学の新しい利用によってのみ可能となることを力説していた。

あるUFOの ものすごい芸当

ジェームズ・マツキヤンベルは、著書『ユーフォロジ』の中で、空軍の飛行機とUFOの遭遇記録を取り上げ、詳細な分析を行なっている。

この遭遇事件はもととジェーム

ズ・マクドナルドによって紹介されたものである。彼は直接この事件の調査を指揮した人物であり、一九六九年の全米科学発達推進協会のシンポジウムで発表したあと、その内容を本にして一般に紹介している。

この二人は全く気づいてはいなかったのだが、実は、彼らの詳細な分析結果の中に、宇宙船の作動に関するアダムスキーの主張を明確に裏付ける箇所が存在していた。

一九五七年六月、最新鋭の電子探知装置ECMを搭載した米空軍機B-47は、アメリカ中南部諸州上空で訓練飛行を行っていた。

約一〇〇メートル上空を飛行していたその空軍機の正操縦士と副操縦士の二人は、航行リーダーと二台のECMが付近を猛スピードで移動する一つの物体を探知した直後、一機のUF0を直接肉眼でも目撃している。

そのUF0は、強烈な青白い光として突然現れたかと思うと、彼らの飛行機に向かって物凄いスピードで突進して来た。

それを見て彼らは、とっさに回避行動をとる必要を感じたが、次の瞬間には、目の前で展開された事実をただ驚きとともに見入ったという。

真っ直ぐに突進して来たそのUF0が、ほとんど瞬間的に向きを変え、その空軍機の進路前方を左から右に信じられないほどの速度で横切ったのだっ

た。

それを目撃した正操縦士は、すぐ管制塔と連絡をとり、その日の訓練の中止と、その物体の追跡許可を申し入れた。

許可が降り、追跡のために機体を方向転換するや、彼はそのスピードをマッハ〇・八三まで上げたが、その物体がそんなスピードをもともしないことは明らかだった。その後一時間半ものあいだ、そのUF0は、「君のスピードなんかもの数ではないよ」とでも言わんばかりに、B-47の回りをぐるぐる旋回したり、その他のとてもない芸当を披露しつつ飛び回ったのである。

その間の飛行距離は、約一三〇〇キロメートルにも及んだ。

その空軍機に搭載されていた航行リーダーと二台のECMは、二人の操縦士の見た驚異的な物体の動き、方向、速度を、克明に記録していた。

さらにその動きは、テキサスからオクラホマ州に至る各地の基地リーダーにおいても探知、記録されていた。ECMが記録した数値の一部が、この事件の公式報告書に、次のように記載されている。

「ミシシッピ州メリディアン付近上空にて、以下の数値群を示す信号を探索した。

周波数二、九九五、三、〇〇〇メガサイクル。パルス幅二・〇マイクロ秒。パルス反復周波数六〇〇サイクル/秒。

スウィープレート四回転/秒。パーティカル・ポラリティー。

以上の数値から判断して、この信号の発生母体がいちじるしく速い速度で移動していたことは明らかであり、この物体はいわゆる「空中から誕生した物体(UF0)」だと思われる。

これらの数値が意味するところを、ジェームズ・マッキンネルは次のようにまとめている。

「このUF0は、極めて狭い短波域内で莫大な量の電磁波を放射している。そしてそれは音声なみの頻度でゆったりと脈動している」

一九五五年五月四日に行なわれた講演の後の質疑応答の中で、ジョージ・アダムスキーは、宇宙船のエネルギーに関する質問に対して、素人にも分かるような言葉で次のように答えている。「宇宙船は、最大出力時には、六万七万メガサイクルの電磁波を放射します。静電気は一種の電気エネルギーなんです、それはいわば、動いていないのにスピードがある、というようなものなのです。それは実際には動いているのですが、私達が考えるような動きではなく、とても静かな状態を保っています。磁気がすでにエネルギーを創り出しています。静電気を利用するためには、それを推進力に変換するか脈動する状態に変換しなければなりません」

ここでまず、B-47搭載のECM装置が探知した電磁波の周波数にご注目頂きたい。それは、三〇〇〇メガサイクルであったが、その状態でそのUF0は、時速約八〇〇キロメートルで飛んでいた空軍機とほぼ同じスピードを保っていたのである。

もしそのUF0がフルパワーで作動したならば、とてもないスピードで飛行したであろうことは明らかである。アダムスキーは、宇宙船のフルパワー時のエネルギー周波数は六万七万メガサイクルだと言っているのだ。実際、時速一二、八〇〇キロメートルを超えるほどの猛スピードで飛行するUF0群がリーダーに捕らえられた事実も、過去にはある。

そして、アダムスキーが「脈動する状態」に変換する」と言っている部分は、UF0の電磁エネルギーは、「音声なみの頻度でゆったりと脈動している」というECM装置のデータと見事に符号するものである。

この事件は、UF0のエネルギー・フィールドが直接機器観測された初めての機会であった。しかも空軍機搭載の最新鋭探知装置によるのだ。

ただ、この事件は当初トップシークレットとして処理されてきたため、その詳細は一九六九年になされたマクドナルドの報告まで全く蔽の中だった。しかしアダムスキーは、マクドナルド報告の一八年前、およびマッキンネルの分析が世に出る一四年前に、す

でに、その情報を私達にもたらしただのである。

安全保障という厚い壁

この事件に関しては、さらに議論すべき重要な事実が残されている。

一九六七年、コンドン委員会のある調査官がこの事件の調査を試みたのだが、彼は、安全保障の重い蓋がこの事件にしっかりとかぶせられている事実を強く思い知ったという。彼は、この事件に関する情報を「ブルーブック計



▲1985年6月29日夜、米カリフォルニア州グラスバレーのウルフ山でポール・コスロウスキーが撮影したUFO。中央は月。

画」からも空軍司令部からも一切受け取ることが出来なかったのである。

しかしこの事件の詳細は、UFOに遭遇したB-47空軍機の操縦士と、そのときの飛行にタッチしていた二人の係官へのインタビューによって、後に明らかになった。

インタビュに答えてその操縦士は、彼がUFOとのランデブー飛行を終えて地上に戻るや否や、空軍情報部の連中が乗り込んで来て、全ての電子探知装置およびレーダーの記録部分を取り除き持ち帰った、と語っている。

さらに、その飛行機の乗組員たちは、基地の司令部内で、情報部員たちの徹底した尋問を受けたという。

とてももなく長い質問表が用意されており、それは、回答で埋められたあと、この事件の極秘調査報告書に添付された。

この事件に関する情報には「国家安全保証」の分厚い蓋が乗せられ、乗組員たちは、この事件に関して以後いっさいの情報を受け取っていない。

UFOのエネルギーに関する情報は、「国家安全保証」の覆いで常に隠されることになっているのだ。

宇宙空間のエネルギーを利用するUFO

未熟な方法で宇宙空間に送られる我らの宇宙飛行士たちは常に無重力状態との戦いを強いられている。軌道上からのテレビ中継には、乗組員やさまじまの物体が船内を浮遊する姿がぎまみで映し出され。アナウンサーは、とりとめのない冗談とともに、「重力から逃げ出す」ことによって起こるその現象を、避け得ない現実として受け入れ、おもしろおかしく描写することをけっして忘れない。

しかし、ジョージ・アダムスキーが『宇宙船の内部』の中で描写した「真の宇宙旅行」の姿はそれとは違う。そして検閲者たちにとって、それは、とても笑って見過ごしたりは出来ないもの

なのである。

アダムスキーや彼の宇宙の友人達（異星人）は、無重力の宇宙空間の船内で、ほかほかと浮遊したりはしてはいないのだ。なぜならば、他の惑星の宇宙船は、自然の自由エネルギーを利用して、船内に独自の重力場を発生させているからである。

もし権力者たちが、現在地球の空を飛行するUFO群が実は惑星間を航行する宇宙船であることを認めたとしたならば、それは異星人たちが用いているエネルギーをわれわれもすぐに手にすることが出来るという事実を認めることにつながる。

重ねていうが、彼らの宇宙船は、その推進力や重力克服のために、自然に存在する宇宙の自由電磁エネルギーを利用しているのだ。

そしてその自然エネルギーの利用は、われわれにもいますぐ可能なのである。熱、電気その他の形でこれまでになれわれが日々消費していたすべてのエネルギーを、それによって完全に補えるのである。そしてそれはわれわれが呼吸している空気と同様、無尽蔵に存在し、お金もかからない。

UFOに関する真実の公式な承認は、つまるところ、自由エネルギーの承認という結果を生むことになる。そしてそれは、両替商たちが作り上げてきたこの社会の経済機構を一挙に崩壊に導くことになる。権力者たちがUFO問

題の真相を認めようとしなない理由が、ここにあるのだ。

UFO問題を隠す元凶

これまで一貫してUFOに関する真実を押し隠そうとして来た中心的勢力の一つは、この世界のエネルギー支配者達である。巨大石油資本、巨大企業、そして核エネルギー産業間には、明確な協力態勢が敷かれ、現実には、国際経済は彼らの支配下にある。

今の世界経済の安定は、エネルギー資源を完全に手中に収めている彼らの手の内にあると言っている。そしてその事実が、資本主義、共産主義にかかわらず、世界中の政府を思うままに動かせるほどのパワーを彼らに与えているのだ。

この世界の経済態勢を支配している者たちこそが、真実が明らかにすることを恐れている者たちなのである。

なぜならば、他の惑星群からの宇宙船の推進原理が明らかにされたなら、公害を撒き散らす工場群とともに、エネルギー支配者たちのパワーの拠所がまたたくまに消え失せてしまうからである。

隠蔽工作を影で支えているもう一つの勢力は、戦争によって不当な利益をむさぼっている者たちである。

現在この世界が消費している年間総軍事費は九千億ドルにも達し、その半

分以上を米・ソ両国が支出している。この両超大国は、地球上から戦争を絶やさないようにと常に画策しているのだ。なぜならば、一般兵器および核兵器の国際市場こそが、今の世界経済の最も大きな基盤となっているものだからである。

軍事産業が巨大な富を積み上げている一方で、米国の財政赤字は二兆ドルにも及んでいる。そしてその負債を支払うのは市民一人一人なのである。

歪んだ富を発生させる社会機構の中では、真の平和など全く望み得ない。逆にもし真の平和共存が達成されたならば、両替商たちの権勢はまさに風前の灯となる。

現在、世界中の人々は、呪われた核兵器のもとで人質として、ほんの一握りの両替商たちのために仕えていると言えよう。

月や他の惑星群には、素晴らしい平和を謳歌している人々が存在する。しかしわれわれの世界は、それらの天体に生命が存在することも知らず、ハルマゲドン、つまり、最後の壊滅的な戦争に突入しようとしている。

この太陽系の他の惑星群における進歩した平和な文明の存在が公表されたなら、戦争を食い物にしている者たちとエネルギー支配者たちの作った経済システムは、たちどころに崩壊することになるだろう。

エネルギー・カルテルと兵器産業勢

力にとつて、それは死活的な大問題なのである。それゆえ彼らは、どんなことをしてもそれを阻止しようとする。UFOと宇宙の真実は、この地球がこれまでに行なってきたさまざまな選択が、いかに間違ったものであったかを白日のもとにさらすことになるのだ。

サイレンスグループの暗躍

現在、地球の経済を支配している者たちの下には、国際的に暗躍を続けるサイレンスグループの存在がある。サイレンスグループとは、一九五〇年代以降、UFOに関する真実を隠蔽し、宇宙の真実を大衆から遠ざけるべく執拗な活動を続けている一団である。

このサイレンスグループの活動ネットワークは、政府の情報機関から、多国籍企業、さらにはさまざまな国際機関の中にまで広がっている。

この忌まわしいグループは、エネルギー支配者たち、兵器供給者たち、そして銀行家たちに奉仕する、いわば秘密の国際政府ともいえるものである。

彼らは、自分達に都合のいい出来事を起こすためのいろいろな方法を知り、多くの分野においてさまざまな影響力を行使している。

彼らは、今の経済機構を守るため多種類の活動を展開しているが、ここでは彼らのUFO問題にかかわる活動だけにしほってお話しよう。

このサイレンスグループのメンバーたちは、各国の政府情報機関内にも直接入り込み、その中で彼等独自の謀略活動を展開している。そこで彼らはあらゆる手段を用いて、UFOに関する真の情報が一般大衆や科学界に届かないよう画策しているのである。

同時に彼らは、UFOに関する奇妙な話や常軌を逸したアイデアが一般の出版物にまぎれ込み、UFO問題がバカげた話題として扱われるように画策することも忘れない。

その一環として彼らは報道機関に明らかに金まがき情報流したり、ペテン師に金を払って二セのコンタクト体験を語らせることまでするのである。

反対勢力は、大衆がUFOを全く非科学的なもの、あるいは、ひどく心霊的なものとしてとらえることを望んでおり、サイレンスグループは、あらゆる手段を用いてその目的達成を助けようとしている。

しかし、何とんでも彼らが最も力を入れて取り組んでいるものは、宇宙開発計画に関する謀略である。

地球以外の惑星における生命存在の事実は、宇宙開発計画の初めの段階で公表されていてしかるべきであった。

しかし現在に到るまで、その事実は完全なまでに隠蔽されてきたのである。

他の惑星のいかなる生命も存在しない居住不可能な環境のみが大々的に報じられ、この世界の経済機構を守るた

めだけに、大衆はずっと騙され続けてきたのだった。

そして宇宙の真実に全く無知な大衆は、無意識のうちに憎悪、復讐を唱え、破壊的な殺人兵器の製造を促し、戦争を行なうことと戦争への恐怖をおおることを基本理念とした暗黒のリーダーたちを、次々と国会に送り込んできたのである。

人類の夢を乗せて出発したはずの宇宙開発計画は、今や軍事目的に取って代わられてしまった。

そしてわれわれは今、輝かしい未来への道を選ぶことなく、聖書の予言どおりの道を歩みつつあると言わざるを得ない。

この「秘密の国際政府」が結成された目的は何なのだろうか？

それは、人類が社会的にどんなに進歩しようと、今の経済機構を延々と維持してゆきたいという、一握りの地球の権力者たちの願いを満たすことなのである。

宇宙の真実を政府が明確な形で発表しないかぎり、あるいは、なんらかの形で社会制度に対する根本的な意識変革が行なわれないうちに、大衆の心が変わることはないだろう。

現在この地球では、核兵器の製造やスターウォーズ計画が推進されている。お金という偽りの神のシステムを守ることだけのために――。

政治家達と彼らの有能なブレン達

は、戦争と軍備拡張の話題を常に持ち出すことで、大衆の心をマヒさせてきた。そして今や、敵を特定し火に油を注ぐためのいかなる口実をも大衆は受け入れる傾向にある。

大衆は、自分達の運命を戦争ギャンブラーたちにすべて託し、将来の方向も定まらない無意味な人生を歩むようコントロールされてきた。

二つの超大国による一九八〇年代の突然の軍事費アップは、邪悪な勢力をより強力なものとした。

われわれは今、アトランティスと同じ道を歩もうとしている。大衆はまさに、戦争を崇拜させられている奴隷にほかならない。

いまや大衆の運命は、戦争と商業主義を唱える誤った予言者たちによって決定されていると言えよう。暗黒勢力は、大衆の心に困惑、不安、恐怖を植えつけることで、その影響力を強化している。

スペースシャトルは軍事目的

スペースシャトル計画が軍事目的のものであることは公然の秘密である。

それは宇宙探査や学習とは何の関係もない。それは単に兵器を地球の軌道上に搬出するための計画なのである。

純粋な科学的実験装置類を積むことももちろんあるだろう。しかしそれは、単に一般大衆の目を欺くために張られ

る煙幕にほかならない。現実にはスペースシャトルとは宇宙空間の軍備を目的として作られたもののなのである。

それは人を宇宙に運ぶためのものではなく、兵器を宇宙に運ぶためのものなのだ。ゆえにそれは人類の進歩にはいさかも貢献し得ない。

もし権力者たちがUFOに関する真実を認めたならば、われわれの宇宙へのアプローチ法は全く変わったものとなるだろう。

ロケットなどという無用の長物は即刻廃棄されることになる。実際、われわれが重力を克服するためにロケットを使わなければならない理由など、それが経済界のためであるということを除いては一つもないのである。

ロケットに頼っている限り、我々の宇宙探査能力の進歩はあり得ない。そんなものを用いているあいだは、われわれが真の宇宙文明を築き上げることには不可能なのである。

それはあまりにも初歩的で未熟な技術であり、UFOに用いられている技術とはくらべ物にならない。そしてそのことは、政府が誰よりもよく知っている。トップ科学者達、トップ軍事専門家達しかりである。

ロケットとは単なる使い捨てマシンにすぎない。それは小さな宇宙船内のわずかな乗組員に激しい重力負担をかけた一つ、一方向にのみ、しかも一度限りの飛行を可能とするだけの、実に未

熟な装置なのである。そしてこの未熟な重力克服装置は、その未熟さゆえに莫大な税金を消費する代物でもある。

我々の宇宙からの訪問者達は、ときおり大きな編隊を組んで飛行するところを目撃されている。なかには編隊を組んだ一〇〇機以上のUFOが目撃されたこともある。

一〇〇機ものスペースシャトルがカリフォルニアの空を飛んだとしたらどうだろうか？

まずそのために一五〇兆円ほどの費用が必要となる。しかも、それらは空中に停止することも、長く飛んでいることも出来ない。すぐに燃料が切れるために迅速な着陸を余儀なくされてしまう。そしてふたたび飛ぶためには、着陸基地に運ばれ、またもや一度だけのために巨額の税金を食べ尽くすブースターロケットおよび燃料タンクとともに発射台に取りつけられ、台地を激しく揺らさざるを得ないのだ。

この章を読んで読者は、私にやや力みがあるのでは、と感じられるかもしれない。しかし今や、われわれ一人一人の明確な自覚が必要なきである。

今や、これまで宇宙の真実の姿を隠し通し、社会を失望の底に沈めてきた勢力に反旗を翻すときが訪れた。

「善が無視され、善良な人々が失望の中に投げ入れられるとき――偽善に満ちた、残忍で魔性を持った者たちが権勢を振るうとき、人々の心が疑惑で満ち

されるのは何ら驚くに値しないことである。

とは、ポール・ブラントンの言葉である。

真実を知りそれを理解したときに初めて、人類は、人間性と自分自身への真の忠誠を取り戻せるのである。

UFO問題が初めて持ち上がったまだ日が浅いころには、それに関して考えを巡らすための素晴らしい環境が存在していた。

しかし、この三〇年間の月日が、それを完全に別のものに変えてしまった。そして現在この世界は、極めて危険な状況を迎えている。それはまるで、崖っぷちに立ち、下に落ちないように何とかバランスをとっている状況だとさえ言えよう。

この世界をその状況から救うためには、UFOの裏に潜む真実に関する情報を、できるだけ多く大衆にもたらしことがどうしても必要なのである。

すでに読者も理解していると思うが、サイレンスグループは、金星、火星、月等に関する真の情報をほんの一握りの専門家たちが学んだとて、さして気にしたりはしない。

しかし、もし一般大衆がそれを知り始めたならば、それは彼らにとって大問題である。なぜならば、その人数はあつというまに何億人にも広がってしまふ可能性があるからである。

もしそんな事態を迎えたならば、エ

ネルギー支配者たちや巨大兵器産業が、これまでのように大衆の手放しの支持を獲得し続けることは、一挙に不可能なことになってしまう。

アダムスキーがもたらした情報が暗黒勢力にとって大きな恐怖の対象であった理由がここにある。

彼の情報は何億人もの大衆に届いたのである。そしてこの社会は、生命と宇宙の美しさ、荘厳さを知り、生き生きとした目覚めを体験しつつあった。

アダムスキーは真の宇宙文明を築き上げることの重要性を一貫して主張していた。それによって人類は地球の歴史上かつてなかったほどに多くを学び理解するだろうと彼は語っている。

地球を一大家族に

われわれの惑星は、生命を育むための不可欠な宇宙の一部であり、他のすべての惑星と全く同等に極めて重要な惑星である。そして、われわれがいだきいかなる夢も、ここで、この地球上で成し遂げられてこそ価値がある。他のいかなる場所でもなく、この地球上である。

アダムスキーは、われわれの文明が現実的な宇宙経済を取り入れることと、惑星間を自由に航行できる宇宙船をわれわれ自身の手で製造することの必要性を訴えていた。

それによって地球人類はより多くを

学び、真の宇宙文明を築き上げることが可能となる。——ひいてはそれが、この地球により素晴らしい協力と調和をもたらしことになる、と彼は主張していたのである。

真の宇宙科学とUFOの裏に潜む真実を理解することが、人類が地球をより素晴らしい生命の住家とするためにはどうしても必要なことなのである。

UFOは、われわれがこの汚れた地球を捨てて宇宙空間に脱出するのを手助けするために訪れている、という説があるが、それははなはだ未熟なアイデアと言わざるを得ない。

彼らがここを訪れるのは、われわれに、われわれの一人一人がこの地球の自然を守りつつ、互いにしっかりと手を取り合って生きることの重要性を教えるためなのである。

そしてもしわれわれがそれを成し遂げたならば、そのときわれわれは、彼らの宇宙冒険の旅に堂々と参加できることになる。

地球はわれわれの家である。そしてわれわれは、家であるこの地球に、そしてすべての国の兄弟、姉妹たちに、大いなる尊敬の念をもって接しなければならない。

それを成し遂げたわれわれを彼らは暖かく歓迎し、我々が宇宙に飛び出すのを心から援助することだろう。そのときから、真の宇宙旅行と惑星間相互訪問は、われわれの人生の一部として

しっかりと定着してゆくことになる。

この太陽系のすべての惑星に人々が住んでいる。そして地球を除くすべての惑星の人々が、宇宙空間を自由に旅行している。彼らの宇宙船は自然の磁場を利用して航行し、惑星間を、一般に二〜三時間から二〜三日をかけて行き来している。

われわれの空に現れるほとんどの宇宙船は金星からのものである。また、数は少ないが、火星、土星からの宇宙船もある。さらに一層数は少ないものの、その他の惑星群からの宇宙船もときおり訪れている。

宇宙からの訪問者たちは極めて平和的で、親切な人々であり、もちろん完璧に人間である。

さらに彼らはわれわれを同じ太陽系に住む家族の一員として扱い、本当に必要なとあらば、常に手助けを惜しまない。

しかし地球に住むわれわれはもう少し自分の力で進歩しなければならぬ。なぜならば、彼らの友情がいかに開かれたものだといえども、もしわれわれが彼らの存在を否定していたり、まず自分たちの惑星を真に平和なものにするのだという意思を明確に表明しないかぎり、それがわれわれのところまで到達するのは不可能だからである。

(第11章完。以下次号)

Letters

ユーコン広場



素晴らしい昨年度総会と秋田
青森合同支部大会

東京 山木益巳

投稿歓迎字数を問わず。匿名発表
表可なるも住所氏名明記のこと。

過日は素晴らしい総会の大成功を心からお喜び申し上げます。原ドクターの分子生物学から考察したアダムスキー哲学の深遠さには二世紀を先取りしたものであることが実感されました。先生の講演ではスライドにより思いもかけず青年時代の先生のポートレートを拝見させて頂きましたが、若き日のホロウィッツにそっくりだったのにビックリしてしまいました。音楽家を志向した先生の青春時代が感じられました。

また日本GAP創立期にガリ版刷りで始められたGAP機関誌や、バンスン氏から与えられた情報によって俄然勇気づけられたこと、その他Uコンやニューズレターの反面だけでは到底くみ取れなかったことまで理解することができました。ガリ版刷りのニューズレターも幾つかコピーをとってファイルしてあるのですが、先生の講演を聴きながら、それらのファイルを記憶の中で照合させてみて、いかにGAP活動が宇宙規模のものであるかが再認識される思いでした。GAP活動の意義の本質は地球全体の平和にあるということ、この大意は素晴らしい示唆でした。私も微力ながら共に歩んでゆきたいと切望します。重要な指針を与えられた総会でした。本当に有難うございました。また夕食会もとても和や

かで、二次会とともに旧交を温めあうことができて素晴らしい雰囲気でした。

また一月三日の秋田青森合同支部大会も素晴らしいものでした。先生の講演の内容の素晴らしさは全くたえようもないほどでした。自己紹介のときに先生の講演の感想を話そうとしたのですが、それにふさわしい言葉がみつからなかったほどです。

宇宙の意識を認識する方法として、先生の講演の中の万物を光としてとらえる「宇宙の意識光輝説」がありました。そうですね！万物は光り輝いているのです！本当に真理を突いた言葉だと思えます。その他、想念の力についてもマハリシ大学のキース・ウォラス教授の例は、とても励みになりました。

忘れられぬ貴重な体験

大阪 福井 貴子

先生の講演を聴きながら、それらのファイルを記憶の中で照合させてみて、いかにGAP活動が宇宙規模のものであるかが再認識される思いでした。GAP活動の意義の本質は地球全体の平和にあるということ、この大意は素晴らしい示唆でした。私も微力ながら共に歩んでゆきたいと切望します。重要な指針を与えられた総会でした。本当に有難うございました。また夕食会もとても和や

また「縄文時代には人々は生きるために狩猟をしたので戦争はなかった。しかし弥生時代になって稲作が始まり富を貯えるようになってからその富を奪い合うために戦争を行なうようになった」という言葉には、とても興味を感じました。分かったことながら「人間とは一体何だろうか？」と思ってしまう。とにかく素晴らしい講演でした。夕食会や二次会、三次会でも楽しく有意義なひとときを過ごしました

が、夕食会では菅原さんの楽しく心温まる司会によって進行され、芸達者な会員の皆さんのアトラクションも楽しく、大いに盛り上がった夕食会でした。特に歌詞カードによって全員が唱和したあの歌は美人の阿部さんのエレクトーン伴奏によって宇宙の彼方まで舞い上がった感じがします。

翌日の観光も支部の方々の心遣いによってとても心に残るものとなりました。手作りのキラタンボ鍋には感謝してしまいました。帰りの飛行機の席が奇跡的に取れたのも、もしかしら他の感想から来られた方々が援助して下さったのかもしれない。

忘れたらぬ貴重な体験

昨年七月二日の夜は眠れないので、深夜「秋山眞人の語りあかそう超能力」を読んだ、秋山氏が超能力を持っていたことは、UFOを呼び出してからだという経過が書かれていました。その夜、テレビシーでUFOを読んだみたがだめでした。

翌日はそのことはすっかり忘れて午後から車で東関東自動車道の湾岸市川インターで下り、そのまま東京方向に走行中、進行方向にむかって右側の仰角30度、ものすごく輝く発光体に気づきました。これは東京都江戸川区上空です。助手席の友人も同時に「あれ何だろう？」と気付きました。瞬間的に飛行機やヘリコプターでないことがわかりました。

世界にはUFO問題、中東問題などいろいろありますが、しかし、もし今UFOや宇宙人の存在にしたら、各国政府が全情報を公式発表したら、久保田会長が言うように人類は心理面だけでも大バニックを起こしてしまうでしょう。今までの価値基準がすべて変わってしまうからです。一人でも多くの方にGAP活動を広め、宇宙哲学の道を知っていただきたいと思えます。

原さんのご講義では学生時代に習った生物を思い出し、懐かしさと共に初めて知った新しい事実が驚きでした。また先生のご講演では、私自身現在思い描いている事柄に大変参考になるアドバイスも頂いたのでおりました写真等を見せて頂けましたことに（それも舞台袖にて）感激しております。

文字は本人の実態をあらわす

何よりも嬉しく驚きましたことは、旅行中にスペースシスターの方とすれ違った件のご説明でした。実は何か月後にも先生におたずねしたいと思っておりますからです。もう

昨年度のGAP総会及び大夕食会には大変感激致しました。原先生

横浜市 加藤 路徳

講演はわからない事だらけでしたが、僕は高校で生物を習いましたので多少はわかりました。一番驚いたのは原先生が「生命の科学」からあの一文を見て、「これは何か？」ということとを理解した点です。

先生の講演も素晴らしい内容でした。講演の中で「フセイン大統領に良い想を送るといい」と言っていました。あれは僕も賛成です。なにせ愛を送るのですから。それと先生の若かりし頃の写真やユニークな言いまわし。アダムスキーの絵や仕事場。昔のメキシコGAPや現在のデンマークGAPなどの写真が映写されましたが、なかでもひときわ凄いなと思ったのはアダムスキーの肉筆のサインです。あのサインをみたとき、「やはり偉大な人だったのだ」ということがわかりました。

なぜかといいますと、「字は人格をあらわす」と言われているからではなく、字というものが、なぜうまくなるかというと、字を自分のものにしていくからなのです。字を自分のものにするなら、そこには個性というものが見えてきます。すなわち、人の字体を記憶してそのとおりに書くとしても、その字から発するものは字体をまねた人のものではなく、まねをした人が書いたことがはっきりとわかります。だから僕が先生の字をまねようとしても多くの個性が邪魔します。

ところで、先生が英語を学ぶためには海外へ雄飛することだと言われているのはもったいないと思います。実はそのようなことも考えていましたし、テープで先生が「独学もいいですが、やはり人間から学ぶのが一

番よい」と言っていましたので、私も相手が誰であろうと関係ないと思ひ、むかし先生がやったように六月の終わり頃から外人宣教師に週一回ですが教わり始めました。やはり人間同士で学ぶのが良いと痛感した次第です。

いろいろ考えた結果、アダムスキー哲学のように「とにかく実践してみよう」ということが大切だと気づきました。日本語を学ぶには日本語の世界に入る。英語を学ぶには英語の世界に入ることが重要で。

最後にユーコン川号はどこをとっても素晴らしいと思えないのです。特に素晴らしいと思う箇所は観測の仕方、遭遇体験記、先生の支部大会での話、遠藤氏の透視、「アダムスキー」秘書の対話、そして「UFO」宇宙からの完全な証拠」の第10章、ユーコン広場の松葉様の体験記と文章構成等、あげてみましたらほとんど全部になってしまふほどの素晴らしい内容でした。

アダムスキー哲学で家庭がよくなる

山梨県 望月 隆昭

思想家の清水幾太郎氏は著書の中で次のように思想のことを述べています。

「私は以前から考えているのだが、思想というものを最終的にテストするのは、家庭という平凡な場所であると思う。活字の世界に生きるだけの純粋思想なら、いくらでも急進的になれるし、いくらでも破壊的になれる。けれども、それが本当に社会を変革する力を持つためには、それが家庭という場所に入り込み、そこに腰を据えなければならない。このテ

ストに及第して初めて思想は大眾を或る方向へ本当に動かすことが出来る。しかし「人類」や「プロレタリア」「コミュニ」という言葉が美しい言葉であるのに対して、家庭や家族は、平凡な、しかし厳然たるリアリティー（現実）である。リアリティーのテストに堪えた時、思想は恐ろしい力で世の中を変えるであろう」

問 スペースブラザーズの思想は、このリアリティーに耐えられない思想ではないでしょうか。世の中の人々に役立たない、またGAP会員にも家庭、家族にも通用しない思想ではありませんか。

答 清水幾太郎氏の「いかなる思想も家庭で生きてこそ価値がある」というのは非常に重要なことです。これは私も以前から考えていたことでした。それで、スペースブラザーズの宇宙的な思想は地球世界で通用しないのではないかと、という質問ですが、そんなことはありません。万物一体化と万人を創造主の現れと見る、という考え方は家庭の中でこそ完ぺきに生かすことができます。そうすれば天国のような家庭が確立できるところが、アダムスキー問題に関心のある人の家庭でときどきトラブルが発生するのは、地球以外の惑星に人間は存在しないということと家族の人が信じきっているからで、そのために信じている本人と信じない家族とのあいだに摩擦が生じるのです。

しかしアダムスキーが伝えた宇宙哲学はいかなる家庭をも天国のようにする法則を述べたのです。家族

の人達をまず創造主の現れとみて、それを礼拝するような気持ちを起こすならば家族の人達も変化してきます。家族が信じきれないからダメだというのは自分のエゴのあらわれです。それでトラブルが起こるのです。まず家族の人達を拜むような気持ちを起こすことですね（編者）。

仲間を求める

新潟県 中村 千秋

GAP会員の皆さん、こんにちは。私はユーコンとアダムスキー全集の愛読者で、高校の地学部長をやっています。今度研究の一つとしてUFOについて活動することになりました。そこでお願いですが、UFOについて体験談をおもちの方は左記までお知らせ下さるようお願いいたします。千九四九—二一新潟県中頸城郡妙高高原町関川一〇〇〇七、中村千秋

当方は個人的に少数の仲間と共に「COSMIC POWER」というUFO、宇宙哲学、地球（世界）等についての小雑誌（コピー誌）を製作しております。興味をおもちの方は六二円切手同封の上、右住所までご連絡下さい。くわしい案内書を送ります。

問 ミステリーサークルの原因は何でしょうか。UFOに関係がありますか。

答 UFOには関係ありません。本号の「科学」欄をお読み下さい。（編者）

世界へ広がるGAP活動

東京 伊東 芳和
先日はデンマークでのご講演の大

成功を心からお祝い申し上げます。お土産を頂いて感謝いたします。

この講演の成功は、いざ日本GAPの世界的な広がりととなり、久保田先生の存在が注目され、遠からず世界の精神的啓蒙運動界の重要人物となる日も近いと確信せざるを得ないという印象を持っております。

「世界を相手にしないと、世界は我々を相手にしてくれない」と先生が話された言葉は間違いなく真実で、私達もこれに協力を惜しむものではなく、出来る限りの奉仕をしていきたいと思っております。

〔編注〕右の「世界を……」の言葉は編者が見た次のような不思議な夢に由来する。

大きな広い教室のような部屋の最後の机に私（久保田）が座っていた。どうも東京月例会会場であったような気がする。突然左手後ろの入口から黒人の男二人が入って来た。二人ともアタッシェケースを持っていた。彼らは私に近づいて、一人が言った。「世界を相手にしてやってゆきなさい。そうしないと世界があなたを相手にしてくれないでしょう」この素晴らしい言葉に驚き、後日この夢の件を秋山眞人氏に話したら、氏もその頃にアタッシェケースを下げた黒人の男二人の夢を見たと言った偶然の一致に驚いていた。それからまもなくデンマークGAPより講演の招待があつて、私は夢のことを思いだしながら勇躍現地へおもむき、大役を果たすことが出来た。以来、痛感するのはGAP活動を狭い日本だけに限定することなく、国際的に輪を拡大させる構想を具体化させることである。頑張りた。

第12回 山形・仙台合同支部大会

- 日時 1991年5月4日(4連休の2日目) 午後1:00→5:00
 ■会場 『天童市中央公民館』3F実習室
 山形県天童市老野森1-1-1 ☎0236-54-1511
 JR天童駅よりバス5～6分(温泉西下車。市役所の裏)。
 山形空港からタクシーで約15分。
 ■会費 ¥2,500(全員記念写真代は送料共¥1,000を別納——希望者のみ)
 ■プログラム 司会: 柴田文子
 1:00 両支部代表挨拶/柴田光明・笠原弘可
 1:10 講演「アダムスキーの真実性と宇宙哲学の生かす方」/日本GAP会長・久保田八郎先生
 2:40 超能力開発指導/東京本部役員・遠藤昭則氏
 3:10 全員記念撮影/休憩
 3:30 全員自己紹介/質疑応答
 5:00 閉会
 ■夕食会 6:→8:30(希望者のみ)
 会場「滝の湯ホテル」1F膳の間 ☎0236-54-2211
 大会会場から徒歩5分。
 ■会費 ¥6,000
 ■宿舎 『天童パークホテル』を斡旋。
 天童市東本町2-53 ☎0236-54-0456
 シングル¥4,400/ツイン¥9,000
 大会会場から徒歩5分。
 ■観光 5月5日(日) 新緑に萌える鳴子方面と熱帯植物園等を見学。参加費¥3,000(昼食代を含む)
 ■申込 大会、夕食会、宿舎、観光の申込はハガキまたは電話で下記へ4月20日頃までをお願いします。
 〒999-51 山形県新庄市大字萩野82
 柴田光明 ☎0233-25-3261
 ■その他 山形支部の5月の月例会は中止。仙台支部は平常どおり5月の月例会を開催します。

毎年開催している合同支部大会の第12回目を今年も実施します。美しい大自然に囲まれた名高い将棋の駒生産の町・天童にてまたも開催される素晴らしい支部大会セミナーへ多数ご参加下さい。久保田先生と遠藤講師の熱のこもったご指導により、一挙に地球的睡眠から宇宙の覚醒へと導かれるでしょう。UFOの出現した天童でまたも驚異のハプニングが発生するかも?

観光は天下の景勝地・鳴子と熱帯植物園へ。両支部会員一同心をこめ暖かくお迎えします。

天童市中央公民館



第8回 旭川・札幌合同支部大会

- 日時 1991年6月23日(日) 午後1:00→5:00
 ■会場 『旭川ターミナルホテル』6F
 ☎0166-24-0111
 JR旭川駅前(下の写真中、左側は旭川駅、右側が会場のホテル)
 ■会費 ¥2,000(全員記念写真代は送料共¥1,000を別納——希望者のみ)
 ■プログラム 司会: 伊藤重信
 1:00 両支部代表挨拶/川上三秀・高野省志
 1:15 支部会員講演/島田幸典
 1:45 講演「浮上するアダムスキー問題と幸福をつかむ方法」/日本GAP会長・久保田八郎先生
 3:00 全員記念撮影/休憩
 3:30 全員自己紹介/質疑応答
 5:00 閉会
 ■夕食会 6:00→8:00 同ホテル6F別室(希望者のみ)
 ■会費 ¥6,000
 ■宿舎 『旭川ワシントンホテル』を斡旋。
 旭川市1条6丁目 ☎0166-25-3311
 シングル¥5,500/ツイン¥10,000
 ■観光 6月24日(月) 拓真館(前田真三氏写真ギャラリー)、美瑛丘陵地帯、十勝岳等を周遊。9:00出発→午後2:00解散。参加費¥2,000
 ■申込 大会、夕食会、宿舎、観光の申込はハガキまたは電話で下記へ6月10日頃までをお願い致します。
 〒070 北海道旭川市神楽6条8丁目
 川上三秀 ☎0166-61-0044
 ■その他 6月の月例会は中止します。

北海道も負けてはいません。今年もまた久保田先生を迎えて雄大な大自然の展開する土地で合同支部大会を開催します。先生に親しく接して素晴らしい宇宙哲学その他の秘話を聞き、アダムスキー問題の真意を汲みとって、宇宙的な境地に到ろうではありませんか。翌日の観光では写真家として名高い前田真三氏のギャラリーを見学し、美しいラベンダーの美瑛丘陵地帯を散策、十勝岳に登って清純な空気をたっぷり吸いませう。観光を兼ねて多数ご参加下さい。一同暖かくおもてなし致します。

旭川ターミナルホテル



本誌バックナンバー掲載記事目録

※印は絶版。在庫なし。お申し込みの際は郵便振替にて日本GAP宛ご送金下さい。バックナンバーに限り送料は不要です。

No.111 平成2年10月25日発行 ¥900

高度に進化した金星人の実態——G.アダムスキー
金星から転生してきたイエスの大地へ——久保田八郎
長野県に出現した巨大母船型UFO——村田正道
美しいUFOが赤城山付近を飛ぶ——番場博次
松本市にもフットボール型UFO——茶谷健一
北海道に現れたアダムスキー型円盤——堀江健一
私のテレパシックな不思議人生——郡司典子
UFO-宇宙からの完全な証拠⑬——ダニエル・ロス

No.110 平成2年7月25日発行 ¥900

UFOの正体と観測の仕方——本誌編集部
UFO・異星人との遭遇体験記——藤本定雄
宇宙哲学で奇跡を起こして安全に生きる方法——久保田八郎
西郷隆盛の最期を透視——遠藤昭則
アダムスキー秘書との対話——向井 裕
アメリカGAP発足ノ(完)——ダニエル・ロス
UFO-宇宙からの完全な証拠⑫——ダニエル・ロス

No.109 平成2年4月25日発行 ¥900

豊かで素晴らしい他の惑星と生命の連続——G.アダムスキー
UFO、朝霧高原に出現ノ
デザートセンター円盤着陸事件②——久保田八郎
強烈に輝くUFOを見た私たち——川野綾子
オーラ、宝石、超魔術、チャネラー——遠藤昭則/秋山眞人
「アメリカGAP」発足ノ——ダニエル・ロス
UFO-宇宙からの完全な証拠⑪——ダニエル・ロス

No.108 平成2年1月25日発行 ¥900

地球へ救援に来るUFOと転生の法則——G.アダムスキー
奇跡をもたらす「生命の科学」——久保田八郎
超能力開発の新しい視点——秋山眞人
潜在意識としてのDNA——N.H.M.D.
私は巨大な母船を見た——小瀬村美美子
私についてきた光るUFO——郡司典子
GAP海外旅行で目撃した数々のUFO——中根 豊
ロイよ、来て助けてくれノ——久保田八郎
UFO-宇宙からの完全な証拠⑩——ダニエル・ロス

No.107 平成元年10月25日発行 ¥900

テレパシー開発法とUFOの実態——G.アダムスキー
マチュピチュとナスカの謎——久保田八郎
私はペルーでUFOを見た——富岡設子
アダムスキーに会った唯一の日本人⑧——向井 裕
超能力開発の基礎レッスン——斉藤庄一
宇宙哲学を生かした超能力開発法——遠藤昭則

No.106 平成元年7月25日発行 ¥900

金星から知的メッセージを受けたマリナー2号——G.アダムスキー
アダムスキーに会った唯一の日本人⑦——向井 裕
宇宙哲学で奇跡を起こす方法——久保田八郎
ヒーリングとテレパシー——遠藤昭則
テレパシー現象の医学的考察——N.H.M.D.
UFO-宇宙からの完全な証拠⑨——ダニエル・ロス

No.105 平成元年4月25日発行 ¥900

デザートセンター円盤着陸事件——久保田八郎/篠芳史/坂本貢一・茂子
アダムスキーに会った唯一の日本人①——向井 裕
過去生透視法とその実例②——遠藤昭則
輝く星々の彼方へ——斉藤庄一
長野県に巨大UFO出現!——博田文喜
UFO-宇宙からの完全な証拠⑧——ダニエル・ロス

No.104 平成元年1月25日発行 ¥900

UFO問題と世界の運命——久保田八郎
アダムスキーの宇宙的カルマと異星人の援助——アリス・ボマロイ
デザートセンターで円盤着陸痕跡発見ノ——安藤澄雄/久保田八郎
過去生透視法とその実例——遠藤昭則
UFO-宇宙からの完全な証拠⑦——ダニエル・ロス
GAP活動の原理——ダニエル・ロス

No.103 昭和63年10月25日発行 ¥900

アダムスキーの体験は真実だったノ——アリス・ボマロイ
我らの惑星に愛と希望を——久保田八郎
カイロ上空に輝くUFOが出現——伊東芳和
私のUFOコンタクトと宇宙的目覚め——富岡設子
UFO-宇宙からの完全な証拠⑥——ダニエル・ロス

No.102 昭和63年7月25日発行 ¥900

UFO目撃で驚嘆、大変化した私——後藤泰二
仙台市上空にUFO長時間出現——遠藤昭則
富士山周辺でテレパシーに感えるUFO群——長沼宏志
ミラクルワードとイメージ法で奇跡を起こす——田中 正
良い想念であなたの環境は良くなる——
UFO-宇宙からの完全な証拠⑤——ダニエル・ロス

No.101 昭和63年4月25日発行 ¥900

宇宙的家族のUFO目撃の日々——坂本茂子
精神的指導者に対する警告——G.アダムスキー
円盤の窓から手を振る「異星人」——齊藤庄一
長野県に出現したUFOの大量——博田文喜
頻繁なUFO目撃と超能力体験——佐々木八郎
UFO-宇宙からの完全な証拠④——ダニエル・ロス

No.100 昭和63年1月25日発行 ¥900

UFO問題とアダムスキー——久保田八郎
富士山二合目から目撃したUFO——遠藤昭則
私はこうして超能力を開発した——坂本正廣
アメリカの不思議な土地——水野和彦
UFO-宇宙からの完全な証拠③——ダニエル・ロス

No.99 昭和62年10月25日発行 ¥700

UFO-宇宙からの完全な証拠②——ダニエル・ロス
山中湖畔で空中を飛んだ自動車ノ——清水 南
富士山にUFOが大挙出現——清水敏恵
〈写真〉大分市上空のUFO——
アダムスキーの大地とマヤの国へ——久保田八郎

No.98 昭和62年7月20日発行 ¥700

木星の衛星イオに古代都市跡を発見ノ——
UFO-宇宙からの完全な証拠①——ダニエル・ロス
静岡市上空にUFO頻繁に出現——遠藤昭則
太陽系惑星にまだ仲間がいる?——
連夜のテレパシー送信に応じて出現した円盤——片岡 豊
万物の実体と想念の重要性——知念清邦
私は別な惑星へ行ってきたノ(最終回)——春川正一

* No.97 昭和62年4月20日発行 ¥700

驚異の「生命の科学」と円盤大接近——伊藤達夫
八王子市でUFOを撮影——降旗和彦
別な惑星の偉大な人類と文明——G.アダムスキー
私は別な惑星へ行ってきたノ④——春川正一



Dear KUBOTA!

The year 1990 was a good one for IGAP Denmark. We published a great, beautiful book: UFO'S MYTH OR CULTUREL SHOCK? (264 pages), and half of the edition has been sold by now.

It was the year in which we planned and organized the second IGAP meeting with an international lecturer. The meeting was in October and the lecturer was HACHIRO KUBOTA, GAP JAPAN, who lectured on George Adamski's cosmic philosophy practiced in Japan.

It was a great event and a great success!

I wish of all my heart that the cosmic spirit will grow and be a part of the daily lifestyle in the Danish society.

I wish for the future that many good people around the world will unite and support our important GAP program.

And with these words I wish you, my friend, your family and friends a Merry Christmas and a Happy New Year!

Sincerely yours

Is Lulund
Is Lulund.

J
U
L
E
N
1
9
9
0

デンマークGAPからの メッセージ

1990年はデンマークGAPにとって良い年でした。こちらでは素敵な美しい書物『UFOの神話、それともカルチャーショックか?』(264頁)を出版しましたが、すでに初版の半分は売れています。

また今年は国際的な講演者を招待して第2回目のGAP大会を企画しました。この大会は10月に行なわれ、講演者は日本GAPの久保田八郎でした。彼は日本で実践されているジョージ・アダムスキーの宇宙哲学について講演しましたが、これは素晴らしい大会で大成功でした!

私は彼の宇宙的精神が広まって、デンマークの社会で日常の生き方の一部になることを心から望んでいます。またこれから先、世界の多数の善良な人々が一体となって私達の重要なGAP計画を支持されればよいと思っています。

以上のご挨拶とともに、私の友人、皆さん方のご家族、お友達の方々に「メリー・クリスマス」と「新年おめでとう」の言葉をお贈り致します。

イブ・ラウルン

(注=昨年12月下旬デンマークGAP会長ラウルン氏が各国の関係者に送った年末の挨拶状)

英文版「UFO contactee」No.6

B5/12頁/コート紙使用/¥500(送料¥1万/3冊まで¥250)

世界のUFO研究界で注目的になっている日本GAP発行英文版ユーコンは、Space Brothers 派のUFO研究団体や欧米の個人研究家の間でも絶賛。No.6では春川正一氏の宇宙的体験談の連載記事第4回分、アダムスキーの質疑応答、アメリカGAP会長ダニエル・ロス氏のニューズレターからの抜粋、その他の有益な記事写真を満載。重要な保存資料となるものです。久保田八郎・坂本貢一執筆の記事を米人学者が校閲。流麗な英文は英語学習用にも好適です。注文は振替か切手(低額)でどうぞ。 =日本GAP=

編集後記

●デンマークの大会で痛感したことは人間の思想の多様性です。各人の価値観や信ずる事柄は千差万別であり、当方の話の内容を理解させることの困難を感じた次第です。

●ビクター・セン氏が語る秘話はアダムスキーの天衣無縫な行動を如実に伝える貴重な記録です。ア氏に対しては謹厳実直な聖者のイメージを描いていた人は意外性を感じてしまう人が間味溢れる側面をのぞかせています。

●UFO問題も混沌としていますが、一九九三年頃にはUFOや別な惑星群の来歴が漏れてくるようになり、来世紀に入ればアダムスキーの伝えた地球外文明の存在が常識化してくるという情報があります。素晴らしいことです。頑張りましょう。

●今年のUFO観測会は各支部で同日に全国に分散して実施することになりました。31ページをご覧の上、多数ご参加下さい。

●今年2月より東京月例会は毎月第一日曜日に変更しますからご注意下さい。詳細は巻末の「全国月例会案内」をご覧ください。

●会員で住所変更の方は必ず会員番号と旧住所を併記して下さい。会費切れの方はあと二回までは送本しますが、その間会費納入のない場合は自動的にオミットされます。

●UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きの苦しい方は面談して下さい(心霊は不可)。

●本誌は多数のボランティアにより全国の主要書店に卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。(K)

日本GAP機関誌・季刊 春季号
UFO contactee 112号

編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
〒130東京都江戸川区本一色1-12-151
電話 03-3651-0958
振替 東京4-359112
一九九一年一月二十五日発行
定価九百七円(本体九〇〇円・送料七〇円)
※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断転載を禁じます。

絶賛発売中

新アダムスキー全集

全8巻全面改訂・新装普及版刊行開始!

久保田八郎訳・各四六判

超絶した大文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた。UFOや惑星群の驚異の実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性和真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最終決定版。

アダムスキー／

① 第2惑星からの地球訪問者 352頁・定価1980円

UFO研究家として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に著陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者みずから円盤や母船に乗り組み、他の惑星の超絶的大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

アダムスキー／

② 超能力開発法 (テレパシー、遠隔透視その他) 192頁・定価1300円

世間に伝播する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感じ、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文獻。

アダムスキー／

③ 21世紀/生命の科学 208頁・定価1300円(第3回配本)

アダムスキーが他界する前年に出した12分冊の講座を一番にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び霊界通信の誤り等を科学的に解説した超能力開発指導書。心霊現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第5巻の続編として必読のテキスト。

アダムスキー／

④ UFO問答100 216頁・定価1300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混迷した世界のUFO研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

アダムスキー／

⑤ 金星・土星探訪記 380頁・定価2400円

アダムスキーが母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と木星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわったじきまメリーとの劇的な対面が圧巻。第2部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎訳の多数の書簡を収録。

アダムスキー／

⑥ UFOの謎 262頁・定価1980円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文獻。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が克明に描写されていて1960年代のUFO研究界の実情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第1巻の続編。

アダムスキー／

⑦ 21世紀の宇宙哲学 148頁・定価1030円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド(心)と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第5巻、6巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

アダムスキー／

⑧ UFO・人間・宇宙 370頁・定価2400円

アダムスキー支持活動団体として世界のトップクラスをゆく日本GAPの機関紙に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が圧巻。第2部には訳者・久保田八郎が再三渡米してアダムスキーの今はじき高第たちと接したインタビュー記事を収録。

【ご注文のしおり】

全国の書店で発売致しております。店頭品切れの際は、「巻数・書名・定価・出版社名」をそえて書店にお申込みください。お買い求めにご不便な方、お急ぎの方は、直接出版社に「巻数・書名・定価・冊数・住所・氏名・電話」を明記の上、下記宛にご注文ください。

●ご送金は、便利な郵便振替「口座番号 東京8-66324」か現金書留または小額の切手(100円以下)でも結構です。その際、定価に送料310円を加算した金額をお送りください。

〒104 東京都中央区京橋3-7-13 CAP 中央アート出版社

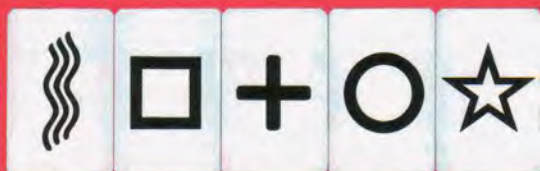
TEL.03-3561-7017(代表) FAX.03-3561-7018(営業)

A テレバシー能力開発用

ESPカード

このカードはアメリカのテューク大学で研究開発された超能力開発練習用として最適のものです。5種類の図形カードが各5枚ずつ、計25枚1セット。堅牢な厚紙製。重さ40gの軽量。ポケットに入れて携帯に便利。使用説明書付き。

¥900 送料¥120(2~5個¥175)



F 日本GAP能力増進テープ

毎月開催される日本GAP東京月例研究会セミナーから、久保田会長の解説講義と遠藤講師のテレバシー開発指導などをカセットテープに録音したもの。絶大な信念と勇気がわき起こり、宇宙のカルマ形成に役立ちます。
テープ① 1991年度は久保田会長による新アダムスキー全集第2巻『超能力開発法』の解説講義。近況報告。120分テープ1本。
テープ② 遠藤講師のテレバシー開発指導。質疑応答。120分テープ1本。



① ¥1300 送料¥175

② ¥1000 送料¥175

①②共ご注文の場合は送料¥250
★上記カセットテープの注文に限り下記へお願いします。(〇年〇月分と明記下さい) 前年迄の編集内容と異なります。

日本GAPでは取扱いません

◇申込先◇

〒133 東京都江戸川区本一色1-24-3-202
松村芳之 ☎03-3653-9387
振替/東京0-162644

G 日本GAPビデオ



今年から日本GAPのイベントをビデオにして頒布することになりました。各巻VHS、画像は鮮明です。

『東京月例会セミナー』 ¥4000

久保田会長解説講義と遠藤講師の超能力開発指導。全1巻120分。(毎月内容が変わります)

『1990年度日本GAP総会』 上下各¥3000

(上) 原家倉氏の講演

(下) 久保田八郎会長の講演

『デンマークGAP大会』 上下各¥3000

(上) 久保田八郎会長の講演(英語)、その他。

(英文テキスト、日本語訳文付き)

(下) デンマーク探訪記

※送料=1本¥360・2本¥510。

日本GAPでは取扱いません

◇申込先◇

〒162 東京都新宿区喜久町36-18
喜久マンション103
伊東芳和 ☎03-3351-9526
振替/東京4-13811

B

① オーソン肖像写真



② シンボルマーク



①は新アダムスキー全集『第2惑星からの地球訪問者』に出てくる金星人オーソンの肖像。目撃者アリス・ウェルズ女史のスケッチに基づいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた等身大の油絵のキャビネ判写真。10.5cm×17cm

②は金星のシンボルマーク。中央の眼は万物を見透すパワーをあらわし、周囲の4層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。手札判。9.3cm×8.8cm

① ¥1000 送料¥120

② ¥500 送料¥62

①②共ご注文の場合は送料¥120

C



.....GAP特製.....
テレホンカード

すでに3種類のテレホンカードを出した日本GAPが放つ第4弾。アダムスキーの肖像を入れた上品なデザインのカード。

①②③は品切れ絶版。

1枚 ¥1500

送料10枚まで ¥62

D



会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザインのバッジ。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射して輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジどめ式。女性用は安全ピン式。ご注文のさいは、いずれかを明記して下さい。

1個 ¥2000

送料4個まで ¥120

実物径17mm。

E

《新製品》GAPキーホルダー

多数の方の要望に応じて製作したGAPオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲をWITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)の金文字が取り巻く優美なデザイン。常時携帯すれば宇宙のフ



ィーリングを失いません。メダル部分は径32mm、全長90mm。

1個 ¥1900

送料¥120

FIG以外の品のご注文方法

住所・氏名・電話番号・商品番号・商品名・種類・個数等を明記の上、郵便振替または現金書留で日本GAP宛お申し込み下さい。代金後払いのご注文も承ります。ハガキに必要事項をご記入の上、投函して下さい。品物を

お送りするときに専用振替用紙を同封しておきますから現品到着後、それを用いて郵便局よりご送金下さい。振替送金は当方へ届くまでに約1週間かかります。(この欄の商品はすべて消費税は無関係です)

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511 日本GAP ☎03-3651-0958 振替/東京4-35912

日本GAP全国月例研究会案内

支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※今年2月より毎月第1日曜日に変更。	上野公園内「東京文化会館」4F 大会議室。 ☎03-3828-2111。JR上野駅「公園口」改札口の真向かい。 連絡先＝日本GAP本部 ☎03-3651-0958	会 場 費 ¥500 セミナー 受 講 料 ¥1000 計¥1500	1:00→1:30 会員による体験講演。 1:30→3:00 久保田会長による講義。 テキスト＝「超能力開発法」 3:10→5:00 遠藤講師によるテレパシー開発練習／近況報告／質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先＝平塚和義 ☎06-436-3478	¥300	東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。 テキストその他＝東京本部に同じ。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00 ※会場は4月より右記の新築場所に移動。 要注意。	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」 ☎025-244-6766。JR新潟駅より徒歩5分。 連絡先＝星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同 上
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141代。 JR東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩5分。 連絡先＝林 国宣 ☎0586-45-6468	¥300	同 上
仙台支部	毎月第3日曜日 午後1:10→4:20	仙台市青葉区1番町4丁目「141(イチヨンイチ)ビル」内5F 「エル・パーク仙台セミナー室」☎022-268-8300。仙台駅よりバスで県庁市役所前下車、三越デパート隣。 連絡先＝笠原弘可 ☎022-295-0725	¥300	同 上
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※5月は大会のため月例会は中止。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0263-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市役所の裏側。 連絡先＝柴田光明 ☎0233-25-3261	¥300	同 上
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時・会場は不定につき、高野宛問い合わせること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821。 連絡先＝高野省志 ☎011-783-6393	¥500	同 上
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00 ※6月は大会のため月例会は中止。	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」3F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先＝川上三秀 ☎0166-61-0044	¥500	同 上
青森支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	青森市松原「青森市民文化センター」教養室。 ☎0177-34-0163。 連絡先＝田村嘉彦 ☎0177-38-0416	¥500	同 上
沖縄支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	具志川市栄泉野比1213-1「具志川市野外レクセンター」会議室。 ☎09897-2-7722 連絡先＝比嘉政広 ☎09893-3-2889	¥500	同 上
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先＝伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥500	同 上
横浜支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」7F 703号室。 ☎045-681-6511。JR関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。 連絡先＝清水 正 ☎048-866-7048	¥500	同 上
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集会室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先＝清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	同 上
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番町「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253。 連絡先＝博田文喜 ☎0263-58-8510	¥500	同 上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※代表が長期療養のため月例会は当分休会。	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」1F相談室。 ☎0735-21-2760。JR西日本新宮駅下車、徒歩5分。 連絡先＝(副代表)小川隆志 ☎0735-32-2834	¥300	同 上
栃木支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿沼市市役所裏「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km。市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩5分。 連絡先＝渡辺克明 ☎0289-62-3319	¥500	同 上
南九州支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿児島市与次郎2丁目3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111。 連絡先＝鶴田清則 ☎0993-25-4398	¥500	同 上
高松支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	高松市玉藻町9番10号「香川県民ホール」5F第1会議室。 ☎0878-23-3131。JR高松駅より徒歩7分。 連絡先＝関 高明 ☎0875-72-2698	¥400	同 上

「マインドパワーの開発」で充実した人生にこれらを簡単に現実のものにしてくれる驚くべきテープがアメリカからやってきました。アメリカの著名な心理学者S・ハルパーン博士の開発した「サブリミナルプログラム」がそれ。なにせ美しいBGM音楽を聴き流しているだけで確実な効果があるということですから、これを利用しない手はありません。



あのハルパーン博士が
あなたのために制作ン

た人達……これらを現実の物にしたい。これはどんな人でも多かれ少なかれ持っている共通の願望でしょう、ところがこの夢をいとも簡単に表現してしまふテープがアメリカからやってくるのです。それがアメリカには知らない人はいないほど有名な心療博士スティーヴン・ハルパシンの博士の手によるサブリミナルテープは、米国で昨年一年間だけで五十万本という驚異的ペースでテロを続け、その確かな効果が実証されています。

BGMとして聴く

このサプリミナルテープ、耳に聴こえるのは、うっとりするような美しいメロディーの心がゆつとりとくつろいでくる静かな音楽だけです。

（日本の曲に似ていへば、喜多郎の音楽にイメージが似ている。この音楽だけでもストレスを解消し、気分がさわやかにすすむような効果がある）しかし、実はこの音楽にハルハル博士が関与した他に、真似のできない高度な音響学テクノロジーを駆使してある心理学的な要素のメッセーじが耳に聴こえない周波数に変換されて入っている。潜在意識に独特の刺激を与える音楽の波長が、耳に聴こえないメッセーじの波長を潜在意識へ運び、植えつけてしまう。）

この音楽が交って入っている。耳に聴こえない心理学的メッセーじが、ただテーマの音楽を聴いているだけで、潜在能力が開発される。充実した人生、歩み始める。という現象を引き起こす秘密なのです。

本を読んだら興味に熱中している時に、BGM音楽として聴き流しているだけで、夢がかなってしまう。——ここのアメリカの苦勞している科学的プログラムが、ついに日本の皆様にもご利用いただけるようになったのです。

商品お申込みの方には、**試用テープを無料進呈**！
案内書請求

① マインドパワー・潜在能力を開発
マインドパワーシリーズ(MPDシリーズ)

あなたはと体をゆつたりとみ
まほしく不安・緊張と心体の疲れを
取り除いてくれる平穏の感覚の α 波
BGM音楽に、あなたの意識を拡大
し、精神力・マインドパワー^①や秘め
られた潜在能力を自然に開発する
サプリメント・メッセージを同調さ
せてください。このMDシリーズで
世の人が帰ってその日の疲れを癒
したい時、日常生活のわずらわし
さを、

そんな時にMDシリーズをBGM音
楽としてお楽しみ下さい。各種の瞑
想法で得られる、意識の拡大・ α 波
レベルの脳波の進化^②の安心が、
秘められた潜在能力の開発と、精神力
の強化・人格の向上^③等の、精神力
効果が得られ、より大きな人間に成
長してゆく自分を含めて以上に拡大
していく人生を手に入れることが可
能です。

A woman with dark hair is sitting on a light-colored sofa, reading a book. She is wearing a light-colored, patterned cardigan over a dark top and light-colored pants. A blue cushion is visible behind her, and a small red object is on the floor to the left.

MDシリールズのお話をするテーマの内容が、完全な不安や「意識」の拡大・拡大する目ざの出現、無限大の心・宇宙意識の目覚め、人間性・人格の同一・愛と慈悲のエネルギー・精神力の強化・偉大な潜在能力の開発・業力との関係・自由自在な思考力・無限の知恵の獲得

（このシリールズのサブミナルテープのベース音には、ハルパーン博士の友人であるヤソスの宇宙音響学をいかに素晴らしい調音音楽が使われています）

●ステューヴン・ハル博士のプロファイル●



學者であると同時に、理想世界的な神様としての我々には、
潜在在る最も作用の研究で世界的にその名を知られた
バクシンにその名を知られ、世界的なファンを数多く持つ
博士は種費用の少ないとも高く評価されているが、博士
のエッセイが疑難とした。音楽の素としての才能も、博
心理・教育関係者の間で高い評価を受けている。な分野
で博士の音楽を取り入れている。カイザー・パーマー博士
博士をはじめ全米の一流の区保健機関では、博士の音楽を運
品の代わりとして患者に与え、著しい効果を生み出している。

2 現状を打破し充実した人生を
充実人生シリーズ(HIシリーズ)

「今のままでいいんだけど」「もうつと充実した人生を送るために何かをしなれば……」アそう心の中で
は感じていた人だけれど、現状を打破する第一歩踏み出すキッカケをつかめず「毎日情性に引きまわられて何となく過してしまっている」といふ方にお勧めするのがH・Lシリーズです。

めに必要な能力や行動力を、自然と身に付けられるよう、魂に響かせるような美しい音楽にまぎれたザビリス・ミラ・メッセージが、あなたの潜在意識にやさしく語りかけます。

就寝前や「ちょっとBGM音楽でも流そうかな」と思った時に「H・Lシリーズ」を軽いBGM音楽とお楽しみ下さい。

現状から抜け出し新しい人生に向けて第一歩を踏み出す動機づけと、毎日がワクワクするような胸のときめきを覚える充実した人生を送るため



の内容は、現状を打破する●目標
計画づくりの習慣、性からの脱却
●最高の人生を●自分の可
性●読書の習慣●必要
な読書●勉強の姿●毎日ベス
を●プロフッショナルをめ
す●向上意欲の進化●究極に
人生を生きる●大なる未来
（このシリーズには）各
プログラムは付いてません。各
プログラムともA面B面を透
してお使いになれます。
※このシリーズには、究
極人生セプトシートが
付いています。

今なら無料試聴でき特別価格で購入できます

MSDシリーズ、HLSシリーズでは一年間の会員制の頒布会費としてお届けします。お申込後、毎月各テーマ別のテーマを二巻ずつ送付いたします。お支払いは毎月テーマ到着後、4,800円（送料300円）。第一回目およびその以降もテーマ到着後5日間の無料の申し込み期間があります。

※注意：このサブリミナルテープは通常は一巻7,800円で販売されています。今回の頒布会費は特別価格で、サブリミナルテープは聴いた人に確実な影響を与える強力なものです。内容が格別です。第三者に無断に聞かせたりは絶対に避けさせていただきます。

又、途中退会も自由です。

（お申込みは、**官製六ヶ市電話で今すぐ**）

住所・氏名・年令・職業・電話番号を明記の上、「**□□シリーズ**試験券

●「高専」で紹介したシリーズ以外にも、関連する書籍と「魅力的性格シリーズ」等のシリーズがございます。
詳しい案内書を希望の方は、お電話あるいはおハガキで案内書をお申し込み下さい。

〒107 東京都港区南青山1-26-1
アメリカ・ロイヤリティ・社（株）係
電話東京 03(479)5864
(受付AM 8:PM 24) 日曜日・受付中
お申込み下さい。

※「案内書希望」と記載したお申し込みは、案内書をお送りいたします。

今、お申込みの方、案内書請求の方に先着500名
サブリミナルテープ本を無料プレゼント中!!

今、お申込みの方、案内書請求の方先着500名に、
ハルパン博士制作の心身をつくらせ、脳の活
性化にもつよい、アメリカで人気のサブリミナ
ルテープをプレゼントしています。

UFO contactee
12号
一九九一年一月二十五日発行
発行所
日本CASA
〒330東京都江戸川区本一色1-2-111 奥野東京ビル3F（奥野ビル）

先着500名様限り、下記までお電話・おハガキで!!

サジェストロニクス・ラーニング

超高速英語学習テープ1本 無料進呈!!



『短期間に英会話をマスターしたい』『ほんとうにしゃべれる英語を身につけたい』『楽しく聴けて、しかも飽きのこないテープがほしい!』——そんな方にぜひおすすめします。

BGMとして楽しんでいるだけで

『自然に英語を口ずさみ始める』

●BGM感覚で聴き流しているだけで、自然に英語が身についてしまうという、ブルガリア出身のI・バルザコフ博士の手になる超高速英語学習テープ『サジェストロニクス・ラーニングテープ』がアメリカからやってきました。

●実際の効果を試せる「試聴用デモテープ」を、この広告をご覧の方、先着500名様に無料で差し上げます。今すぐお電話・おハガキでお申込み下さい。

今、ブルガリアのロザノフ博士が創始した、音楽、イメージ、リズム等々を使った画期的な超高速学習法が、カナダ政府で公式に採用されたのを始め、世界中の注目を集めています。

そのブルガリアのロザノフ博士の研究所で語学教師を勤め、現在アメリカで高速学習法の権威として活躍中のバルザコフ博士が、英語に頭を痛めている日本人のためにブルガリアで身につけたノウハウをすべて注ぎ込んで作り上げたのが、サジェストロニクス・ラーニングテープです。

サジェストロニクス・ラーニングテープとは、モーツァルト、バッハ、ビバルディ等々のクラシック音楽に、ブルガリアで特訓を受けた加速教育ナレーションの専門家が独特の技法

◀I・バルザコフ博士



を用い、音楽と絶妙のハーモニーをかし出しながら、3パターンのナレーションを吹き込んだ特殊な学習テープ。

「歌の歌詞を憶えるように自然に頭に入っていく」「何度聴いても飽きがない」「BGM感覚で、心地よく苦痛なしに聴ける」というのが、このテープの特徴。子供が母親から言葉を吸収してゆくように、自然に体が英語を吸収してゆきます。

難しいテキストが一切なく、BGMとして気軽に聴ける楽しいテープとイメージイラストだけというのも、この超高速学習法の特徴です。



デモ・テープを先着500名に無料進呈中!!

このサジェストロニクス・ラーニングテープの内容、効果を実際に聴いて確かめられるデモテープと詳しい案内書を無料でお送りします。住所、氏名・年齢・電話番号・職業を明記の上、「超高速英語学習法のデモテープ希望」と左記までおハガキ・お電話で今すぐお申込み下さい。(なおデモテープのお申込みは、16才以上の方に限らせていただきます。お申込み多数の場合は先着500名様に限定させていただきますので、ご了承ください。)

〒107 東京都港区南青山1-26-4
アメリカンライブラリー社 105係

●お電話でのお申込みは

東京 03(3)479(6)58864

(受付時間AM8〜PM24 日・祭日も受付中)